

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 新千葉		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (1) 人	保健師等 (2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	39,752			
	高齢者人口	9,460			
	高齢化率	23.80%			
担当圏域 地区課題	一部地域に於いて住民主体の組織が自主活動を通じて主体的に地域づくりを実践している。他の地域に於いても、それぞれの地域特徴を活かした住民主体の地域づくり活動が展開できるよう、あんしんケアセンターとして情報収集や既存の活動団体への支援等を行い住民主体の活動が活発な地域を広げていきたい。				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現在支援を行っている体操教室等の自主化をリーダー格となる存在の育成も含め実施し、地域活動の活性化を目指す。 ・生活支援コーディネーターと連携を図りながら地域ごとのニーズの調査、分析を行い必要な社会資源の把握に努める。 ・住民の多様な心配事（終活、病気、家族問題等）に対応できるよう職員が必要なスキルを身につけ総合相談への対応力を強化する。 				
センター 業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援とインフォーマルサービスの活用を意識した介護予防ケアマネジメントの実施に努める。 ・生活支援コーディネーターと連携を図り地域の社会資源に係る情報の収集と内容の確認を行い必要とする利用者に繋げる。 ・地域課題を把握した上で通いの場等創出が必要な地域への支援のあり方を検討する。 ・介護保険制度改正に係る情報の収集と事業者や住民に対する説明や情報提供を速やかに実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度だけではなく、多様なサービス主体を活用し地域ぐるみでの介護予防支援を目標として年度を通し活動する事ができた。その中で生活支援コーディネーターとの連携は非常に重要であり、必要な社会資源についての情報提供も実行する事ができた。 ・3月に中央東地区部会に於いて地域ケア会議を開催し、社会資源に関するニーズの把握や社会資源の創出への取り組みが開始された所であり、次年度にも継続して取り組んでいきたい。 ・自立支援に資するケアマネジメントの実施についてはセンターだけではなく委託先の居宅介護支援事業所とも連携し意識的に取り組み、次年度以降も継続する予定である。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・終活、病気療養に関する事、家族問題等相談内容の多様化に対応できるよう研修受講や関連する資料の用意を行う。 ・出前講座、民児協への出席等積極的に地域に出向き、センターの役割等周知活動を行う。 ・三職種の連携、朝礼等情報共有の場を活かし、協働による効率的な相談支援を展開する。 ・専門機関に、スムーズに繋がられるようネットワークを構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談支援に関しては三職種間での情報共有、専門性を活かしての意見交換と合意形成により適切に対応する事ができた。特に、困難ケース等に於いては担当者を明確にし、終結が確認できるまで三職種会議等に於いて全員が経過を共有する事で、センター全体として対応する事が可能となり組織的な対応が出来たと思われる。また、多様な相談内容に対応できるよう様々な機関とのネットワーク構築も積極的に実施し、他機関と連携し問題解決できたケースもあり今後も支援のネットワークを広げていきたい。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市高齢者虐待防止マニュアルに沿った虐待事例対応を迅速に行い被害の予防、拡大防止に努める。 ・市民や関係機関への周知活動として虐待防止研修会(事業所対象)、消費者被害防止に関する研修会(住民対象)を計画的に開催する。 ・認知症サポーター養成講座を開催し認知症の方への理解を地域に広める。 ・成年後見制度の活用に関して必要性の判断を行った上でネットワークを活用し必要な専門機関に繋げ迅速に対応する。 ・関係機関とのネットワーク構築を行い支援の輪が速やかに展開できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待事例では、センター内で情報共有・協議を行うことを徹底し、早急に各機関との連携を行い早期解決を図る事が出来た。来期も相談からのケース実態の早急な把握、迅速な対応を心掛け、早期解決を図る。 ・普及啓発活動に関しては、認知症サポーター養成講座を企業や学校に対して数回開催し、認知症の症状や対応策、関係機関へのつなげ方など様々な視点から認知症についての普及啓発活動を行った。また、消費者被害対策として、市民向けに千葉市消費生活センターから講師を招き、消費者被害についての実情や対策などを講義することにより消費者被害の軽減に努めた。今後は、消費者被害についての講座の開催数を増やすなど、更に発展させることを来期の課題としてセンター内で協議を行う。 	
	ケアマネジメント 包括的・継続的 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・中央区あんしんケアセンター主催のケアマネ向け研修会を年2回以上開催する。 ・中央区主任ケアマネ連絡会を奇数月に開催し主任ケアマネ同士の連携を図ると共に主任ケアマネとしての活動支援を行う。 ・担当圏域に於いて、勉強会、事例検討会の開催を目指す。 ・圏域内での多職種連携会議を開催し多職種間の相互理解、連携の強化を図る。 ・センター内外の勉強会や研修会に参加しスキルアップを図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ支援については助言を適切に行い担当ケアマネ自ら問題解決できる「気付き」や「分析する力」等が得られるような支援を心掛けてきた。圏域を問わず委託先居宅支援事業所からの個別ケースに関する相談が電話のみならずセンターへの来所等の形で増えてきたように思われる。 また圏域内居宅支援事業所への訪問による聞き取りや定期的なアンケート実施もしくは多職種連携会議や懇親会等を積極的に行う事で、「顔の見える関係」、「相互理解」、「チームケア」が実現できる体制に繋がるような活動が出来たと思う。 ・次年度においては今年度の評価を基に引き続き関係機関との連携体制構築・強化を図り「顔の見える関係」「相互理解」「チームケア」が実現できる体制や地域を目指すと共に、区の主任ケアマネや生活支援コーディネーターと協働し介護支援専門員の専門性の深化を図りたいと思う。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の体操教室全てでチェックリストと測定を施行する。また定期的に継続し、自身の状態の把握や体操の効果の実感に繋げることで、意欲向上を図る。 ・既存の体操教室の内容の継続や見直しを行う。 ・弁天・春日・汐見ヶ丘地区での介護予防普及啓発を図る。健康課や生活支援コーディネーターとの連携を図りながらあんしんケアセンターの周知と介護予防活動を提案・企画・実施する。 ・地域交流会の自主化に向けた第一歩として、参加者と共に年間予定を立案する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・既存の体操教室では、チェックリストやいきいき活動手帳を活用し参加者の介護予防への取り組みが意識化できたと感じられる。今後は活動手帳を活用しながら内容の充実を図りたいと考えている。 ・介護予防教室では毎回楽しく参加できたと感じられるように脳トレを毎回組み入れる等して実施できた。 ・弁天春日汐見ヶ丘地区での介護予防教室開催はできていないが、あんしん新千葉で行っている。地域交流会への参加は各地域からきているので今後は弁天春日地区の自治会館等で介護予防教室が開催できるとより多くの方の参加が期待できると思われる。 	
	地域活動 介護予防 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会やサロンなどでの介護予防の講話を継続する。 ・継続的に行っている場所では、内容を限定し深めることや最新の内容を盛り込めるよう、内容の見直しを図る。 ・認知症サポーター養成講座を継続して行う。 ・新千葉地区以外での防犯講話・意見交換の場を検討する。 ・元気かい？では今後も月1回、中央区内のあんしんケアセンターと協働で、講話や体操紹介の時間をもつ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・現在 椿森院内祐光地区のいきいきサロンには定期参加できているが他の地域でのいきいきサロン等への参加が出来ていないため参加できるように取り組みたい。 ・個別の地域ケア会議では顔の見える関係づくりができたと感じられる。 ・認知症サポーター養成講座では認知症への理解が深められたとの感想が多く継続したいと考えている。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・制度改正に関する情報収集と事業所に対しての正確なアナウンスを行う事で制度移行に係るトラブルを未然に防止する。 ・リスク管理について都度センター内で情報の共有や、トラブルの未然防止に繋がるヒヤリハット事例の整備等を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・30年度の制度改正に対応すべく研修等による情報収集を積極的に行い、居宅介護支援事業所等からの問い合わせにも迅速に対応する事ができた。 また、センター内での会議、研修の機会を設ける事で個人情報保護や虐待対応、地域包括支援センターの専門職としての見識を深めスキルアップを図る事ができた。 	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 中央		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	44,193			
	高齢者人口	8,337			
	高齢化率	18.86%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> 大きな商業地域を抱える都市部であるため市場サービスは多いが、住民による支え合い活動が極めて少なく、総合事業の住民主体サービスが存在しない。 前年に地域ケア会議を開催した結果、支え合い活動の必要性について関係者は理解しているが、担い手不足に悩んでおり具体的な解決策を導き出せていない。また、関係機関との情報共有や連携、ネットワークの構築について、地域や職種によって温度差があることがわかった。 高齢者人口は一定以上いるのにもかかわらず総合相談が少ない地域があり、センターの周知が不十分である可能性がある。 				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議や地区部会定例会、住民向けのミニ講座等、地域の人々が集まる機会を活用し、総合事業における地域の支え合い活動の大切さについて啓発活動を行う。 地域の人たちが自主的に介護予防に取り組めるよう、関係機関と連携して介護予防教室の立ち上げや活動支援を行う。 相談者数が少ない地域に対し、効果的なセンターの周知活動について検討していく。 				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業についてこれまで研修会等を開催してきたが、まだ一度も参加していない居宅介護支援事業所もある。引き続き圏域内勉強会等を通じて総合事業について周知していく。 民生委員や社協地区部会等の関係機関に対し、総合事業の現状について説明を行い、理解を求める。 住民主体の支え合い活動が創出されるように、総合事業サービスでの位置付けられ方や地域の現状等について地域のみなさんが知る機会を作り、必要性について理解してもらえよう啓発活動を継続していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 短期リハビリ型通所サービスについては、年度当初からの事業の開始とならないことが多い為、基本チェックリストを積極的に実施し対象者の把握に努めていきたい。 地域の特性とも言えるが、地域支えあい活動を位置づける前にすでに支えあいをしている地域も多い。地域住民のニーズ把握を行うことにより、地域に密着したサービスの創出を検討していきたい。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> センターの周知、早期相談につなげるため、広報紙を作成し、一部地域に配布する。 センター内会議で地域の情報共有を継続し、地域診断ファイルの内容を充実させ、総合相談対応時や地域課題の分析に活用する。 総合相談の集計や地域診断により把握した地域課題を、民児協や社協地区部会定例会等の場で説明し、関係機関との課題の共有を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 10月に広報紙を作成し、11月に一部地域ではあるが回覧や掲示を行うことができた。 毎月の総合相談の集計に加え、前期、後期、年間については更に前年度との比較も行い、センター内で共有することができた。 毎月のセンター内会議においてそれぞれの職員が把握した地域情報の共有を継続的に行うことができ、地域ごとの地域診断ファイルにまとめることができた。また、3カ月に1度、圏域内の各地域の高齢者人口、高齢化率を集計し、増減を調べ、センター内で共有することができた。 民児協や社協地区部会定例会等に伺い、総合相談の集計結果や地域診断で把握した情報の共有を行うことができた。 今年度も新宿地区部会便りにセンターの紹介記事を掲載することができた。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待の早期発見につながるよう、居宅介護支援事業所等の関係機関に周知活動を行う。 成年後見制度を適切かつ有効に活用できるように、普及啓発を行い、必要に応じて関係機関につなげていく。 消費生活センターなどの関係機関との連携を継続し、関係機関から得られた情報やインターネット等から得られた情報の周知を行うことで消費者被害の防止に努める。 高齢者虐待が疑われるような相談を受けた際には区担当者等の関係機関と連携し対応を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の居宅介護支援事業所に対して高齢者虐待や消費者被害の情報を周知することで早期発見に繋がるように努めた。 成年後見制度の普及啓発として、地域住民向けの広報紙に成年後見制度の案内を掲載し、一部地域ではあるが回覧や掲示をすることができた。 千葉市消費生活センターを実際に訪問することで、直接情報交換をすることができ、千葉市消費生活センターの機能や相談傾向を知ることができた。 高齢者虐待の対応時には、センター内の各職種や区高齢障害支援課、関係機関と連携して対応することができた。 身元保証等高齢者サポート事業に関する相談が増えてきているため、民間の社会資源を整理する必要がある。 	
	ケア アマ ネジ メン ト支 援	<ul style="list-style-type: none"> 区内他センターと協働し、介護支援専門員を対象とした研修会を開催する。 圏域内の居宅介護支援事業所や介護保険事業所を対象とした勉強会及び研修会を開催する。 居宅介護支援事業所を対象とした定期的なアンケートの実施、回答内容を分析する。 地域ケア会議等を活用し、関係機関との地域課題の共有・発見、ネットワークの構築を行う。 地域ケア会議で要介護者の生活状況を共有するしくみを作れないか地域の実情に合った会議開催方法について検討していく。 必要に応じて個別ケースの地域ケア会議を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 2月の中央区介護支援専門員研修では、2会場合わせて110名を超える参加者があった。社協中央区事務所の移転に伴い無償で借りられる会場の収容人数が少なくなり、今後、参加希望者全員を収容できる開催場所の確保が難しくなることが予測される。 多職種連携会議の開催方法を工夫したことで、次年度以降の開催形式や取り組みたい課題を具体的に検討することができた。今回の会議で出た意見をもとに次年度以降の会議内容を決めていきたい。 今年度は地域ケア会議のほか、地域支え合い活動やネットワーク構築について、社協中央区事務所や生活支援コーディネーター、地区部会、民児協等と具体的な話し合いの場を持つことができた。まだ具体的な活動というよりはニーズの把握や住民向けの啓発活動となっているが、地域性に合わせ、将来の活動につながるよう継続していきたい。 3月に圏域内の介護支援専門員向け研修を開催した。会場定員までの申し込みがあり、年々参加者が増えているように感じている。区全体の研修でもアンケートの結果おおむね好評な意見をいただいているが、地域性に合わせ圏域内研修も継続していきたい。 	
	介護 予 防 普 及 啓 発	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談業務や地域活動において基本チェックリストやいきいき活動手帳等を積極的に活用する。 自治会、老人会、社協地区部会等と連携し、地域のニーズに合わせた講座や教室を開催する。 区健康課や他職種と連携し、介護予防に資する基本的な知識を啓発普及する。 地域の高齢者に対して介護予防教室やイベント時に、健康教材を利用したり健康講話、介護予防体操などを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 自治会・老人会・社協地区部会等から依頼があった団体に対しては、講座内容の相談を一緒に行いながら地域のニーズを把握しながら実施していった。 講座内容に応じて、他機関や他職種に講師依頼をし事業を展開していった。主催者側としては、各専門職の視点や手法からの、介護予防啓発普及についてのアプローチを知る機会ともなりとても参考になった。参加者からも、全体の講義だけでなく、内容が充実した個別対応となりとても有効的だったとの意見が多かった。 	
	地域 活 動 介 護 支 援 予 防	<ul style="list-style-type: none"> 地域の参加者主体の介護予防活動となるように、民生委員や役員さんたちと協力したり、ボランティアさんへの声かけ、役割分担の確認など具体的な活動の支援をしていく。 介護予防サークル活動の中心となる地域住民と連携し、継続して活動に取り組めるような後方支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 参加者主体の活動となるように、年間プログラムの提案をしたり民生委員や役員さん達と相談しながら行った。 既存団体への活動支援は今後も継続していき、必要な支援を行っていく。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座を開催する。 圏域内中学校での認知症キッズサポーター養成講座を開催する。 配置されている認知症地域支援推進員は、行政と連携して千葉市の認知症施策の推進に取り組む。 紹介する居宅介護支援事業所が偏らないようにアンケートやチェック表を活用し、公正中立に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の認知症の理解を深めるために、地域ケア会議やミニ講座等で認知症の人の支援について話し合うことができた。自分が暮らす地域のこととして認知症の人の支援について考えることは、より具体的な理解につながっていくと思われるため、次年度以降も継続していく必要があると考えている。 公正中立が確保されるよう、相談者が自分で選べるように複数事業所を紹介する等、常に配慮している。当センターで決定してほしいと希望される場合があるが、その都度相談者に説明し、自己決定がされるよう支援している。次年度以降も引き続き取り組んでいきたい。 		

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 千葉寺		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	32,297	
	高齢者人口	7,312	
	高齢化率	22.64%	
担当圏域 地区課題	<p>1. 多様な背景を持った方（複数の問題を抱えた家族、身寄りの無い・親族と疎遠な高齢者世帯、他者からの支援や近隣の関わりを希望しない方等）が居住しており、小地域の支え合いや見守り、各種サービス事業所の支援によって生活が継続出来ている現状があるが、社会背景（高齢者の増加、地域組織への加入率の減少）により、専門職と地域住民の連携や地域における支援ネットワークの構築が必要である。</p> <p>2. 圏域内は坂道が多く、大きな街道（大網街道、末広街道）沿いや駅前（本千葉駅、千葉中央駅）に商店や医療機関が集中しているため、足腰が弱くなると生活のしづらさが生じる可能性がある。介護予防への意識はとて高いため、介護予防活動の自主グループの活動継続支援及び立ち上げ支援の必要性がある。</p> <p>3. 認知症についての関心が高く、病気についての理解は進んでいる。ただし、認知症の方の支援体制について、地域差があり、地域住民の中には不安を感じている人が少なくない。認知症についての正しい理解だけでなく、認知症になっても住み慣れた地域での生活を続けられるような地域での支援体制の構築が必要である。</p>		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源や地域特性の把握を行い、地域団体や関係機関と連携をし、地域での支え合いや見守りの輪が町会圏域や地区社協圏域と拡大するだけでなく、支援の層が厚くなり、認知症や障害、病気があったり、介護が必要となっても地域でその人らしく生活できる仕組み・切れ目のない支援の実現を目指す。 ・介護予防に関する活動や取り組みが継続して行えるように各種活動の支援を行い、住み慣れた地域での健康な生活が続けられるよう働きかけを行っていく。 ・認知症や障害、病気があっても住み慣れた地域での生活を継続できるように正しい知識の普及に努め、地域住民がその人らしく生活することが出来る地域を目指す。 		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターと協力し、地域にある資源の情報収集を行い、新たな集いの場の立ち上げを目指す。 ・地域にある社会資源、集いの場についての情報を収集し、その活用について地域住民に発信していく。 ・既存のサロンや老人会等の活動内容が介護予防により効果的なものとなるよう支援を継続する。 ・自立支援に向けたサービスの支援ができるように、介護予防のマネジメントの技術の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中より、配属された生活支援コーディネーターとの連携を図るために月1回情報共有の機会を設けることとした。コーディネーターが専門職配置でないこと、法人外の職員であることより、情報共有方法や地域との付き合い方、センターとコーディネーターとの距離感・業務分担に課題がある。 ・適切な介護予防ケアマネジメント実践（重度化防止、自立支援の視点の強化）のために、センター内の業務分担の見直しを行ったことで、適切なケアマネジメントの一助となった。今後、引き続き職員の知識の向上を図れるように、センター内での意見交換の機会を積極的に設けていきたい。 ・サービス提供可能な事業所が少ない現状により、一部事業所に依頼が偏る傾向にあった。センター内における小まめな情報共有を継続していくだけでなく、地域での支えあい活動の創出のために、生活支援コーディネーターとの連携をしていく必要がある。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な相談を総合的に受け止め、スクリーニング、課題の明確化、関係機関との連携を図り、適切な支援に繋げていく。 ・ケース会議の開催を継続し、専門的または緊急の対応が必要かどうか三職種で検討を行う。 ・見守りが必要な高齢者マップの作成を継続し、的確な状況把握に努める。 ・困難事例に関しては関係機関と連携し個別地域ケア会議を実施する。 ・総合相談内容の分析をもとに地域課題の把握を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップの相談窓口として多種多様化する相談を全て受付し、スクリーニング、課題の明確化に努めた。必要に応じて関係機関と連携を図り、適切な支援やサービスに繋げた。 ・ケース会議を適宜開催し、三職種で支援方法の検討や専門的知識、視点を共有することで、適切な支援を行うことが出来た。また、個々のスキルアップにも繋がった。 ・重点的活動地区で踏査や地域ケア会議を開催し、地域支え合い活動立ち上げへの働きかけを行った。 ・地域の情報をまとめるファイルを作成したが、情報交換の時間やファイル活用が十分ではなかった。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待のケース等の早期発見・早期解決の為に、関係機関と連携し、適切な役割分担を行う。 ・圏域内の中学生を対象に認知症キッズサポーター養成講座を開催する。 ・地域住民や関係機関に対し、権利擁護をテーマとした講演会や勉強会の開催、認知症サポーター養成講座の開催等を行い、権利擁護に関する啓発活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待等の早期発見、早期解決の為に関係機関と連絡を密に取り、必要に応じて訪問や会議を開催し適切な支援に繋げた。 ・認知症サポーター養成講座を圏域内の中学生や企業に対して開催し、認知症の理解が深まるように努めた。引き続き、地域へ向けて認知症についての理解を広めていきたい。 ・地域住民や圏域の事業所向けに権利擁護に関する講習会や勉強会を開催し啓発活動を行った。 ・消費者被害防止に関する情報発信が十分ではなかった為、次年度は周知方法を模索していく必要がある。
	ケアマネジメント 包括的・継続的 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・民児協定例会や社協地区部会会議、自治会等と地域ケア会議を開催し、総合相談内容や実態把握から抽出された地域課題を共有し、潜在化したニーズの発見・解決、ネットワークの構築を目指す。 ・地域において様々な社会資源が連携して地域住民を支えることが出来るよう、多職種連携会議を開催する。 ・地域ケア会議を活用し、個別ケースの解決や自立支援強化のケアマネジメントの実現を目指す。 ・圏域内の居宅介護支援事業所や介護保険サービス事業所に向けて、研修会や事例検討会を開催し、支援ネットワークの構築を目指す。 ・定期的なケアマネジメント相談の機会を設け、圏域内のケアマネジャーのケアマネジメント支援を行い、スキルアップを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や各種機関と連携をし、多職種連携会議を年2回開催し、医療現場の現状や病院から地域への移行時の課題について、専門職間で検討した。次年度の開催方法や今後の展開については、千葉市医師会や在宅医療・介護連携支援センターと検討を重ねていく。 ・圏域内自治会や団体と地域課題について共有・検討を行うことで、地域住民とネットワーク構築を図ることが出来た。 ・圏域の事例検討会の立ち上げを目指し、圏域のケアマネジャーと協力してルール作りを行った。参加者主体の事例検討会立ち上げの布石となった。 ・ケアマネ相談日を設定し、ケアマネジャーに開かれたセンターを目指した。相談件数が少なく、機能が十分に果たされていないため、今後周知をさらに図りたい。 ・区内5センターの主任介護支援専門員と月1回連絡会を行い、ケアマネジメントに資する研修開催に向けて、企画・検討を重ね、3回の開催に至った。連絡会を通して、課題共有、情報交換・検討を行い、ケアマネ支援をより適切に行う一助となった。 ・主任ケアマネ連絡会を通して、区全体のケアマネジャーが抱える課題について話し合うことが可能となり、事例検討会やケアマネサロンの開催に至り、ケアマネジャーの支援の場として地域に定着している中で継続していきたい。
	介護予防普及 啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談や各種教室等で基本チェックリストを実施し、自身の現在の健康や生活について振り返るきっかけを作る。 ・活動がさかんではない地域で重点的に介護予防教室を開催し、楽しさや必要性を実感できる機会を作る。 ・既存の活動団体や開催中の介護予防教室について、生活支援コーディネーターと協力し地域に向けて情報発信する。 ・圏域住民を対象に年2回（4月、11月）近隣の県立公園でウォーキングを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・末広公民館まつりや中央区ふるさとまつりでの働きかけを通して、自身の健康や生活を振り返るきっかけを提供し、介護予防の大切さや取り組みへの意識付けを行った。 ・毎月発行しているあんしんケアセンターだよりは地域住民にも浸透し、紙面を通して介護予防への意識作りが繋がった。 ・毎年開催しているさわやかウォーキングや葛城公民館と連携し実施している健康講座を通して、地域の方々への介護予防の必要性を伝え、参加者の介護予防に対する意識向上へ繋がった。
	地域介護 支援 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・『稲荷町さくら会』『稲荷町すみれ会』が自主グループとして活動が展開していくよう、団体の現状や地域性などを踏まえて活動支援を行っていく。 ・これまで活動を支援してきたサロン及び老人会等についても必要時支援を行っていく。 ・地域住民や生活支援コーディネーター・シニアリーダー等と協力し、自主活動グループの新規立ち上げを目指す。 ・矢作町で立ち上げ予定のシニアリーダー体操教室の参加者の確保と教室の定着に向けて支援を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にサロンや地域活動の場に向き体操を通して、団体が活動することや取り組める場があることの大切さを伝え、住民主体の活動が存在することの意義を知っていただいたり、参加者の役割の意識付けに繋がった。 ・それぞれの団体や組織の背景・現状を踏まえた上でアプローチを行ったことで、自主活動化、又は自主活動の継続に向けて、それぞれの団体が抱える課題や方針について考える意識が住民の中に芽生えた。 ・既存の活動団体の自主活動化に向けチラシを作成した結果、地域の実情を関係各所へ伝えることができた。 ・3センターで連携を図りながら、自主活動団体の後方支援を行ったことで、安定した活動継続に繋がった。今後も引き続き運営が安定するように、後方支援の継続が必要である。 ・定期的に開催される保健師職会議に参加することで、区内5センターの保健師職間のネットワーク構築に繋がりと、それぞれのセンターで抱える課題や情報、解決方法の検討の為のヒントを得ることに繋がった。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市の委託事業であることを十分に理解し、常に公正・中立性の確保に努める。 ・専門性を高め業務に従事できるよう各々が自己研鑽に努める。また、研修に出席できるよう業務バランスの見直しの継続や研修受講後のセンター内での共有機会を積極的に設けていく。 ・個人情報取り扱いについて、定期的に確認を行い、日頃より職員間で積極的に確認を行ない、漏洩のないよう業務に従事する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な介護予防ケアマネジメント実践を目指し、委託先事業所との小まめな情報共有や書類確認の徹底の必要性を再認識した。 ・公正中立性確保の為、職員間での情報共有を密にすることを継続したが、事業所が少ないため、依頼が偏る傾向にあった。情報共有を継続し、センターに求められている役割を果たすことを継続していきたい。 ・職員間で声を掛け合い、個人情報保護について、常に意識をしながら仕事に従事できた。 ・業務バランスの見直しにより、効率性の向上とそれぞれの職種での役割の実践に繋がった。

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 松ヶ丘		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(4) 人	(3) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	67,437			
	高齢者人口	15,943			
	高齢化率	23.64%			
担当圏域 地区課題	<p>高齢者人口の増加に伴い、高齢の単身世帯や高齢夫婦世帯からの相談が多く寄せられている。認知症や精神疾患が原因となって日常生活に支障を及ぼす相談や老々介護、認々介護、経済的困窮といった相談も増加している。</p> <p>高齢者の方に対する地域の見守り、支援体制は整いつつあるが、高齢者の単身世帯もしくは夫婦世帯から高まりつつある生活支援の需要に対しては、住民同士の支え合いといったネットワークの構築が十分に発達するまでにはいたっていない地域がある。また、閉じこもり、引きこもりが原因で日常生活に深刻なダメージを与えているケースもあり、介護予防の観点から高齢者が歩いて通える範囲に「住民同士の通いの場」が必要であるが、そういった社会資源が整っていない地域もあり、今後は地域包括ケア実現のための基盤整備を進めていくため、地域包括支援ネットワークの構築が重要である。</p>				
活動方針	<p>地域に住む高齢者一人ひとりの人生が、より豊かでより充実したものになることを願いながら、地域包括ケアシステムの実現を目指していくとともにその基盤となる地域包括支援ネットワークの構築化に重点を置いて活動していく。地域包括支援ネットワークの構築に向けた活動を行うために、自分たちの圏域である地域の実情把握を生活支援コーディネーターと連携・協働しながら進めていく。また、地域ケア会議や多職種連携会議を開催し、地域、関係機関との連携、結びつきを強めていく。</p>				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者本人が自身の心身機能の状況を把握できるよう基本チェックリストを活用しながら適切なアセスメントを行う。 自らが目標を設定し、達成するための必要なサービスを一緒に検討し、ケアプランの作成を行う。 生活支援コーディネーターや関係機関と連携し、住民主体のサービスやインフォーマルサービスの活用と情報の発信を進めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 適切なケアマネジメント実施を行うことにより、状態の悪化予防に努めることができた。また、地域の活動やインフォーマルサービス等社会資源を活用することにより、介護保険のみに頼ることなく、住み慣れた地域で自立した生活を営むこと、また地域の方とつながるきっかけ作りにもなった。 生活支援コーディネーターと連携し、地域の情報収集や新しい地域が主体となった活動等最新情報も得ることができ、高齢者へ情報提供することができた。生きがい活動に参加される方が増えた。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助技術の向上や必要な知識、情報の取得を図るために積極的に研修に参加し、自己研鑽を進めていく。 出張講座や地域活動の場を通して、あんしんケアセンターの周知活動を行い、地域の身近な総合相談窓口としての定着を図る。 支援困難事例に関しては、複数の職員で対応し、所内会議を開催しながら組織的な対応、支援体制を組むとともに、関係機関との連携、地域ケア会議を活用するなど多方面から支援していく。 地域包括支援ネットワークを構築するため、民生委員や自治会、老人会等と「顔の見える関係」を築きながら地域の実情を把握するとともに、地域ケア会議の開催、社会資源の把握、活用を進め、効果的な支援を展開していく。 		<ul style="list-style-type: none"> あんしんケアセンターの住民への周知のため、年4回あんしんだよりを継続発行しているが、活用方法、配布地域の拡大を検討することが課題となっている。 相談ケースが地域によって差があるのでデータから考察して要因について探る。 地域包括支援ネットワークを構築するために民生委員や町内会の集いに参加して、関係を深めることができた。次年度は生活支援コーディネーターと協働して地域課題の調査を実施し、社会資源を把握するとともに、地域住民に周知する。 支援困難事例は所内会議を通じて共通理解を図り、支援をした。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 虐待の通報や相談を受けた場合は、「千葉市高齢者虐待防止マニュアル」に沿って、速やかに当該高齢者の状況を把握し、保健福祉センター高齢障害支援課と連携を図り、適切に対応する。 成年後見制度を有効に活用できるよう周知に努めるとともに、認知症など判断能力の低下がみられる場合には、家族や親族に制度について説明し、必要に応じて成年後見支援センター等の関係機関につなげる。 消費者被害を未然に防止するため、警察や消費生活センターと連携し、地域の消費者被害に関する情報等を把握するとともに、高齢者、家族、民生委員、介護支援専門員等に向け、情報提供を行えるような体制づくりに取り組む。 地域における認知症への理解を広げるため認知症サポーター養成講座や認知高齢者徘徊模擬訓練を開催していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 消費者被害について講座を開催したのみに留まっていたので消費者被害の情報を居宅介護支援事業所に情報を発信するルール作りをする。講座人数の参加が少ないことが課題なので、場所と周知方法について改めて考察する。 虐待に関して現場での対応に悩んでいる方々に向けて積極的に研修を続ける。成年後見制度や日常生活自立支援事業は高齢者を支える若い世代に向けて発信したいと思う。 エンディングについての相談もあるので、今後は講座の開催についての相談にのれるように情報提供していく。 	
	ケアマネジメント・継続的支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議の開催を続け、地域課題の解決や地域特性や状況に応じたネットワーク構築、関係機関等との相互の繋がりを日常的に築いていく。 中央区のケアマネ向けの研修会、圏域内での事例検討会・研修会を開催し、介護支援専門員への情報提供、資質向上に努める。圏域居宅介護支援事業所への個別訪問を引き続き実施する。中央区主任ケアマネの後方支援を実施する。 多職種協働による地域包括支援ネットワーク構築に向け「地域ケア会議」「多職種連携会議」を開催し、連携体制の構築・強化に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 中央区あんしんケアセンター合同でケアマネジャーの資質向上のための研修会（2回）、中央区主任CM連絡会主催で特定事業所向けに事例検討会（1回）、ケアマネサロン（4回）を開催した。 圏域内では事例検討会（2回）、ケアマネジャーの資質向上のための研修会を（1回）開催した。 個別の地域ケア会議を開催したが、地域課題の視点、資源づくりや資源開発までに発展できていない。 中央区全体での多職種連携会議への出席、圏域での多職種連携会議ではテーマを持って開催することで多職種との連携を深めている。地域の方の参加・協力をいただくことが出来た。 日々の業務の中でケアマネジャーから相談をいただき、行政との連携、同行訪問等を通じて課題に向き合い対応している。 居宅介護支援事業所等関係機関に向けて、研修会のご案内・情報提供を行っている。 居宅介護支援事業所を訪問しケアマネジャーから支援についてのニーズ、不足している社会資源、必要な研修等について意見をいただき、ケアマネジャーの資質向上に繋げ、地域の高齢者の充実した生活の実現に結び付けていく。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> サロンや地域活動支援に積極的に参加し、あんしんケアセンターの周知、基本チェックリストの活用、実施を行い対象者の抽出を行う。 健康増進、感染予防などのポスターやチラシの作成、配布を行い啓発に役立てる。 センターや近隣施設を利用し、ミニ講座や、体操教室を行なう。 生活支援コーディネーター等と連携し、情報を共有し、得た情報を地域にむけて発信していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 元気なうちから健康づくりに取組めるよう介護予防の動機付けや参加を呼びかけ必要な地域資源の案内・提案をいきいき活動手帳を通して少しずつ普及することに取組めてきた。 既存のサロンや地域の活動場所以ていきいき活動手帳を活用しているが、介護予防に取り組むための具体的なセルフケア方法を伝えたり、評価を支援するまでには至らなかった。 公民館や老人クラブ、地域のイベント等で健康増進に関する講座を開催したり、介護予防に関するパンフレット等を配布した。 本年度より圏域に生活支援コーディネーターが配置され、地域の介護予防教室に関するより詳細な情報を共有できるようになった。その情報を基に実際の活動場所に参加し状況の把握に努めているが、高齢者にわかりやすい方法での情報発信が出来ていない状況である。 	
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンや地域活動への参加、保健福祉センター健康課や生活支援コーディネーターとの連携により、地域住民が歩いて通える範囲での介護予防教室の開催（いきいき百歳体操）や通いの場の立ち上げ、情報提供等を行っていく。 シニアリーダー教室の立ち上げとリーダー育成を支援し自主活動の支援を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターと協働し、社会福祉法人の地域貢献事業の一環として施設を活用したシニアリーダー教室の開設・開催をすることができた。多くの参加を得るために、地域の方に回覧板やチラシの配布などで周知を行った。また、第8期シニアリーダー養成講座では圏域内リーダー育成のため講座に参加した。 自治会や老人会、介護施設と連携し、既存の介護予防教室の活動や立ち上げを支援してきた。特に、独居高齢者や近親者のいない高齢者が多く住む地域における介護予防教室においては、身体生活状況の把握も同時に行なっており、見守り支援や閉じこもり防止となっている。 市営住宅においてアンケート調査や住民懇談会を行い、自主活動組織の立ち上げを支援しているが、担い手や活動場所、必要物品等の調整が困難な状況である。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 市の委託事業であるという公的な立場を常に意識するよう職員間で周知・徹底する。公正・中立性を確保するため、特定の事業所に依頼が偏らないように専用ファイルを活用する。 新しく開設する出張所の周知活動を行い、地域の相談窓口としての定着や事業所とのネットワーク構築を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 千葉市の介護・福祉行政の一翼を担う公的機関として運営費用を適切に運用し指定介護予防事業においても提供されるサービスの偏りが無いよう絶えず公正中立を意識し取り組むことが出来た。 	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 浜野		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	24,218	
	高齢者人口	6,213	
	高齢化率	25.65%	
担当圏域 地区課題	この圏域は、緑区に隣接する山側と市原市に隣接する海側に分けられるが、どちらの圏域にも入院できる病院や医療機関、大型スーパーといった生活に密着した施設が少ないことが課題となっている。特に山側については、JR浜野駅が遠いため、車を運転しなくなった高齢者は公共交通機関であるバスでの移動となるが、利用者が減っていることから本数が減少傾向にあり、日常的な移動にも不便になってきている。もともと農業を主産業としていた地域のため、国民年金受給のみの低所得者や高齢者世帯も多く、サービス利用に関しても閉鎖的である。海側であるJR浜野駅周辺では、マンションやアパートといった集合住宅が増えており、人口が増加している一方で、独居高齢者や高齢者世帯も増えている。また、自治会加入率が50%程度となっており、今後の町内会活動に課題がある。 民生委員のアンケート結果から、「気軽に集まれる場所が少ない」「近所付き合いが希薄」「一人暮らしが不安」といった課題が見えてきているが、課題解決のための担い手がいないことも大きな地域課題となっている。		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が住みなれた地域でできる限り元気で生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、介護・予防・医療・住まい及び生活支援サービスを継続して提供していただけるための「地域包括ケアシステム」の構築を推進するために、関係機関と連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。 ・高齢者だけでなく、幅広い年代の方に「あんしんケアセンター浜野」の周知活動を実施していく。 ・社協生浜地区部会の地域活性化支援事業に協力し、「気軽に集まれる居場所作り」と「担い手作り」を推進していく。 		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・日常生活支援総合事業利用者のケアマネジメントを効果的に実施できるように、地域のインフォーマルサービスの情報収集を積極的に行い、センター内で情報共有する。 ・自立支援を明確にした介護予防ケアマネジメントを実践できるよう、外部研修の参加や内部研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「気軽に集まれる居場所が少ない」という地域課題に対して、センター会議室を活用したサークル活動の立ち上げや社協地区部会の取り組みの後方支援を行って、少しずつではあるが「気軽に集まれる居場所」が増えてきている。また、参加者同士の横の繋がりも出てきており、外出する目的や楽しみができてきていることは、評価したい。 ・居宅介護支援事業所にも情報提供し、インフォーマルサービスに位置付けてもらえるように働きかけていきたい。 ・困っていることを周囲に知られたくないという方が多いという地域特性もあり、まだまだ閉じこもりや孤立している方の実態把握が難しい。民生委員に、高齢者名簿の活用について相談したが、個人情報保護という理由で断られてしまった。保健福祉センターにも相談したが、同様の理由で断られてしまった。出来れば、圏域内の高齢者の全戸訪問を実施し実態把握に努めたいと思っているが、それを実施する手段がないのが、今後の課題である。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各町内自治会の定例会にて、「あんしんケアセンター活用術」の講座を実施し、センターの周知活動を実施する。 ・広報誌を作成し、回覧板や掲示板での周知を図る。 ・民生委員との町別意見交換会を定期開催し、情報収集と情報共有を図っていく。 ・寄せられた相談に迅速に対応できるよう、職員の質の向上を図る。また、連携すべき関係機関の情報収集に努め、必要に応じて連携して支援に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員と町別の意見交換会を継続して実施している成果として、どの職員とも顔の見える関係性の構築がなされ、スムーズな相談対応が可能となっていることが挙げられる。子育てサロンへの参加のきっかけも民生委員との意見交換会の中で生まれたもので、色々な活動に繋がっていると評価したい。 ・あんしんケアセンターの周知に向けた取り組みとして、広報誌を発行し回覧、掲示していることや、町内自治会の定例会においてあんしんケアセンターの活動を知ってもらう講座を開催するといった地道な活動により、高齢者や支援者への周知は拡大してきている。しかし、介護保険にあまり馴染みのない若い世代には、まだまだ認知は得られていないのが現状であり、今後の課題である。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待の相談には、迅速に対応できるようにセンター内での役割分担を実施し、高齢障害支援課や関係機関との情報共有と連携に努め、早期解決を実践する。 ・消費生活センターと連携し、消費者被害のチラシ配布や講演会等で普及啓発活動を実施する。 ・千葉市成年後見センターと連携し、成年後見制度や日常生活自立支援事業の普及啓発活動に努める。 ・「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を実践するため、認知症サポーター養成講座を開催し認知症への理解を図る。また、「認知症カフェ」の後方支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」を推進するため、認知症サポーター養成講座や認知症カフェの後方支援を行い、地域住民に多く参加していただき認知症についての理解を深めることができた。 ・生浜中学校1年生を対象に、キッズサポーター養成講座を開催した。学校の先生にも寸劇に参加してもらい、興味深く聞いてもらうことができ、中学生へ認知症についての理解を深めることができた。 ・圏域内の徘徊事故をきっかけに「認知症高齢者への支援」が地域課題として共有されたことは評価したい。周知啓発の一環として、『徘徊模擬訓練開催』を生浜地区地域福祉連携会議に参加している事業所へ提案したところ、9事業所が実行委員として参加してくれることになった。年度内の開催を目指して、忙しい中、毎月の会議に参加していただけたことは、多職種連携の輪が広がっていることと評価したい。今後も連携していただけるように、来年度の活動についても検討していきたい。
	ケア包括的・継続的 マネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護及び関係者との連携推進のために、圏域内の多職種連携会議を継続開催する。 ・生浜地区地域福祉連携会議（地域ケア会議）を継続開催し、地域課題の共有を図り、課題解決に向けた具体策を検討・実施していく。 ・区内合同の研修会の開催と、圏域内の研修会・事例検討会を開催する。 ・介護支援専門員の支援困難事例には、個別地域ケア会議を開催し後方支援を実施するとともに、地域課題把握に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の多職種連携会議では、センターで地域課題として捉えている「認知症高齢者への支援」について、参加者が主体となって出来る仕組みづくりについて考えていただいた。地域課題を共有し、解決に向けた取り組みを検討することに繋がったことは大きな成果と考えている。また、この活動に圏域内の医療機関の医師がチームのプロジェクターリーダーとして実働的に参加していただけることになり、会議参加者の中から多くの人が協力者として手を挙げてくれたことで、継続性のある活動となったことが一番の評価である。 ・介護支援専門員の資質向上を図るための研修会、事例検討会については、区全体だけでなく圏域内においても計画的に開催を行うことが出来た。圏域においては、ただ参加するだけではなく、自分達で研修会の内容を企画・運営するよう後方支援した。実現に至ったのは、居宅介護支援事業所の個別訪問を継続し、センターの運営の理解を図ったとともに、顔の見える関係性を構築することで意見交換の出来る基盤づくりを実践してきたからだとことを評価したい。
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・センター会議室を活用した「木よう憩の場」を継続開催し、介護予防の普及啓発を図る。 ・いきいきサロンや地域活動に訪問した際に、基本チェックリストの実施など、いきいき活動手帳を活用した介護予防に取り組めるように支援する。 ・ラジオ体操を通して、地域の見守りと通いの場を提供する。 ・住民主体の活動や地域資源の情報集を行い、情報提供できるようにデータの管理や更新を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木よう憩の広場を1年間通して実施することができた。講演会や手作業など様々な催しを企画することで、大掛かりな広報を実施しなくても参加者も増えていることを評価したい。また、参加者同士の交流も活発になり、センターの周知活動にもつながっているため、来年度も継続して開催していきたい。 ・手芸サークルやフラワーアレンジメントなど、手作業の集いの場を提供することができたが、住民主体の活動とすることが難しかった。来年度は住民主体の活動にできるように支援を実施していきたい。 ・ラジオ体操は継続的に実施することができた。継続や回数を増やすことなどに対し意欲はあるが、主体的に活動する住民が少ない状況である。来年度は自主化に向けた働きかけを実施していきたい。 ・センター内の活動やラジオ体操での基本チェックリストの実施は出来たが、いきいきサロンでは実施することができなかったため、来年度4月に実施予定としている。今後も、定期的にチェックリストを実施することで、介護予防に積極的に取り組むきっかけづくりをしたい。
	地域介護支援 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・社協生浜地区部会が奇数月に実施している「いきいきサロン」の偶数月開催をセンター主体で計画し、社協役員の負担を軽減しながら、住民主体の活動の場を増やす。 ・社協生浜地区部会の地域活性化支援事業に協力し、福祉事業所の空きスペースを活用した「気軽に集まれる居場所作り」を実施する。 ・地域活動に協力していただける「担い手作り」に取り組むため、地域活動を広報する。また、社会福祉協議会中央事務所と連携し、ボランティア確保の方法について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、試験的に2ヶ所で開催した偶数月のいきいきサロンを、今年度は5ヶ所で開催することができた。社協役員や推進員の方の負担が少なく楽しめるレクリエーションの提案ができたと思う。ただ、社協やボランティアのスタッフ人数が次第に増えている。支援者の負担を軽減し、活動の場面を増やすことを目的として始めた後方支援であったが、当初の目的とはずれてしまっている。回数が増えたことで負担を感じているのか、センター主体で行うことで負担なく行えるようになったのかを聞き取り、来年度以降の活動方針を検討して行きたい。 ・福祉事業所の空きスペースマップを活用した老人会と趣味の会が立ち上がったことは、今までのセンターの活動と繋がっており、大変評価できると感じている。今後も、次に繋がる活動を実践していきたい。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議等でサービスの偏りがないか検証し、公正中立性を確保する。 ・利用者アンケートを実施し、事業運営の見直し、職員の資質向上に活用する。 ・介護予防自己点検表や実績報告、実地指導の機会を通して、適正な事業運営が実践できているか検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の委託事業として、常に公正・中立性を保った事業運営に心がけ、実践できたと感じている。根拠となる自己評価や利用者アンケートを今後も継続して行きたい。 ・センターでの経験年数が長い職員が多く（全職員7年以上）、チームケアを実践できるのが、当センターの強みでもあり、地域住民からも評価いただける点だと感じている。

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター こてはし台		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(2) 人	(1) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	18,542	
	高齢者人口	6,635	
	高齢化率	35.78%	
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が50%を超える地域もあり、高齢世帯や独居高齢者も多い。また地域の支援者も高齢化が進んでいる。 ・地域によって相談件数に差がある。特に国道16号より北側の宇那谷町・大日町を中心に相談件数が少なく、見守り体制・自主活動・社会資源も不足している。 		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や自治会、老人会、ボランティア、生活支援コーディネーター等との連携を図りながら、活動の不十分な地域への周知活動や介護予防支援の普及啓発を継続していく。 ・地域の行事やサロン、地域ケア会議等を通じ、地域住民や関係機関とのネットワーク作りを推進する。 		
センター 業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の場でチェックリストを実施し個々のニーズに合わせ、住民主体の集いの場など社会資源の提案を行い、適切に支援していく。 ・生活支援コーディネーター等と連携を図り、インフォーマルな活動の情報収集を行い、地域に情報提供を行う。 ・総合事業の制度内容について、地域や事業所へ周知理解を図るために、職員間で改めて情報を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花見川いきいきプラザと共同で年2回の健康フェスティバルに継続参加し、チェックリストの活用により自立支援に役立つ情報提供を行うことができた。来期もプラザとの協力体制を維持していく。 ・認知症カフェ等の開催に至っていないが、関係団体への場所提供のお願い、地域の支援者や他カフェの見学など下地作りを行なう事ができた。来期につながるものとした。 ・健康課と介護予防活動に関する話し合いを持ち、資源が不足している地域に対して新たな活動場所の模索を共に行なう事を確認した。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として、気軽に相談して頂けるように地域行事やサロン等に積極的に参加していく。 ・パンフレット内容を見直し、自治会等を通じて周知活動を行う。また、毎月の広報誌も継続作成し、地域への配布を行い、身近な相談窓口として周知を図り、また各種の情報提供を行う。 ・イオンライフと連携しエンディングサポート事業の普及啓発と相談対応のスキルアップを図る。 ・地域ケア会議を視野に入れ、相談対応を行っていく。 ・区の後方支援の方々とも連携しながら相談対応をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の身近な相談窓口として、高齢者のみならず世帯全体を支援する視点を持った対応を心がけた。 ・既存のサロンや地域の催しに積極的に参加し、定期的にあんしんケアセンターの広報活動を行なった。高齢者の総合相談窓口としての機能を改めて地域に認識いただくことが出来た。 ・総合相談に対して3職種で継続・終結を含めた管理が不十分であるため、相談受付票の見直しやマニュアルを作成する必要がある。 ・民生委員会議に参加や戸別訪問など積極的に行い、民生委員からの相談実績やスムーズな連携が図れた。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員やサービス事業所に権利擁護に対する見守りについて情報提供を行い、対象者の早期発見に繋げていく。 ・認知症疾患医療センターや医療機関との連携を図り、必要に応じて認知症初期集中支援チームの活用も図っていく。 ・みかんの会を通じ、認知症カフェ班、若年性認知症班の活動に取組む。 ・認知症サポーター養成講座を対象者の幅を広げながら積極的に開催していく。 ・社会福祉士会を継続し、権利擁護に対する地域活動を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座の開催に向け、積極的な広報が不足している。開催が出来ていない地域を中心としたPR活動を展開していく必要がある。 ・みかんの会の活動も継続し、他センターと連携を図りながら各々の活動の検討がなされ計画通り企画等が実施できている。 ・虐待事例の対応や支援方法について、社会福祉士会での勉強会を継続開催し、全センターが同レベルで対応できるよう取組んでいる。
	ケアマネジ メント 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・主任ケアマネの会「ケアマネジメント」「社会資源」「権利擁護」の部会でケアマネ向けの研修会を企画し共にスキルアップを図る。 ・ケアマネに向けて地域ケア会議の活用を促していく。 ・多職種連携会議や合同連絡会を開催し、医療・介護・行政等との連携を図り、高齢者の適切な支援につなげる。 ・花見川区あんしんケアセンター運営会議の開催を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別地域ケア会議の実績が少なく、居宅介護支援事業所向けに個別地域ケア会議の広報を行なう必要がある。来期は広報誌等を作成し、戸別訪問を検討したい。 ・こてはし台地区にて、2年ぶりに地域ケア会議を開催することが出来た。日頃から地域支援者との情報交換を行ない、地域課題の把握と分析を行い定期開催を継続していきたい。 ・年2回の多職種連携会議や合同連絡会についても、継続的開催が出来ている。ケアマネジャー支援や多機関とのネットワーク構築に向け今後も企画の充実を図っていく。
	介護予防 普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の広報誌をつどい喫茶や地域活動支援事業等に配布説明を行っていく。 ・老人会やサロン、地域交流の場の情報収集により、ミニ講座等の企画を提案していく。物忘れ相談プログラムの活用も推進する。 ・あんしん事務所前の体力・健康測定会等のイベントを企画する。また、事務所前にも介護予防に関する情報誌等を配置しPRしていく。 ・地域のイベントに積極的に参加し、チェックリストを活用し介護予防啓発を行う。 ・介護予防の動機づけとなるよう、いきいき活動手帳の活用を地域に促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の地域の集まり、サロン、喫茶等に参加し、広報誌等で介護予防の普及啓発に取り組むことができた。また、いきいきプラザとの連携も継続でき、チェックリスト等の活用により健康維持、介護予防に関する意識を高める働きかけも行なっている。他、センター主催の地域住民を対象にした健康測定会も継続していくほか、新規に認知症プログラムも開催することが出来た。来期も継続と充実を図っていく。 ・いきいき活動手帳に関しては、プラザのフェスタで希望者に配布したが、その後の活用状況確認、フォローには至っていない。
	地域 活動 介護 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつ元気教室の運営支援を継続する。 ・シニアリーダー連絡会に参加し、新規教室の立上げの後方支援や地域へ教室の情報提供を行う。 ・既存のサロンや交流会等の活動支援を継続し、介護予防活動の企画等を提案していく。 ・ボランティアの会等、地域の支援団体の定例会に参加し、日頃からの連携と支援を行っていく。 ・ケアラズカフェの開催に向け、生活支援コーディネーターと連携し情報収集に努める。 ・区内の保健師（看護師）職会議を継続し、介護予防活動の情報交換等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアリーダー連絡会、圏域のシニアリーダー体操に継続参加し組織活動の支援を継続できている。また、シニアリーダー体操参加者に向けあんしん主催の健康講座を開催できた。新たな活動として今後も継続していきたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の社会資源を更新整理し、相談者が選択しやすいよう情報を整備する。 ・運営推進会議に参加し、適切な助言や地域関係者と適切な関係性を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の委託事業として特定のサービス事業所に偏ることなく、また、地域に対しても常に公正中立を意識した対応が継続できている。 ・苦情受付簿の活用が図れていない。来期は記録に残す事を意識していく。 	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 花見川		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (3) 人	保健師等 (2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	33,475			
	高齢者人口	12,164			
	高齢化率	36.34%			
担当圏域 地区課題	昭和43年に建てられた大型団地があり、建設当初の入居者が高齢となり担当圏域の高齢化率を上げている。地域で活動している方々（自治会、民生委員等）も高齢化している。 入院できる病院はあるが、訪問診療ができる資源がないため、他の地域や隣接する他市で調整をやりくりしている。 課題が混在するケース、介護者等の家族も含めた世帯全体で支援が必要な相談内容が増えてきている。				
活動方針	これまで続けてきた地域への活動支援は継承し、関係や連携をより深めていけるようにする。併せて連携の強化が必要な地区や関係機関等に対して、積極的な働きかけをしていく。 医療・介護保険制度の改正について、正しく理解し適切に対応をしていく。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 自立や予防の観点で、介護保険以外のサービスや資源等も意識した支援、ケアマネジメントをしていく。 ケアマネジメント力の向上や質の底上げのために、研修等に参加していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 健康相談フェスティバルや団地商店街の相談会等を中心にセンター外での活動を積極的に行い、介護予防を目的とした活動が継続できている。内容としてはチェックリストを実施し、介護保険や総合事業のみにとられないインフォーマルな社会資源の提案を行なっている。 センター独自で介護予防を目的とした広報誌の作成も継続できている。住民主体のサロン等で紹介や提案が来ている。来期も継続したい。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域の社会資源も活用し問題の解決に向けて支援していく。 相談内容の分析や課題から、個別の地域ケア会議へ繋げていく。 当事者、家族、関係者等が身近に利用できる窓口として認識してもらえるように啓発活動をしていく。 3職種の特徴を活かし連携し対応をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の身近な相談窓口として、高齢者に限定せず様々な相談に対応できている。相談受付票の見直しや記入マニュアルの整備を行なったが、3職種で継続から終結への進捗管理が一部不完全であるため、来期以降に再整備の必要があると考える。 総合相談から適宜、個別の地域ケア会議が開催できている。また、花見川団地の支援者等と今期初の地域ケア会議を開催した。来期以降の定期開催に向け関係者との合意も得ることが出来た。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 判断力や理解力の低下した方が、虐待や悪質商法等の被害に遭わないよう啓発活動をしていく。 地域等のネットワークと連携し早期発見に努めていく。 虐待等の被害が発生している場合は、行政や関係者等と連携し、迅速に慎重に対応していく。 認知症に関する理解を深めてもらえるよう認知症サポーター養成講座の開催等をおこなう。 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度より2～3ヵ年計画で、花見川団地を中心に認知症の啓発活動を企画した。今年度は予定通りに企画が運営できており、来年度も継続していきたい。 虐待やその疑いのケースについても、関係機関への報告・連絡などで連携を図ることができ、適切な対応を取る事ができている。 社会福祉士会でも権利擁護の勉強会を継続しているが、前年度に引続き内部に留まった形であるため、来期以降に地域や事業所に発信できるよう検討が必要である。 	
	ケア 包括的・継続的 マネジメント 支援	<ul style="list-style-type: none"> 困難事例を抱えている介護支援専門員や1人体制等の介護支援専門員に対しての支援をしていく。 関係者間による個別ケア会議や多職種等による連携会議、地域ケア会議の開催をしていく。 介護支援専門員同士の連携や顔の見える関係が築ける会の開催をしていく。 介護支援専門員の知識や技術等が学習できる研修会等の開催をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 主任ケアマネの会では、今年度も3部会の活動を通じ地域ケアマネの資質向上を目的に研修会等を開催する事ができた。合同連絡会についても、地域ケアマネを対象に介護予防ケアマネジメントや医療連携をテーマに研修会を開催する事ができ、包括的・継続的なケアマネジメント支援に資する対応がとれている。 多職種連携会議についても、計画通り年2回実施できている。今後は圏域内での開催についても検討の必要性がある。 	
	介護 予防 普及 啓発	<ul style="list-style-type: none"> 毎月センター独自で発行する広報誌で予防等に関する情報を発信していく。 地域でおこなわれている健康や予防等に関連する活動の把握・情報収集をし紹介や参加の促しをしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域で開催されている既存のサロン等には予定通り参加し、センター独自の広報誌等により介護予防の普及啓発に務めている。参加場所が固定化しているため今後は生活支援コーディネーターや健康課等の情報提供を受け、新規で開拓して行く必要がある。 いきいき活動手帳の活用ができていない。出張相談等でチェックリストだけでなく、手帳の普及も図っていきたい。 	
	地域 活動 介護 支援 予防	<ul style="list-style-type: none"> シニアリーダー体操、その他の体操教室、サロン等へ出向き見守り、相談等の関わりは継続していく。併せて自主化に向けての働きかけもしていく。 地域で開催されている行事や活動から協力を求められた時は、積極的に参加していく。 生活支援コーディネーター等と連携を図り、各活動の情報共有、支援をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> シニアリーダー体操や楽々体操など介護予防に資する教室等に参加し、支援者や参加者への情報提供や運営上の相談が継続できている。新規の開拓にも注力しネットワークの拡充を図ることができた。 センター独自で「通いの場」提供等の活動が低調であるとする。来期に向けカフェや体操教室などの企画を検討していきたい。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 関わりが少ない地区、関係が十分に築けていない地区を主に、自治会、民生委員、その他の活動団体等に周知されるよう働きかけをしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 実地指導での個人情報管理、委託プラン管理方法に一部不備が見られた。早急な対応を図りたい。 		

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター さつきが丘		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(2) 人	(1) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	21,366	
	高齢者人口	6,868	
	高齢化率	32.14%	
担当圏域 地区課題	・圏域全体の高齢化率は31%を超え、独居の後期高齢者も多いが、住民同士の支えあい活動や交流の場の取組みについては圏域内でのばらつきが見られ、各町丁の地域特性を把握し、状況に応じた支援が必要である。		
活動方針	・地区特性や課題の抽出、共有を目的として圏域内の自治会単位への働きかけを行い、また、総合相談支援内容の分析を実施活用して、地域ネットワーク構築への反映、対応力向上を図る。		
センター 業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防・日常生活支援総合事業対象者、地域住民に対し、出前講座等を通じて制度に対する普及啓発活動を実施する。 自立支援に資する介護予防ケアマネジメントを目指し、民生委員や地域諸団体等の連絡会、地域の催しに参加の際や相談支援を通じ、地域のインフォーマルサービス、通いの場の情報を発信する機会をつくる。同様に介護支援専門員に向けても地域の情報として伝えていく。 委託事業所とのかかわりを担当制とし、継続したプラン確認や指導を通じ、介護予防ケアマネジメントの質の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな社会資源の発掘ができず、また地域での支援においても一部に偏り、かつ限定的になってしまった。 生活支援コーディネーターとは良い関係が築けており、連携する機会も増えた。 自立支援の重要性に関して、地域住民を始め、各関係機関や各関係者に周知すべき活動が十分に行えなかった。 事業対象者の把握が不十分であり、事業対象者に対しての適切な支援ができなかった。 次年度は、介護予防に関する出張講座を積極的に行っていきたい。また、地域のイベント等以外にも基本チェックリストを活用し、事業対象者の把握と必要なサービスに繋げていきたい。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や地域諸団体の連絡会等に適宜参加して情報共有の機会をつくり、情報やネットワークを活かした支援を実践する。 これまでの相談内容について、統計的な分析を行い、地域性や年齢別、相談内容の特徴などを把握して対応に活かし、相談対応の効率化も目指していく。 ケース会議で検討した内容の共有方法を工夫する。 地域ケア会議は適宜開催できるように日頃から関係機関との連携をはかっていく。 終活に関する相談の際は専門機関も活用し、また、地域でのセミナー開催も計画していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談の対応に追われることが多く、総合相談の内容分析まではできなかった。次年度の主課題としていきたい。 三職種全員の総合相談対応力は向上している。 地域ケア会議に関して、今年度はさつきが丘中学校地区で2回、同様のテーマで開催した。2回目の会議では、地域課題の解決のために1回目よりも踏み込んだ内容ではあったが、課題解決のための具体案までは示すことができなかった。地域ケア会議について、次年度はさつきが丘中学校地区だけではなく、さつきが丘団地に絞った会議開催や今年度は開催できなかった犢橋中学校地区での会議開催を検討していきたい。 終活についてのニーズが高いことを確認できた。次年度のエンディングサポート事業に貢献していきたい。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 権利侵害に関する個別ケース発生時（虐待疑いの通報）の対応について、センター内での対応や関係機関との連携や支援方法について体系化して、より適切な対応を図る。 高齢者の権利擁護や虐待予防等に関する啓発活動、成年後見制度に関する利用促進等についての勉強会やミニ講座を各中学校単位で実施する。 認知症サポーター養成講座の依頼に積極的に応じ、認知症理解を地域に広めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 花見川郵便局、犢橋小学校にて開催した認知症サポーター養成講座に関して、参加者より良好な評価を頂くことができた。民生委員及びボランティアや地区部会とも関係性の構築ができてきているので、来期は学校だけでなく、地域の支援者を対象とした認知症サポーター養成講座を検討していきたい。 権利擁護の啓発に関して、前年度と同様に当センター主催の勉強会やミニ講座を開催する事ができなかったが、来年度は地域のサロンを対象とした講座の開催を検討していきたい。 総合相談での虐待対応については、実際に虐待を発見したケースは無かったものの、民生委員や高齢障害支援課、介護支援専門員と協力し、支援を行う事ができた。今後も迅速かつ適切な支援を行えるよう努めていきたい。
	ケアマネジメント 包括的・継続的支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議や多職種連携会議の開催により、地域の課題を共に考える。 同区のアんしんケアセンターと協働する。主任ケアマネの会を通じ、研修等を継続的に行う。 圏域内の居宅支援事業所訪問を継続的に行う事で、相互の役割理解を図る。困難事例等に対し、介護支援専門員自身が課題を理解し向上できるよう支援する。 圏域内に介護支援専門員に対する連絡会を発足し、将来的には多職種も参加して活動の幅を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 同区のアんしんケアセンターと協働する会議や研修には、打ち合わせから参加し、役割の一部を担った。 居宅介護支援事業所の介護支援専門員から困難事例を中心とした相談が複数あるため、次年度以降は介護支援専門員の後方支援での個別ケースの地域ケア会議を開催していきたい。 圏域内の居宅介護支援事業所訪問にて、介護支援専門員が求めていることを理解した。次年度は圏域内の介護支援専門員を対象にした勉強会を開催していきたい。
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 地域の老人会や地区社協、民生委員などの活動団体に働きかけ、総合相談等で得られた情報をもとに、統計化した地域課題を提示して問題意識を共有する。また、介護予防についての講座を開催し、地域のサロンや体操教室への参加を呼び掛ける。 いきいきセンターやいきいきプラザ、各種フェスティバル等の相談会にて基本チェックリストやいきいき活動手帳を活用し、介護予防についての個々の意識向上とセルフマネジメントを促す。 健康課で行われる健康講座や地域のサロン、体操教室の広報活動を行い、参加を呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や自治会への働きかけの結果、新たなシニアリーダー体操教室の立ち上げや歌声サロンでの体操指導、介護予防についての講話の依頼等で声がかかるようになり、少しずつ成果が見られている。 健康課主催の歯っぴー健口教室について、さつきが丘地域での参加が少なかったと報告があった。今後は健康課との協力を強化し、地域住民に行政主催の健康講座の情報提供を行い、参加の呼び掛けを行っていきたい。 あんしんケアセンター独自の介護予防活動に力を注ぐことができなかったため、来年度の課題としたい。
	地域活動 介護予防支援	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に開催されている老人会（ことぶき会）、サロン（ふくふくいいきいきサロン、すずらんの会、さつきが丘1-35ふれあいサロン、あじさいクラブ）体操教室（シニアリーダー）に参加し、社会資源として継続ができるよう、必要時サポートを行う。 生活支援コーディネーターと協働し、地域の老人会、自治体等に働きかけ、前年度は未開発であった犢橋地区の高齢者の生活実態を把握したうえで、高齢者が集える場所の発掘を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の体操教室やサロンに2〜3か月毎に参加し、感染予防や熱中症予防のチラシを配る等をしながら運営の協力を行った。現在は1か所も閉鎖することなく継続できている。参加者が減少しているシニアリーダー体操教室があり、今後もイベントや総合相談にて、高齢者の参加の呼び掛けを行っていきたい。 犢橋地区については多世代家族が多く、高齢者への介入が難しい。地域のニーズの把握をどのように行っていくか検討し、時間をかけて対策を練っていきたい。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> センター周知や情報収集を圏域内の自治会単位等で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> センターの要である三職種の入れ替わりが多く、センターへの信頼度を高めるためには、現体制の維持が望まれる。体制が整ったので、来年度は三職種間で各職種1つ以上は新たなことを行っていきたい。 商店街の中にセンターがあり、立地条件に恵まれているが、良い立地条件をまだまだ活かしていきたくない。立地条件を活かして、更なるセンターの周知度アップや地域貢献をしていきたい。

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター にれの木台		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(1) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	17,359	
	高齢者人口	5,812	
	高齢化率	33.48%	
担当圏域 地区課題	担当圏域は、URの中高層住宅地域である「にれの木台団地」や「西小中台団地」が存する朝日ヶ丘と西小中台の人口集中地区で圏域の約60%の人口を占め、高齢化率も33%と高い。また、圏域の半分の面積を有する畑町は、古くからの集落と新興の戸建て住宅が多い低層部と広範な農村部となっている。圏域の課題としては、地形的に起伏があり、階段や坂道が多いにれの木台団地は、一人暮らしや高齢者夫婦だけの世帯が多く見受けられ、閉じこもりも目立つことから、自治会、老人会及びUR都市機構並びに地域の関係組織との連携を密にし、地域に埋もれている支援を必要とする高齢者を様々な情報からアウトリーチしていくことが必要である。		
活動方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自治会、社協地区支部、民生委員並びに市の関係組織との連携を深め、圏域内の実態把握を推進し、適切で迅速な支援体制の充実を促進する。 2. 地域の社会資源を把握し連携を構築するとともに、医療・介護・福祉サービス等の様々な生活支援サービスが提供できるように、地域包括ケアネットワークの構築を積極的に推進する。 3. 地域ケア会議や事例検討会等を通じて、地域の課題や様々なニーズを的確に把握するとともに、地域住民と共に課題解決に取り組む。 		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防支援事業	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の介護予防・日常生活支援総合事業利用者の把握を行い、対象者の心身の状況及び置かれている環境等に基づく、適切な支援を実施する。 2 委託事業所との連携及び実施状況等を把握し、介護予防支援が一体的に実施できるように、必要な援助を行う。 3 生活コーディネーターと連携し、地域の社会資源を掘り起こし、趣味活動や健康活動を通じて、社会参加できる環境作りを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター主催のラジオ体操や健康教室の参加者が固定してきている。 ・多くの参加を促すため周知方法を検討していく必要性を感じている。 ・いきいきサロンライブでは場所が限られているためできることが限られているが、今後も地域住民の集いの場所として定着していくよう引き続き支援していく。
	総合相談支援	<ol style="list-style-type: none"> 1 定期的なミーティングを実施し、相談ケース等の情報共有を図るとともに、カンファレンス等による早期の問題解決に繋げていく。 2 地域ケア会議や勉強会を定期的に開催し、圏域内のケアマネジャーやサービス事業所等との連携体制の早期構築を図り、適切な支援を行います。 3 職員の相談能力向上を図るため、積極的に市や関係機関が実施する研修や講演会に参加するとともに、受講者による内部教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を開催し地域課題を明らかにすることが出来た。 ・URや社協、生活支援コーディネーター、自治会長、民生委員と情報共有して更なる連携を図る必要がある。 ・今後は定期的な話し合いの場を持ち地域課題解決に向けて社会資源の構築に取り組んでいきたい。 ・圏域内の困難事例に対して高齢障害支援課や社会援護課と協力して問題解決につなげることができ、よかったと思う。
	権利擁護	<ol style="list-style-type: none"> 1 自治会等の地域関係団体や介護サービス事業所を対象に高齢者虐待防止に関する勉強会を定期的に開催し、理解と周知を図る。 2 消費者被害防止及び成年後見人制度について、委託事業所のケアマネジャーや民生委員等を始めとする関係団体に対して出前講座や講演会等を定期的に開催する。 3 認知症サポーター養成講座を定期的に開催するとともに、民生委員、自治会等を取り込んだ地域ケア会議において、実態把握と事例検討を行い、早期対応に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加し事業所内での知識を深めることはできたが地域住民や関係機関に対しての情報提供を行うことが出来なかった。 ・悪徳商法やオレオレ詐欺などは未然に防ぐことが出来た情報を民生委員にタイムリーにつなげることが出来た。 ・地域住民に対しては掲示物での情報を提供した。 ・今後はオレオレ詐欺対策の講座の開催もしていきたい。 ・成年後見制度が必要な対象者はいなかったが、事例があれば迅速に関係機関につなげていく。
	ケアマネジャー・継続的支援	<ol style="list-style-type: none"> 1 圏域内のケアマネジャーを対象とした勉強会（ケアマネ会議）を定期的に開催し、困難ケースに対する検討や意見交換等により資質向上を図る。 2 保健福祉センター関係課及び医療機関などと協働した多職種連携会議や地域ケア会議を開催し、専門的助言が有機的に反映できる体制と多職種の良好な関係づくりを推進する。 3 介護サービス事業者等との交流会による定期的な情報交換や意見交換を行い、圏域内の課題把握や解決に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携会議では当センターから事例提供をした。 ・合同連絡会議では司会を担当するなど、積極的に会を開催することが出来た。 ・委託の事業所や1人ケアマネジャーの事業所などのケアマネ支援を行った。 ・今後は情報共有のための勉強会を企画したい。
	介護予防普及啓発	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の社会資源の組織が主催する住民交流会等に継続的に参加するとともに、昨年度に引き続き体操教室や健康教室の開催を通じて、介護予防啓発活動を推進していく。 2 地域で開催されるコミュニティまつりや区民まつりにおいて、健康相談や認知症に関する広報活動を実施する。 3 認知症になっても安心して暮らせる地域を目指し、サポーター養成講座、地域への出前講座や講演会等を通じて、理解を広めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花見川区区民まつりや介護予防普及啓発事業の中で、畑地区部会、社協、健康課、生活支援コーディネーター、民生委員など多種多様な方と連携し集いの場を立ち上げ、介護保険や介護予防体操、あんしんケアセンターの役割などの情報を発信することが出来た。 ・千葉市地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、地形に特化した運動を取り入れた運動の指導を行うことが出来た。 ・今後も継続してできるよう、当センターでの健康教室でも継続していく。
	地域介護予防活動支援	<ol style="list-style-type: none"> 1 自主運営可能な介護予防活動の取組みに向けて、地域住民やボランティアの参加・協力・育成による地域活動のリーダー育成に努めるとともに、活動拠点づくりを支援していく。 2 地域主催の敬老会や社協地区支部主催のいきいきサロン等に積極的に参加し、健康づくりを含めた介護予防活動及び健康寿命についての啓発を推進する。 3 住み慣れた地域で暮らし続けるために、高齢者でも健康に生活できる知識や医療と福祉の連携の必要性を理解してもらうため様々なメニューの提供や活動を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のリーダー育成に積極的に取り組み活動の拠点づくりに取り組むことができた。 ・健康づくりを含めた介護予防活動支援をいきいきサロンライブやにれの木台健康教室、シニアリーダー体操支援で行いながら啓蒙活動を行うことが出来た。
	その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 研修会等への積極的参加及び内部研修による職員のコンプライアンスの醸成に努める。 2 介護サービス事業者の紹介に当たっては、利用者自らが選択できるよう支援を行う。 3 アンケート等を用いた適正評価に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修に積極的に参加し地域包括支援センターの職員としてのスキルアップに努めた。 ・事業所内勉強会でも課題整理総括表を活用してアセスメント能力向上に努めた。 ・中立・公平性の確保に努めた。

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 花園		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	32,901	
	高齢者人口	7,106	
	高齢化率	21.60%	
担当圏域 地区課題	JR新検見川駅に近い南北に広がる地域。比較的、交通の便は良く、東京のベッドタウンとして40年以上前に建てられた住宅が多い。独居・高齢者世帯も多く、高齢化率も30%を超えている地域もある。毎月の新規の相談件数も30件～40件を推移している。		
活動方針	住民組織やサロン、事業所懇談会などに積極的に顔を出し、地域住民の方と話す機会を継続して持っていきけるように活動していきます。地域住民が安心して地域に住み続けられるよう、地域住民や関係機関とのつながりや連携を大事にしています。		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険法改正や総合事業の説明会や学習会に積極的に参加し、職員が正確な情報を把握できる。 おしゃべり昼食会、認知症カフェ、シニアリーダー体操が地域に根ざした会になることをめざし、会の運営や参加者の状況を把握し適切に支援することができる。 いつでも気軽にあんしんケアセンターに立ち寄れるように、センターの積極的な周知活動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険法改正や総合事業について所内会議での学習や学習会への積極的な参加を行い、変更点に関しても大きな混乱なく対応することができた。 シニアリーダー体操の支援や学習会の企画を行った。参加人数の少ない会場のリーダーとの話し合いや周知活動を行ってきたが、リーダーの都合もあり、日程変更等の大幅な改善をすることはできなかった。学習会に関しては参加者が増えるような内容を企画し、開催をすることができた。 ケアマネからの相談に対しては三職種で話し合う機会を増やし、課題を明らかにすることで支援内容を明確化する意識を持って対応することができるようになった。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ワンストップサービス機関をめざし、機関の役割を認識し、相談を受け止め、適宜必要機関につなぐことができる。 訪問を基本とし、利用者の生活の場から課題を把握・整理し支援できる。 各職種の専門性を活かし、困難事例は複数で対応すると共に、センター内では解決が難しい場合は、高齢障害支援課と協力しながら相談対応にあたることことができる。 全ての職員の総合相談支援の力量アップをめざし、多職種による事例検討ができる。 地域の特徴をつかみ、地域づくりに活かす為に、毎月の相談件数、相談内容等のデータ化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1件1件の相談に丁寧に対応し、当センターだけでの対応が難しいケースについては、高齢障害支援課との連携や適切な相談機関につなぐことを徹底した。 ケースの状況から必要に応じて複数の職員で対応をし、副担当の決まっていないケースについても経過を朝礼等を通じて共有することで、主担当の職員が不在の際も他の職員が支障なく対応を行えるよう努めた。 個々のケースの相談内容やその傾向を所内会議や三職種会議で検討する中で、対応力の向上を図り、地域特性、地域課題の把握にもつなげている。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 虐待における専門職としての力量アップをめざし、県の虐待研修(初任・現任)等に参加し、虐待の定義や対応プロセスを学ぶことができる。 虐待が疑われるケースは必要時、高齢障害支援課へ連絡し、速やかに協議、対応ができる。 虐待予防と虐待の早期発見をめざし、高齢者虐待の発見ポイントなどを地域住民に向けて普及啓発ができる。 消費生活センターからの情報(最新手口等)を地域住民や関係機関に周知することができる。 高齢者の権利侵害の予防をめざし、成年後見制度や日常生活自立支援事業等を積極的に活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度まであまり行えていなかった高齢者虐待の予防や早期発見に関する普及啓発活動に意識的に取り組み、地域住民や介護事業所に向けて発信をすることができた。 寄せられる相談から、虐待の可能性を見落とさないようになるケースについては、三職種全員で情報を共有しながら高齢障害支援課と連携して対応をした。 ケースの状況に応じて成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用の検討をしたが、結果として今年度はこれらの制度の利用につながるケースはなかった。 地域の住民活動等に参加した際に、消費者被害の予防のための情報提供を行うことを継続した。
	ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの構築と強化をめざし、多職種連携会議、主任CMの会、CMのつどい等を継続実施できる。 地域のニーズを把握し、地域づくりや資源開発を図るために、積極的に地域ケア会議を開催することができる。 広報誌の発行等、あんしんケアセンターの活動を知ってもらえることをめざし、広報誌の発行をはじめ、地域住民とかわる機会を積極的に増やしていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携会議、CMのつどい、合同連絡会では他のあんしんケアセンターとも協議を行いながら年間を通して開催することができた。 地域住民や専門職からニーズを確認して学習会等の開催につなげていく取り組みで統計を取り始めたが、後期からの統計で十分な学習会の開催等の企画ができなかった。 支援困難事例に対しては朝礼や所内会議等、三職種で支援方針を話し合う時間を取ることを心がけた。話し合いの時間を持つことで課題や支援方針を確認し、相談者と目的を共有して対応することができた。 ケアマネからの支援困難事例で地域ケア会議を開催した。地域住民や関係機関との事例の共有や支援内容の確認を始め、情報交換を行うことができたが年間2回の開催にとどまった。
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> おしゃべり昼食会、元気で長生きしよう会等の自主的自発的な組織運営をめざし、支援していくことができる。花園、検見川地域で3か月に1回を目標に開催していく。 介護予防活動を普及することをめざし、地域の既存組織に働きかけることができる。普及活動にあたっては、健康課、生活支援コーディネーター、地域の専門職と連携する。 チェックリストの活用をして相談活動や地域活動を進めることができる。 地域住民が自発的に健康増進を図れることをめざし、シニアリーダーの活動を支援することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度途中で担当職員の交代はあったものの、おしゃべり昼食会やシニアリーダー体操など地域の活動の場に積極的に参加する中で関係者や地域住民と顔の見える関係づくりがおこなえている。 「元気に長生きしよう会」を年4回開催した。後期からは実施後にアンケート評価を取り入れた。講義内容や時間に関する項目の他、健康や介護予防に対する意識や今後知りたい内容等を確認することができたため、次年度の取り組みに活かしていきたい。 今年度の「元気に長生きしよう会」は主にシニアリーダー体操後に開催したが、体操後ということもあり長時間の講義は厳しく、時間が限られ、講師の方も内容に苦勞されている様子であった。日程や内容に関してアンケートを実施しながら次年度の取り組み方を考えたい。
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 地域の介護予防の観点から、支援が必要な団体に適切にアプローチすることをめざし、生活支援コーディネーターと情報交換し、圏域内の既存組織団体の活動内容を把握することができる。併せて、既存組織の活動状況などを資料化することができる。 地域ごとの活動内容の把握と、年間を通してのアプローチ方法の検討を容易にするために、地域活動ファイルを改善する。 おしゃべり昼食会で、体力測定を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動ファイルを作成した。自治会や民生委員、医療機関やサロン等の情報をまとめ、更に活用方法を所内で検討し、活動支援状況の記載をおこなうなど改善した。それにより、地域活動状況の把握ができ、次年度に向け課題整理がおこなえた。引き続き活用していきたい。 既存組織団体でつながりのなかったサロンや老人会の情報収集に努めた。実際に参加して活動内容や状況を把握し、関係者との顔つきができて、対象となる地域住民へ情報提供がおこなえている。 今年度はおしゃべり昼食会の運営について協議を重ねた一年となった。当初はあんしんケアセンター主体で運営していたため、参加者の中にも独自運営をしている意識が薄かったが、話し合いやアンケートをおこない、運営形態は現状通りで、あんしんケアセンターはサポート的立場であるという意識付けがおこなえた。活動支援として、運動指導者との話し合いや、体力測定を12月に実施した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌を年4回(季節ごと)定期発行し、自治会や町内会、医療機関等に届けながらセンターの周知活動ができる。 自治会や町内会、医療機関等に広報誌の掲示や回覧を依頼する。 民児協に出席し、センターの周知と顔の見える関係づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はセンターの周知活動に力を入れ、民児協への出席の他、社協地区部会行事に参加したり、地域ケア会議等で関係機関・関係者との関係づくりが進んだ一年となった。そこで情報収集した地域活動組織へ顔を出すことで地域住民へセンターの役割や周知の他、その場での相談などにもつながった。 広報紙の作成・定期発行が実現でき、掲示場所も徐々に広げることができている。センター周知活動は一定の成果がみられた。 	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 幕張		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (1) 人	保健師等 (2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	53,151			
	高齢者人口	9,602			
	高齢化率	18.07%			
担当圏域 地区課題	1970年頃に建築されたマンション群が多く当初から入居された方々は高齢期を迎える時期になっている。独居や高齢世帯、単身で未就労の子供と高齢者の世帯が増加し経済的な問題や認知症介護の問題等複合的な課題を抱えた相談が増加している。自治会や老人会など小規模の自主活動的なグループはあるが参加者の高齢化や運営、役割分担や引継ぎ等が円滑にすすんでいない集団もあり夫々に継続が難しくなる可能性が高くなってきている。				
活動方針	圏域内での課題の把握・分析をおこない住民が自主的に活動してゆけるよう支援をし、地域包括ケアシステムの基盤整備を目指し、住民組織や多職種・多機関の連携を強化し顔の見える関係づくりを拡げ、様々なネットワークの構築を進める。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や自主活動組織、生活支援コーディネーター等と連携しインフォーマルな社会資源の情報収集を積み重ねる。併せて、地域で無料や低額で定期的に利用できる通いの場所を探し適宜関係機関へも働きかける。 職員全員で自立支援の主旨とサービス調整など保健福祉の情勢や法改正等の新たな内容を理解し、実践できるように情報共有を進める。 		<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジメントをおこなう際は自立支援を目指し、フォーマルだけでなくインフォーマルな社会資源を活用し地域の対象者に幅広い提案ができるように多様な社会資源の情報収集を継続し最新の情報を管理している。 運営推進会議や地域活動等を通じ「通いの場」の必要性和空きスペースの活用を呼び掛け3カ所を新たに開設し地域住民や民生委員、生活支援コーディネーター等と連携し、住民が主体的に活動していけるよう支援できている。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 二次予防対象者だった方の問題発生を防止するため、個別の情報収集と、それにより専門的対応の必要性を判断し、適切な機関に繋げる。 相談・支援の内容を分析し、相談者が欲しい情報を解かり易く入手頂けるよう整理し提供する。 自主活動組織との懇談会や出前講座等にて、住民自身が課題に気づいて早期に相談できるような意識づけを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 花見川区管理者連絡会や実地調査の意見を基に、総合相談初期段階の記録、書式、整理の仕方等の見直しを実施した。また継続・終結の進捗管理を意識づけていく等の業務の見直しをおこない業務改善を働きかけることができた。 地域のネットワークや社会資源を活用し、高齢者や家族の実態把握をおこない、現状に応じた支援をおこなうことができた。また、個別事例から地域課題として地域ケア会議を開催し更なる問題発生を防止・軽減していくためのネットワーク構築に繋がった。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座を活用し、講座の中で高齢者の特徴、認知症の特徴を把握できるような内容を構成する。 市や消費生活センターからの情報提供内容を把握し、最新情報を広報誌や出前講座等で発信する。 成年後見制度の活用について関係機関と連携し、周知活動を進める。 		<ul style="list-style-type: none"> 徘徊者（意志表出が難しい方）が地域で安心して生活し続けていける為に地域ケア会議を重ね参加者全員が夫々の立場でどのような役割を担うことができるかを検討中である。地域住民からは「周囲に認知症の人はいない」「普段出合わない」など発言あり、警察からの照会や無線放送の回数と住民の意識に乖離があった。地域で暮らし続けることについて住民や関係機関と話し合いを継続していく。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 合同連絡会やCMのつどい、多職種連携会議を協働で開催する。 圏域内での顔の見える関係づくりや連携が充実できるように、小地域での多職種連携会議の開催に取り組む。 関係機関と定期的に情報や意見交換をしながら、地域の共通理解や課題把握に取り組む。 自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高められるようケア会議開催に取り組む。 制度改正に伴い利用者や介護支援専門員が混乱を来さないよう、学習会や連絡会などを通して適切な情報提供や助言など支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> 圏域内で主治医意見書を作成頂いている医療機関を訪問し、区で開催している多職種連携を紹介し地域での連携の必要性を伝えた。必要性を理解頂けても「センター圏域の多職種連携会議」参加同意を得られたのは2カ所だった。昼夜多忙を極める開業医と会議を通じた会への参加を求めることの困難さを感じた。また在宅医療・介護連携支援室との連絡・調整不足もあり様々な課題を残した。 個々に働きかけをおこなったことで、Drから直に相談が入るようになり、連携し易くなった。 合同連絡会や多職種連携会議等を重ね職種を超えた機関の連携、行政関係部署・センター・介護支援専門員等のネットワーク構築を支援することができている。 主任ケアマネの会では業務班に所属し地域の主任ケアマネと「ケアマネのつどい」で地域の介護支援専門員に向け研修会を企画した。事例の選出や内容、進行等に於いて、主任ケアマネ支援に取り組むことができた。 個別の課題や地域課題を通し地域ケア会議を開催した。地域において自立した日常生活を継続していくための必要な支援体制に関する多職種他機関での情報共有や検討の場を設けることができケアマネ等の実践力向上にも繋ぐことができています。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性や潜在的ニーズの把握を行う。 リハパートナー等の専門職と共働し、自治会単位で介護予防活動を展開すると共に、自主活動グループへ繋げていけるよう支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> 千葉市事業と連携しながら各種の教室や催しを主催でき、介護予防のきっかけ作りをすることができた。 定期的に訪問している介護予防事業も開催した。人と人の繋がりをつくり、地域で活動してゆけるよう必要な支援をおこなうことができています。 健康長寿を目指すヘルスアップ教室では、教室終了後の自主活動に向けた取り組みが途中となっており、その点は次年度の課題とした。 	
地域活動介護支援予防	<ul style="list-style-type: none"> 未だ訪問できていない地域の既存組織や自主活動グループに対し、定期的に訪問することで活動状況を把握し、必要な助言を行う等支援する。 地域住民同士の繋がりを生かしたボランティア組織の立上げに向けて支援する。 地区診断をおこない住民が繋がりがあう場所づくりを住民と共に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域活動に参加し、人と人との繋がりを作ることができた。 新たな会の開設や既存の会の存続を支援する為、色々な教室や日常の業務を通し、人材発掘をおこない主体的に活動してゆけるよう様々な機関と連携し必要なサポートをおこなうことができた。 シニアリーダー体操を地域活動として定着させるため、シニアリーダー事務局等と関係者が定期的に会議を開催した。区のシニアリーダー会長も会議に参加し連携を深めることができています。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 特定の事業所に集中しないように確認し、定例会議にて職員に周知をおこなう。 高齢者自らが選択し易いように情報を整理し、アセスメントに基づき選択した幾つかの情報を提供する。 自主活動組織や民生委員の会議等に参加し顔の見える関係づくりに努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 特定の事業所に偏りがないうかを毎月確認し、公正中立を維持できている。 アセスメントに基づき選択した幾つかの情報を高齢者自らが選択し易いように整理し情報提供できている。 自主活動組織や民生委員の会議等に積極的に参加し、顔のわかる関係からお互いの役割、人柄等がわかる関係へと深めることができた。 核となる人材の発掘やネットワーク化を進め、新たに立ち上げた通いの場に配置、活動を支援することができた。 		

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 山王		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(3) 人	(3) 人	(3) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	49,178			
	高齢者人口	14,421			
	高齢化率	29.32%			
担当圏域 地区課題	集合住宅と戸建住宅が混在している。地域コミュニティが機能している地域も多いが、高齢化から支える力が弱くなってきている。				
活動方針	地域活動の継続・地域ケア会議の開催などを行い、地域課題の抽出・解決を目指していく。宮野木出張所においても自治体などと連携し、地域包括ケアシステムの構築を目指していく。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会や生活支援コーディネーターなどと連携してインフォーマルサービスの情報把握を行い、適切な情報提供を行う。 ・サロンや介護予防を目的とした体操教室など、地域住民主体の通いの場作りの支援を行う。 ・自立支援に資する介護予防ケアマネジメントを心がける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・閉じこもりの予防を目的としたサロンと支え合い活動の立ち上げを検討している地域に対して説明会を行うなど、社会福祉協議会と協力して立ち上げ支援を行った。 ・社会福祉協議会や生活支援コーディネーターなどと連携し、介護予防・日常生活支援総合事業利用対象者に対し、適切な情報やサービスの提供を行うことができた。 ・圏域のケアマネジャー向けに自立支援を目的とした研修会の開催、千葉市自立促進ケア会議へ参加など、自立支援に資する介護予防ケアマネジメントを心がけた。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な相談や課題に対し、チームアプローチや専門的な知識を持つ機関と連携することで、適切な対応を行っていく。 ・相談内容から地域課題が抽出できるような体制を整えていく。 ・夜間休日の相談体制を整え、緊急時にも対応できるようにしていく。 ・様々な機関と会議などを通し、ネットワークの構築を図っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全ての相談に対するスクリーニングを行い、地域課題の抽出に努めた。 ・相談内容に応じてチームアプローチや専門機関と連携して対応を行うことができた。 ・夜間休日の体制を維持し、緊急時の対応を行うことが出来た。 ・各自治会や民生委員の集まり、山王地区部会への参加を継続し、ネットワークの構築を図ることができた。 ・終活に関する講演会を専門機関と連携して開催した。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢障害支援課とは随時、窓口・電話相談、ケース会議を行うことで迅速に対応できるようにしていく。 ・稲毛区あんしんケアセンターと高齢障害支援課、稲毛区社会福祉協議会、千葉市生活自立・仕事相談センター稲毛、生活コーディネーター、民生委員、自治会などと地域ケア会議や事例検討会を行い、連携を深める。 ・地域活動の中で消費者被害や成年後見制度の周知・啓発を行い、成年後見支援センターやNPO法人、消費生活センターと連携していく。 ・介護保険事業者を対象とし、権利擁護を目的とした研修会を稲毛区のアんしんケアセンター合同で開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢障害支援課とは虐待が疑われるケースや虐待へつながるリスクが高いケースなどの情報共有を随時行った。虐待が疑われるケースや介入が必要なケースに対し、迅速な対応を行うことができた。 ・稲毛区あんしんケアセンターと高齢障害支援課、健康課、稲毛区社会福祉協議会、千葉市生活自立・仕事相談センター稲毛、生活支援コーディネーターと事例検討会を行い、更なる連携を図った。 ・成年後見支援制度が必要と思われるケースに対し、NPO法人と連携して対応を行った。 ・介護保険事業者向けに「対人援助技術」と「成年後見制度」についての研修会を稲毛区のアんしんケアセンター合同で開催し、権利擁護の啓発を行うことができた。成年後見制度については、千葉市成年後見支援センターに講師を依頼し、協働して行うことができた。 	
	ケアマネネットワーク支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議や多職種連携会議の開催、連携を目的とした会議の開催や出席を通じ、関係機関とのネットワーク構築を図る。 ・稲毛区のアんしんケアセンター合同で、ケアマネ連絡会、主任ケアマネ会議、事例検討会、ケアマネネットワーク交流会などの開催やケアマネ通信を発行する。地域の介護支援専門員に対する情報提供やスキルアップを図る。 ・圏域の介護支援専門員に対し研修会などを行い、連携や支援、ニーズ把握を行う。 ・支援困難事例に対する指導や助言を行い、介護支援専門員に対する支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議や多職種連携会議、ケアマネネットワーク交流会を開催した。千葉市地域自立支援協議会など様々な機関との会議への参加を通じて、ネットワークの構築を図った。 ・稲毛区のアんしんケアセンター合同で、ケアマネ連絡会、主任ケアマネ会議、事例検討会の開催とケアマネ通信を発行し、地域の介護支援専門員に対する情報提供やスキルアップを図った。 ・圏域の介護支援専門員に対する研修会、事例検討会を開催し、スキルアップやニーズ把握を行った。 ・支援困難事例に対する指導や助言、同行訪問を行い、介護支援専門員への支援を行った。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流会などにおいて介護予防についての出前講座を行い、啓発を行う。 ・区民祭りにて啓発活動を行う。 ・緑ヶ丘公民館、山王公民館、長沼コミュニティセンターでの体操教室を月1回開催する。 ・介護予防イベントを年3回開催し、介護予防への啓発を行う。 ・健康課やいきいきセンター、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会などと会議を通じて連携を図っていく。測定会やイベントの共同開催を行う。 ・地域住民や企業、中学生を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する正しい理解の周知を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康課やいきいきセンター、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会などと会議を通じて連携を図った。 ・いきいきセンターと測定会やイベントを共同開催した。 ・区民祭り、社協祭りに参加し、啓発活動を行った。 ・地域のサロンなどにおいて介護予防についての出前講座を行い、介護予防の啓発を行った。 ・緑ヶ丘公民館、山王公民館、長沼コミュニティセンターでの体操教室を月1回開催。年3回介護予防イベントを開催し、介護予防の啓発を行った。 ・自治会館にて「お父さんとお母さんのための料理教室」を開催し、独居の方の栄養改善を図った。 ・稲毛区健康課と意見交換会を行った。 ・地域住民や企業、中学生を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する正しい理解の周知を図った。 	
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきサロンやシニアリーダー体操、いきいき体操、住民主体の体操教室などへの運営支援を行う。 ・シニアリーダー養成講座の協力やシニアリーダー連絡会へ参加し、連携を図っていく。 ・社会福祉協議会や生活支援コーディネーター、シニアリーダーなどと協力し、地域活動組織の把握や支援、育成を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康課や社会福祉協議会、生活支援コーディネーターなどと協力し、地域活動組織の把握を行った。 ・いきいき体操を開始したサロンに対し、健康課と協力して活動の支援を行った。 ・商業施設内の地域交流スペースにおけるサロンの運営について、健康課や生活支援コーディネーター、シニアリーダー、他あんしんケアセンターと協力して支援を行った。 ・いきいきサロンやシニアリーダー体操教室を訪問し、意見交換を行った。 ・サロンと支え合い活動の立ち上げを検討している地域に対して説明会を行うなど、社会福祉協議会と協力して立ち上げ支援を行った。 ・シニアリーダー養成講座の協力やシニアリーダー連絡会へ参加し、連携を図った。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や民生委員、地域の集まり、商業施設などでセンターの周知を図っていく。 ・広報誌は年4回発行し、公共機関に配布する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・サロンや自治会、民生委員の集まり、区民祭りや社協祭りにおいて周知活動を行った。 		

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 園生		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	24,850			
	高齢者人口	6,699			
	高齢化率	26.96%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率30%超えのエレベーターの無い団地がある。坂道が多く、買い物や通院に行くのが難しい地域がある。 ・地域づくりに積極的な地域はあるが、その担い手が高齢になりつつある。 				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方が積極的に地域課題の解決へ向けて動くことができるよう地域ケア会議などを開催しサポートしていく。 ・予防的な活動として、体操教室開催やサロン活動の支援を積極的に行っていく。 				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき活動手帳の活用や定期的なモニタリングを実施し、専門職としてその都度課題を明確化し、適切に支援を行っていく。 ・住み慣れた地域で生活ができるよう、地域のサロンや自主サークル活動の把握に努め、必要時にはつなげることができるようにしていく。どの地域でも介護予防に取り組むことができるような体制の構築を目指していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・イベント時など可能な限り、いきいき活動手帳を配布してきたが、昨年と比べると周知、配布等はできなかった。 ・あんしんケアセンターの周知度が上がっていることもあり、社協の地区部会、地域自治会、民生委員等から「介護講座」「予防講座」の依頼が増えた。また、地域住民自身が予防の大切さを実感してきていることもあり、住民主体で活動していくとする意欲を感じることができた。 ・地域住民の意識が年々変化し「地域のことは地域に住んでいる自分たちが取り組む」という気持ちを多くの地域で見られることができた。あんしんケアセンターが率先するのではなく、後方支援として、その地域の住民と一緒に予防支援（居場所作り・体操教室の開催、健康講座の開催）について取り組むことができた。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・区高齢障害支援課、健康課、地区社協、生活支援コーディネーター、生活自立・仕事相談センターと事例検討会（年3回）や情報交換会（年3回）を行い、必要時に速やかな連携を図れるようにしていく。 ・毎朝3職種でミーティングを行い、問題に対して一方的な視点にならないようにしていく。 ・総合相談の内容の分析を図り、相談が多い地域などは民生委員や地区部会と連携し、関係機関と一体になり支援を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・区高齢障害支援課をはじめ、各関係機関と連携会議や事例検討会議などを継続的に実施してきたことで、必要時には速やかな連携を図ることができた。 ・総合相談やセンター行事を通じて把握した地域の状況に即し、地域ケア会議や民生委員との定期的な情報交換会などを実施した。昨年よりも更に地域に近い相談機関として対応できた。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・センターのお便りに消費者被害等の情報を載せて周知を図る。（年1回以上） ・千葉市高齢者虐待対応マニュアルに従い、48時間以内に安否を確認し、必要時には区高齢障害支援課と連携して対応にあたる。 ・企業、地域住民に向けての認知症サポーター養成講座（年4回以上）や稲毛区内の中学校に対しての認知症ジュニアサポーター養成講座を実施する。 ・必要時は初期集中支援チームと連携し、問題解決に取り組んでいく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度についての重要性は理解しているが、そこにつなげるまでの技量がまだまだ足りないと感じた。来年度はこの部分は強化を図りたいと思っている。 ・緊急性の高い虐待ケースは今年度は無かったが、最近の児童虐待などを見ても、職員の動き一つで問題が深刻化するため、各職員が適切に動けるよう、定期的な事例検討などを行っていききたい。 ・認知症サポーター養成講座は地域の方の興味も高いため、目標以上に実施できた。今年度は講座のみの実施になってしまったので、来年度は徘徊模擬訓練などを実施していききたい。 	
	ケアマネジ メント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携会議、地域ケア会議を開催し、困難ケースに対しては速やかに関係機関と連携を図れるようにする。 ・介護支援専門員対象の研修会（年4回）、事例検討会（区全体と圏域内ごとに各2回ずつ）を行いスキルアップを図る。 ・圏域の介護支援専門員や生活支援コーディネーターと情報交換を行い、地域の課題、必要なサービスを抽出し働きかける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携会議、地域ケア会議について、これまでは参加者が「義務的」で何となく会議をやらされている感じであったが、今年度は地域の住民や関係機関の職員が「主体的」に会議へ参加しているように感じられた。自分たちで何かやるということは大変だが、実際形になった時の達成感を感じているように見られた。来年度は形となった部分の継続ができるかが課題である。 ・今年度は天台と合同のケアマネ連絡会にて情報交換だけでなく、勉強会も開催し、より介護支援専門員としてのスキルアップを図る機会を設けられた。引き続き、介護支援専門員の研鑽を積むことができる機会の場を設けていく。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員定例会、地区部会サロン、自治会定例会や区民祭り等地域での活動に積極的に顔を出し、広報活動を行う。また、自治会、地域住民に呼びかけ、体操教室などを開催していく。 ・センター主催のい〜ね草野（体操教室）については来年度も月1回継続していく。 ・いきいき活動手帳を用いて、高齢者が自身の状況を知り自ら積極的に介護予防に取り組めるように支援をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・あやめ台のサロンや園生町のラジオ体操に引き続き参加することで、参加者や近隣住民に対し、介護予防の意識を高めて頂くよう呼びかけていく。 ・学ぶ・い〜ねの会園生は、当初の予定より多くの参加者があり、非常に好評を戴いた。協力関係者も地域貢献の意思はあったもののどうやって形にすれば良いかわからなかったが、この会に協力することで地域貢献に参加することができたような気がしているという言葉も戴くことができた。地域と地域にある資源が少しではあるが結びつききっかけができたと感じている。 ・いきいき活動手帳の活用が今年度は上手くできていなかったもので、センター行事等で活用していききたいと考えている。 	
	地域活動 介護支援 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防を目的としたボランティア団体への助言、活動状況の把握等を行う。 ・自主サークル活動などが速やかに立ち上げられるよう、情報提供や運営支援を行っていく。 ・シニアリーダーと連携を図っていく。 ・生活支援コーディネーターと協力し、自主活動等の運営者や参加者と情報交換等を積極的に行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・い〜ね草野（体操教室）を通年行うなかで、ボランティアの方に運営や講師を担っていただいたことでスキルアップを図ることができた。自主的な運営に移行できなかったのが来年度の課題となっている。 ・地域ケア会議を通じて、地域課題を把握した。その中で民生委員をはじめ、地域住民の方が主体となってカフェを月1回継続的に開催できていることは非常に素晴らしいと感じている。当初は試行錯誤しながらの開始ではあったが、回数を重ねるたび、参加している方からの提案等もあり、地域全体で自主的に作り上げているという形を築くことができた。 ・今年度においては、保健師職の不在等からシニアリーダーとの連携があまりうまくできなかったと感じている。来年度はそういった部分で保健師ではない職種でもスムーズに連携を図れるようにしていけるようにする。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の自立支援に向け、適切にアセスメントを行い、特定の種類やサービスに偏ることのないようにする。 ・様々な機会をとらえて、地域に向けて周知活動を行う。（年3回のお便り発行） 		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の事業所に偏ることなく、適切にアセスメントを行い、事業所及びケアマネ等を利用者や相談者に紹介することはできた。また、必要時には複数の事業所を紹介し、公正中立に努めた。 ・お便りや区民まつり、社協まつり、センター行事などを通じて周知活動を行い、地域の方にあんしんケアセンターの理解をしてもらうように努めた。 	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 天台		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	18,919			
	高齢者人口	5,448			
	高齢化率	28.80%			
担当圏域 地区課題	<p>1) 大型団地の高齢化率(45%)が高く、独居率も高い。エレベーターがないため、閉じこもりや買物・受診が困難である高齢者の相談がある。高齢者の孤独死や衰弱を防ぐための見守りづくりが課題となっている。</p> <p>2) 地域の見守り体制やサロン活動・自主活動が活発な地区と、高齢化が進み、担い手不足により地域活動の体制づくりが少ない地区がある。</p> <p>3) 認知症、精神疾患や生活困窮者、8050問題等、複合的に問題を抱えた世帯が増加している。</p>				
活動方針	<p>1) 地域別アンケートの結果により抽出された課題解決に向けて地域ケア会議を行ない、地域における見守り体制の強化を図っていく。</p> <p>2) 身近な場所で、高齢者が集い、介護予防を目的とした活動を継続的にこなせる環境の整備を図る。</p> <p>3) 「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指し、認知症カフェや認知症サポーター養成講座の実施、若年層も含めた声掛け訓練等、全世代に対し認知症の理解を深めていく。</p>				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者、事業対象者に地域資源の情報提供を継続的におこない利用者が自ら選択できるよう意識づけを図っていく。 地区部会・社会福祉協議会・生活支援コーディネーターとの連携により地域の支えあい活動の把握をし、介護予防ケアマネジメントに組み込んでいく。 		<ul style="list-style-type: none"> 介護予防・日常生活支援総合事業の利用者に対し、本人が自立した生活を営む事ができるよう介護予防及び日常生活支援を目的として、その心身の状況、置かれている環境等に応じ、適切なサービスが包括的かつ効果的に提供できるよう支援を行う事ができた。 自立支援に資する介護予防ケアマネジメントを目指し、他機関との情報共有により、社会資源を把握し、インフォーマルサービス等も、利用者が選択できるよう体制を整える事ができた。 自立促進ケア会議へ事例提供を行い、専門職からの具体的な助言を受け、自立に資する介護予防ケアマネジメントについて多職種と検討を行う事ができた。また、今後の介護予防ケアマネジメントに生かしていけるよう、センター内で情報共有を図った。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 朝ミーティングおよびケース検討会議を継続的に開催し、チーム内の情報共有と多角的なアセスメントを図る。 社会福祉協議会によるアンケート実施の協力を図る。 生活ニーズの把握に努める。課題解決等については地域ケア会議において、参加者とともに協議を重ねる。また、孤独死防止について関心が高い地域においては、関係機関や各団体とともに高齢者マップの作成を行ない、実態把握に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 朝ミーティング、ケース検討会議の開催により、総合相談に対するチームアプローチが行えている。今後も継続することで、3職種内での情報共有と、相談対応のスキルアップを図っていく。 社協アンケート結果を地域ケア会議を通じて各地域と共有することができた。また、課題に対する認識の違いや、課題解決のための取り組みに関して、地域性の把握につなげることができた。次年度はこれらの状況を踏まえて、各地域の特性に応じたアプローチをしていきたい。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> センターお便りの発行および、関係機関・団体による講演会を開催、合同の地域ケア研修会開催により、消費者被害防止、成年後見制度、高齢者虐待防止等に関する周知、理解を深める。 認知症の相談については初期集中支援チームとの協働や、地域住民への理解のための講座を開催する。 関係機関との合同事例検討会や報告会を重ねることで、高齢者虐待通報を受けた際の迅速な連携について共通認識をもつ。 センターお便りや地域ケア会議の場にて、成年後見制度の講演会等開催の案内する。 		<ul style="list-style-type: none"> 社協や行政とともにセンター合同で、予定通り年2回の地域ケア研修会を開催できた。次年度も引き続き、権利擁護の観点から、区内の介護サービス事業所に対しての研修を企画開催予定である。 今年度は、圏域内で初めて認知症高齢者のSOS対応声掛け模擬訓練を開催することができた。住民やボランティアスタッフからも概ね良い評価をいただけたため、次年度以降も認知症サポーター養成講座とともに継続的に開催できるよう企画している。 年間を通じて成年後見制度、日常生活自立支援事業にかかわることが多く、必然的に関係機関とのやりとりも増えた年だった。介入時には頼れる親族がいなかったり、ライフラインが止まったりしているケースが増加しているため、早期発見につながるよう、地域や関係機関とのさらなる連携強化を図っていきたい。 	
	ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議を年に3回以上、多職種連携会議を年に2回実施する。 地域の介護支援専門員に対し、研修会を年4回、事例検討会を全体で2回、圏域で2回実施する。 圏域内の介護支援専門員連絡会、圏域内の主任介護支援専門員連絡会をそれぞれ隔月で開催する。 圏域内の主任介護支援専門員と協働し、圏域内の介護支援専門員に対する勉強会を実施する。 困難事例に対して、個別ケア会議を開催し、課題解決に向けて関係機関や多職種で検討すると共に、潜在する地域課題についても抽出を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 様々な関係機関や専門職等と連携し、地域包括ケアシステム構築に向けて主体的に取り組む事ができた。障がい福祉について学ぶため、地域生活支援センターと協働し、ケアマネ向けの勉強会や事例検討会を実施した。また、民生委員とケアマネとの交流会を企画、開催した。次年度も地域包括ケアシステム構築に向け継続して活動を行っていく。 認知症の相談件数が多い地域における声かけ訓練の実施など、地域ケア会議を通じて抽出した地域課題の解決に向けた具体的な取り組みを、関係機関と協働して実施する事ができた。 地域の介護支援専門員に対して様々な研修会や事例検討会を開催し、資質向上に向けた取り組みを実施した。介護支援専門員同志のネットワーク構築の為、隔月での連絡会や、年に2回の交流会を開催する事ができた。 主任ケアマネジャーが主体的に地域に向けた活動を企画したり、地域課題解決に向けた取り組みを実施できるよう、後方支援を行う事ができた。また、困難ケースを受け持つケアマネと同行訪問を行ったり、専門窓口への顔つなぎ等を行い、ケアマネ自身がネットワークを構築できるよう支援を行った。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> い〜ねの会千草台体操教室(月2回)い〜ねの会天台体操教室(月1回)い〜ねの会作草部(月1回)を継続していく。 センターでの体操教室は月1回ではあるが、その地域で、週に1〜3回の体操教室やサロンに通えるように、シニアリーダー体操や地区サロン等の活動も啓発していくことで、介護予防を充実させる。 いきいき活動手帳の配布を通いの場でおこない自己評価できているか通いの場で確認ができるように各活動支援者へ啓発していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 各自治会サロンに出向き、ミニ講話やいきいき活動手帳の活用方法を周知したが活用されている方は、前期の段階で少なかったため、再度、当センターの体操教室で周知したことで、いきいき活動手帳を持参する方がやや増えてきている。自己目標も書かれており評価されていることが分かった。 町内自治会で自治会役員が60歳未満が多く、自治会の介護予防に取り組むにしても必要性を感じないと連携を図れなかった自治会もあったが、今後も社会福祉協議会や生活支援コーディネーター、健康課等、他機関と連携を図り、介護予防の必要性を啓発していきたい。 健康測定会を行うことで、地域の方の健康状態や介護予防に対する取り組み状況が良く分かった。 	
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> い〜ねの会千草台体操教室、い〜ねの会作草部体操教室においては、地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、理学療法士より、安全かつ効果的な体操や介護予防の取り組みを指導・助言してもらえよう体制づくりを継続する。 歩いていける通いの場がない場合は、地域住民の声を聞き、シニアリーダー体操教室等地域に合った体操教室を紹介したり、立ち上げを支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域リハビリテーション活動支援事業を通して、当センターの体操教室にて体操指導をするボランティアに解剖学的に筋肉の動きの説明を受けて、参加者への指導内容の確認ができた。 地域を支えるボランティアの養成講座の周知を行うことができ、いろいろな講座でボランティアが個々に質の向上を目指していることが分かった。 シニアリーダーの地域のサロンで活動したいという意向と当センターの活動して欲しい地域のすり合わせをし、地域サロンにシニアリーダー体操を啓発した。それをきっかけにシニアリーダー養成講座を受講する方が増えた。シニアリーダー連絡会にてシニアリーダーの意向も確認しながら、今後も協力と支援をしていく。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> あんしんケアセンターは市の委託機関であり、24時間体制が可能なワンストップの総合相談窓口である事を理解すると共に、市の運営方針を職員全員で確認する。 高齢者の自己選択、自己決定が適切に行われるよう、サービス事業所やサービス種別について公正・中立な情報提供を行う。 個人情報取り扱いマニュアルについて、職員全員に周知する。 		<ul style="list-style-type: none"> 月に一度の所内ミーティングを活用し、個人情報取り扱い等について適切な取り扱いを行えるよう、職員全員でマニュアルの再確認を行った。 様々な情報を地域高齢者へ提供できるよう、勉強会や研修会等を通じて情報収集を行うとともに、3職種ミーティング等を活用し情報の共有を図る事ができた。 困難ケース対応等、状況に応じて区高齢障害支援課と協力しながら支援にあたる事ができた。 		

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 小仲台		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	33,054			
	高齢者人口	7,596			
	高齢化率	22.98%			
担当圏域 地区課題	住民が地域での今後の暮らし方を主体的に考える地域は、介護予防普及啓発や活動への参加も積極的であり年齢層も若い。活動目標がより明確になるように、定期的な情報提供を実施し住民の主体性が失われないように適度な距離感と信頼関係が構築できる伴走体制を持つ必要がある。 古くからこの地で暮らしご近所との関係がある地域では、生活のしづらさは各個人の世帯で解決を図ることが多く地域課題として表面化しにくい。地域の活動場所の参加者も年齢層が高いために、リーダー養成の対象となることはない。介護予防普及啓発等の講座提供を行っても参加者も少ない状況である。				
活動方針	住民が主体的に活動する地域では、定期的な情報提供等を実施し、住民の主体性が失われないように、適度な距離感と信頼関係が構築できる伴走体制を持つ。 古くからの近所づきあいが基盤となっている地域では、幅広い年齢層を対象に、介護予防普及啓発活動やあんしんケアセンターの周知活動の継続と地域での暮らし方を考えられるよう働きかけを行う。				
センター 業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	利用者の心身状況や置かれている環境に応じて、インフォーマルを含む多様なサービスの複数提案を行い、積極的に介護予防に取り組めるよう支援していく。		参加者には好評をいただいていたものの、メンバーが固定されてきており、新規の参加者は少なく、今年度で終了となった。また、食事について申込のキャンセルの対応や費用の内訳について課題が残った。	
	総合相談支援	1) 所内会議を活用し、情報の共有を図り、方針を決定していく。 2) 民生委員や自治会、地区部会等と連携が強化できるよう、顔の見える関係をはかるとともに、小仲台便りの配布により周知をする。 3) 終活に関する講座(4回シリーズ)を開催する。		1) 所内会議を活用し、情報の共有を図ることで、センターとして方針を決定し、対応を行った。必要に応じて行政や民生委員等とも協力している。 2) 小仲台便りの発行やサロンなどへの参加を通じて、相談窓口としての周知は行っており、今後も継続して周知を図っていく。 3) 終活セミナーについては予定通り実施出来た。	
	権利擁護	1) 地域のサロンや自治会の集まりや民生委員の会合に積極的に参加し、相談しやすい関係を構築する。 2) コトこと講座やきらり講座等センター主催の講座を活用し、情報提供を行う。 3) 事業所向けの研修会は、区の社会福祉士で提供する研修会等を実施する。市民向けの講座は、体操教室やサロン等の機会を活用しその都度情報提供を行う。また、年4回の広報紙を活用し、新しい詐欺情報や消費者被害の情報を掲載する。広報誌の提供は、各自治会の回覧や掲示板の活用等で行う。		1) 高齢者の虐待対応等について、早期発見ができる体制を作れるように、サロンや自治会の集まりに参加し、顔の見える関係性の構築を図り、相談窓口であることの周知を行った。 2) 成年後見制度の活用については第2稲毛ハイツのミニ講座や地域ケア研修会にて実施した。 3) 消費者被害を防ぐために、広報紙や研修会を通じて更に周知を図っていききたい。	
	ケア マ ネ ジ メ ン ト 支 援	1) 日頃の業務や会議などを通じ、関連機関との連携強化をはかる。地域に積極的に向き合うことを心がけ、地域にある組織、社会資源などとの連携強化をはかる。そのうえで情報収集を行い、地域の課題解決に向けて協働していく。 2) 自立支援の強化、地域課題の分析解決のための地域ケア会議、多職種連携会議などを実施する。 3-1) 実践力向上を目的とした研修会、事例検討会などを実施する。 3-2) 介護支援専門員と日頃から連携をはかり、困難事例などへの支援を行う。		1) 地域に積極的に向き合い、地域にある組織や社会資源の把握、連携に努めた。 2) 計画通り多職種連携会議を開催し、個別ケースの地域ケア会議を実施した。 3-1) 研修会、事例検討会を通じ、介護支援専門員の資質向上に努めた。 3-2) その都度、介護支援専門員への支援、対応を行った。	
	介護予防普及啓発	1-1) 認知症サポーター養成講座を実施する。 1-2) 自治会や民生委員、地区部会、サロン等と連携しながら、講座、体操等の介護予防教室を実施する。 2) 29年度に配布したいきいき活動手帳の活用状況の評価、把握を行う。		1) 認知症サポーター養成講座は計8回行った。また、自治会ははじめ民生委員、地区部会、サロン等と連携し講座等を実施することで、高齢者が元気なうちから健康づくりや介護予防に触れる機会の提供ができ、きっかけをつくることができた。 2) いきいき活動手帳の効果的な活用について、普及啓発の機会を増やす事を試みたが、活用状況の十分な把握・評価には至らなかった。今後も、引き続き介護予防手帳の普及啓発を行っていく。	
	地域活動介護支援	1) 誰でも参加できるあんしんケアセンター主催の体操教室(穴川集会所、小中台地域福祉交流館、轟泉宮住宅集会所)を実施し、住民主体の体操サークルへ発展していくよう支援する。 2) 住民主体のサークル(第2稲毛ハイツ自治会、火曜会、木曜クラブ、轟サークル)への後方支援を行う。		1) 体操教室を定期的に開催し、自主サークル化につながれた教室もあった。 2) 年間を通して、住民主体のサークルの後方支援を行った。今後も、今年度新たに自主化を進めたグループをはじめ、地域のサークル活動の支援を適宜行う。	
その他	昨年同様、毎月の給付管理時に委託事業所の確認と、ケアプランに位置づけた介護サービス事業所に偏りがないか確認を行う。		毎月給付管理時に確認を行い、職員間で情報共有することで大きな偏りは見られないと考えている。 来年度も引き続き、確認を行い、公正中立が保たれるようにしていく。		

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 稲毛		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	32,371	
	高齢者人口	6,616	
	高齢化率	20.44%	
担当圏域 地区課題	高齢者人口が約6,000人を超えるも、大型マンションが建設され高齢化率は20%に留まっています。しかし、団塊世代の方が多く居住している地域で、今後急速に高齢化が進む地域とも言われております。最近では若年層の認知症相談も増加傾向であること、ひとり暮らしの高齢者の相談も増加し、成年後見人の必要性や消費者被害対策の必要性も感じられます。地域的に利便性は良いですが、少しでも体力を落とすと生活に不自由が出てしまうことがあり、地域での協力体制が必要不可欠となってきました。少しずつ地域単位での交流の場が開催されるようになって来ましたが、今後も継続することや参加の促しを発展させていくことが重要となってきました。		
活動方針	地域診断を行うことで社会資源の発掘や開拓を実施し、高齢者の取り巻く問題に対応が出来るよう関係機関とのネットワークを図りながら推進していきます。また団塊世代の方が地域で活躍ができる場や介護予防に取り組むことが出来るよう支援の強化を行っていきます。またひとり暮らしの高齢者が多くなってきているため、関係機関と連携を図りながら少しでも地域とのつながりを持てるように努めていきます。		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> インフォーマルサービスや訪問型サービス等の情報整理、情報発信 コメント受付日の開催（週1回） センター及び委託ケースのケアプランチェック センター内部研修（年4回） ケースカンファレンス（随時） 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週コメント受付を実施していることで周知が広がってきており利用数も増えてきている。特に圏域の居宅介護支援事業所においては、直接話しをしながらコメントを実施しているため、利用者の状況が理解しやすい。ケアマネとの連携、個別ケースの相談がしやすい環境を心がけており、ケアマネからの相談も増えてきている。三職種チームでの対応を行いながら実践に努めている。件数が多くなってきた際に、今後同じような対応ができるかどうか、適正な対応等ができるかどうか個々のスキルをあげていく必要がある。来年度も外部・内部の研修を継続して受講していく。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 三職種会議及びケース会議の開催（月2回の定例会議+随時） イオン稲毛店での周知広報活動、出張相談（月1回） いきいきサロンへの参加 個別地域ケア会議の開催 稲毛公民館、黒砂公民館での出張相談（年3回） 精神保健分野地域ケア会議の開催（年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> あんしんケアセンターの周知が進んでいることもあり、そのことに伴い、本人や家族以外からの相談も増えている。総合相談において速やかにかつ適切に対応ができるためには、3職種のスキルアップは必須であり、更に関係機関と顔の見える関係作りを積極的に行う必要がある。 一方、身近な相談窓口として、出張相談や地域のイベント、講座の開催などで周知を図ってきているが、地域活動へ参加できない（しない）方も多く、まだまだ「あんしんケアセンターを知らない」という声があることを感じた。そういった方への支援が行き届くためには、活動的な高齢者に情報の橋渡し役を担っていただくことも、今後の課題として見えてきている。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 稲毛区5センターで社会福祉士連絡会議を開催する（月1回） 地域ケア研修会の開催（年2回） 高齢障害支援課、生活自立・仕事相談センター、社協との事例検討会の開催（年2回） 高齢者虐待ケースにおける積極的な介入と啓発活動 消費者被害啓発講座開催（年1回） 成年後見人制度普及啓発活動 認知症サポーター養成講座の開催（年4回） 認知症初期集中支援チームへの参加（月1回）、チーム員としての活動 精神保健福祉分野連携会議の開催（年1回） エンディングノートの配布及び説明活動 	<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護分野においては、基本的に「私は大丈夫」「まだ大丈夫」といった考えを持つ高齢者が圧倒的に多く、実害が出る前に対策をとるという考え方が広まるためには、まだまだ根強い訴えが必要だと感じた。また、サービス事業所を対象とした研修会を年2回開催しているが、サービスに従事している方よりもケアマネジャーの参加率が高く、高齢者だけではなくサービス従事者の権利擁護に関する意識向上も課題として残った。 2025年問題へ向けて、認知症に関する理解と支え合いの意識づくりは急務であり、積極的に地域での開催を呼びかけていく必要がある。 終活講座を2ヶ所で開催したが、「終活」に対するイメージには個人差が大きく、特に「困った時にやればよい」という潜在的な意識があると感じた。終に対する意識改革は定期的かつ継続的に繰り返して行うことで、少しずつ興味が高まっていくと考えている。また、当事者世代だけでなく、子、孫世代まで幅広く呼び掛けることも必要だと感じた。
	ケアマネジ メント支 援	<ul style="list-style-type: none"> 稲毛台町地域ケア会議（年4回）、黒砂防災地域ケア会議、黒砂台3丁目地域ケア会議（年1回） 稲毛区（あんしん）主任介護支援専門員の定例会（毎月）、介護支援専門員向けの区事例検討会（年2回）圏域事例検討会（年2回）や研修会（年4回）の企画。区主任介護支援専門員と共に事例検討会の進行（お互いに質の向上を目指す。） 介護支援専門員同士のネットワークを構築や医療機関・介護サービス事業者等の連携を図る交流会（年1回） 介護支援専門員に対し支援困難ケースへの対応に関する相談や支援 ケアマネ通信を発行（年4回）及び介護支援専門員への配布 稲毛台町、黒砂台3丁目での地域ケア会議の定期開催、あかりサロン稲毛と共同した地域ケア会議 	<ul style="list-style-type: none"> 地域別で地域ケア会議を開催し、共通していることは憩いの場が近くにないことであった。またこのような場ができたとしても継続していくことの難しさから参加者の減少があるため定期的に見直しと周知をしていくことが必要である。 認知症によって生活が不自由となり、自治会の役員や民生委員からの相談があった。また近隣の金融機関からも相談があり、連携が広まっていると感じられた。 ケアマネ研修会においては、アンケート調査により研修内容を検討している。医師の講義においては興味を引く内容が多く、実践に繋げることもできる内容であったため、来年度も最低1回以上は組み込んでいきたい。またケアマネのニーズも確実に捉えられるよう、アンケート内容などにも工夫をしていきたい。 圏域においては主任ケアマネがおらず、地域が隣あわせの小仲台と共同にて主任ケアマネの集まりや事例検討会を開催した。圏域の主任ケアマネと共同で企画を検討し実践を行ってきたが、自身のスキルアップも行っていく必要とまた関係機関との連携の大切さをケアマネに実感してもらうことができるよう周知を行っていく必要があると感じた。
	介護予 防普 及啓 発	<ul style="list-style-type: none"> 稲毛黒砂公民館での介護予防教室開催。（体操教室に合わせ、集いの場や相談できる場づくりを行う。） あんしん新聞の発行（年12回） 稲丘町老人会（稲寿会）での講座 黒砂高灯会での講座（年2回） 黒砂文化祭・稲毛台町文化祭での体力測定（年1回ずつ） 稲毛台町シニア体操後方支援 あんしんカフェのモデル事業実施（自治会や老人会、民生委員等へ働きかけ） あかりサロン稲毛活性化委員会に参加（月1回）、あかりサロン稲毛と共同し地域づくりのための会議の開催。 黒砂防災地域ケア会議の開催（年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防事業としてセンター主催の事業は定期開催しているものが多く、毎月の開催内容に変化を持たせたが、掲示や広報をみての新規参加者は少なく、知人の紹介など顔見知りからの紹介の参加者が多い傾向があった。参加者の中から主体的に先導できる活動者に主導を任せながら実施し、来年度は住民主体の活動へとつなげる。 地域の集いの場づくりにおいて、センター主催のランチ会を継続し、孤独になる傾向のある高齢者の集いの場として定着した。お弁当を作成してくれる事業所が高齢者の口に合った内容に協力が得られたことも、継続参加となっていると評価される。 黒砂文化祭や自治会、老人会の活動において、体力測定の実施を行い介護予防のリーフレットや冊子を活用し介護予防普及啓発に努めた。いきいき活動手帳の交付は十分することは出来ず、個人に対する活用説明や自己の振り返りが実施できるよう、検討が必要である。 短期リハビリ型通所サービスは、実態把握相談者や介護予防事業参加者の基本チェックリストから対象者をピックアップし利用に繋がった。参加者の反応としては毎週の参加により心身の健康状態の向上がみられ効果がみられたと評価する。参加終了後の活動の継続ができるよう、個人へのアプローチをいきいき活動手帳の活用を促すよう働きかけをしていく。
	地 域 活 動 介 護 予 防	<ul style="list-style-type: none"> シニアリーダー体操後方支援（稲毛・黒砂公民館）（稲丘・京成サンコーポ） いきいきサロン 稲毛支援（年3回） いきいきサロン一輪車支援（年2回） 稲丘町老人会（稲寿会）での講座（年2回） 黒砂高灯会での講座（年2回） 黒砂文化祭・稲毛台町文化祭での体力測定（年1回ずつ） 稲毛台町シニア体操後方支援（月1回） あかりサロン稲毛活性化委員会に参加（月1回）、あかりサロン稲毛と共同し地域づくりのための会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動の場づくりとして、活動できる拠点を地域の会議や関係性から開拓し、施設として黒砂診療所とイリーゼ黒砂にて活動を始動した。黒砂診療所においてはシニアリーダー体操を毎月一回実施。イリーゼ黒砂は社会福祉協議会と協働し、3月末に開催した。地域住民が住民自ら運営に参加できるように来年以降も関係性を構築しながら、活動支援していく。 黒砂地区の介護予防事業は、近郊の事業所の理学療法士にリハパートナーとして、地域支援事業の継続実施に繋がった。住民の介護予防の普及と共に活動できる拠点を住民と共に作り上げることができるよう、来年度も関係機関と協働しながら活動を実施する。 あかりサロンの活性委員会や多職種連携会議を通じ、健康課やいきいきプラザ、地域の生きがい活動や住民のニーズに即した活動が行えるよう協働していく。
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> サービス事業所に偏りが無いよう、パンフレット等の資料を揃え、随時更新していく。 居宅介護支援事業所の特徴や空き情報、ケアマネジャーの人数などセンター統一で把握できる環境を維持する。 年1回利用者満足度調査を実施し、分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートの継続をすることで自分たちの業務の振りかえりができた。来年度は今年度よりさらに回答数を増やし、取り組んでいきたい。 新規施設を見学に行くことで利用者の方へお知らせできることは、あんしんケアセンターとして情報源となり良いことであると感じた。これからは情報収集等に努めたい。

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター みつわ台		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	30,638			
	高齢者人口	7,485			
	高齢化率	24.43%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の数が多く地域を細分化している。自治会活動をする場が少なく、自治会活動に支障をきたしている。 昔から住んでいる居住者と新興住宅が混在している。 				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターと連携を図りながら、NPO、ボランティア活動等によるサービス資源の開発を支援する。 地域ケア会議等で地域の支え合い活動を推奨し、発足を支援する。 				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員連絡会において、情報交換や事例検討を通して資質向上を図っていく。 千葉市生活支援コーディネーターと連携強化を図って、NPO、民間企業、ボランティアなど多様な資源を発掘する。 シニアリーダー体操、支え合い活動に直接・間接的に支援を行う。 健康課主催保健師会議（4月、12月）において、5センターの保健師等や健康課との交流を図り、連携を強化する。 		<ul style="list-style-type: none"> 圏域介護支援専門員連絡会においては、事例検討及び情報共有を図る中で、日々の業務に持ち帰って頂ける様な場となった。 地域のサロンや憩いの場等の紹介において、生活支援コーディネーターの方の助言により、地域の方に繋がられる機会も増えていることから、今後の活動においても情報交換を関連に行いながら、各地域資源の役割の理解を深めていく必要性を感じている。 今後も、地域にお住まいの方が自立した生活を送れるとともに、自己選択を尊重出来る様、情報の蓄積及び情報提供を行って行きたい。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区内のソーシャルワーカーの連携を図り、医療、介護の包括的なケアを行う。（年3回） 若葉区主任介護支援専門員会議（年2回）主任介護支援専門員及び介護支援専門員に対する研修を通して資質向上を図る。 若葉区多職種連携会議（年2回、7月、1月）事例を通して多職種の方々と連携を強化する。 千葉市生活支援コーディネーターとの連携を図り、相談者に対して、幅広い情報（インフォーマル）を提供する。 専門的な知識を持つ民間企業と協働して対応し、高齢者や家族の幅広いニーズに対応する。 		<ul style="list-style-type: none"> 総合相談においては継続支援ケースが増えている。課題としては、サービスに繋がっていない方、比較的状态は安定しているものの家族との関係が希薄であったりするケースについては切れ目なく関わって行く為の工夫が必要であると感じた。 ソーシャルワーカー連絡会については、情報共有及び意見交換、自己研鑽の場となっている。 終活に関する相談も少しずつ増えてきている傾向にあり、次年度に向けて、知識の蓄積を行って行く。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区のソーシャルワーカーの連携強化を図り、医療、介護の包括的なケアを行う。（年3回） 千葉東警察署との情報交換会（年1回）警察との連携を深める。 若葉区主任介護支援専門員会議（研修会年2回）主任介護専門員及び介護支援専門員の資質向上を図る。 千葉市社会福祉協議会、NPO法人、法テラス等との連携を図り、成年後見制度、虐待の講座を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護においては、認知症高齢者及び精神疾患の方が増えている中で、消費生活被害、契約締結行為や医療的な判断が必要な場合に、消費生活センター及び成年後見支援センターとの連携をより深めていく必要性を感じた。若葉区ソーシャルワーカー連絡協議会もその役割を担っている為、今後も継続的に参加して行く。 	
	ケアマネジメント 包括的・継続的 支援	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区地域ケア会議（年1回11月） 定例地域ケア会議（毎月） 若葉区多職種連携会議（年2回、7月、1月）事例を通して多職種の方々と連携を強化する。 若葉区のあんしんケアセンター管理者会議に参加する。（不定期） 若葉区支え合いのまち推進協議会（年4回）に参加する。 		<ul style="list-style-type: none"> 定例地域ケア会議及び圏域地域ケア会議は、事例検討や情報交換をする中で、ケアマネジメント及び業務の振り返りの時間となるため、今後も継続性を持ちながら参加及び開催をして行きたい。 若葉区地域ケア会議においては、防災に係る取り組みについて、それぞれの分野の代表者から、その取り組みについて伺う機会となり、圏域における防災について見直す機会となった。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区民まつり（11月5センター）血圧、握力測定を行い、パンフレット等を通して介護予防の周知を図る。 都賀コミュニティセンター祭り（9月）の中で地域住民に基本チェックリストや健康相談を行う。 都賀いきいきセンター祭り（1月）みつわ台、都賀、桜木のあんしんケアセンター：地域住民に健康相談を行う。 地域住民に認知症サポーター養成講座を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座において、啓発活動の時間を頂く中で、認知症への関心が高まっている様子が伺えた。引き続き、依頼を受けた際には貴重な場として、関わって行きたい。 定例地域ケア会議において、ケアマネジャーからの提出事例から見えてくる地域課題も多くあり、圏域内の地域課題に照らし合わせながら、学ぶ機会となっている。 	
	地域介護支援 予防	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関の会合等に参加し、介護予防活動状況を把握し、それらを育成・支援する。 認知症サポーター養成講座や成年後見、虐待の講演会を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座について、異業種の方にも認知症の知識を得る機会を設ける事が出来た。次年度においても、要請を受けた際には開講して行く。 定例地域ケア会議において、ケアマネジャーが抱えている事例についての協議、各圏域の情報を得る機会となった。今後も、変化する地域課題や事例を通して学びを深める場として行きたい。 高齢者低栄養事業では、改善し終了した方もおり、今後も対象者の継続支援を行っていく。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議を通して、地域の課題を抽出し、その解決のために地域の支え合いの会の発足を支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> 3月に、支え合いの会の活動報告及び協議の場として、圏域の地域ケア会議を開催した。ささえあいの会の活動内容の情報の共有、課題を見出し、圏域内における他の地域においても活かせる情報等があれば活用して行きたい。 		

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 都賀		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	33,433			
	高齢者人口	9,275			
	高齢化率	27.74%			
担当圏域 地区課題	<p>駅周辺は高齢化率30%弱であるが、5つの地域のうち2つが高齢化率40%台後半で、独居・高齢者世帯が多い。危機感を持ち、地域の活動が活発な地域でも、ボランティアが高齢化してきており、担い手も少なくなっている。老々介護をしている世帯も多く、介護に関する相談は増えている。同一町内でも高齢化率の高い地区と低い地区が混在している。</p>				
活動方針	<p>地域住民が住み慣れた町で生活を継続できるよう、区保健福祉センター、社会福祉協議会や生活支援コーディネーター等と連携して地域課題を把握し、解決できるよう取り組む。 あんしんケアセンターの業務内容の周知活動を継続する。</p>				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談等で必要と認められる場合は、基本チェックリストを実施し、事業対象者の把握を行う。 生活支援コーディネーターや社会福祉協議会と協働し、NPOやボランティア等の地域資源の情報把握や支援を行い、地域の相談者に繋げる。 若葉コミュニティーセンターや若葉いきいきセンターと連携を図る。 区健康課や若葉区5センターとの介護予防事業に関する意見交換会(4・12月)に参加し連携を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 基本チェックリストを実施し、短期リハビリ型通所サービス等に結び付ける事はできたが、件数は少ない。今後も自立支援に資する支援を行っていく。 昨年度と比べると、社会福祉協議会や生活支援コーディネーターと情報共有する機会も増え、また区健康課等との意見交換会に参加する事で、介護保険サービス以外の地域資源の把握ができており、その情報を地域住民に結び付ける事ができつつある。 昨年は改修工事中であった都賀コミュニティーセンターやいきいきセンターとも、センター祭り時の出張相談や認知症サポーター養成講座、体操教室等で連携を図っており、活動内容についても少しずつ理解できてきている。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談の内容に対して毎夕のカンファレンス時に3職種間での情報共有を図り、緊急レベルに応じてチームアプローチを行う。 区役所、あんしんケアセンターから遠方の地区での出張相談を開催できるよう、自治会や民生委員と調整を行う。 若葉区多職種連携会議(7・1月)開催時、顔の見える関係を構築し、事例を通じて連携を図る。 ソーシャルワーカー連絡会で区内のソーシャルワーカーと横のつながりを構築していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 毎夕のカンファレンスで情報共有し、支援困難ケースについては複数人で対応している。様々な職種が関わる事で、多方面から考えられるようになってきている。今後も毎夕のカンファレンスと複数での対応を継続していく。 地域住民のニーズ把握と介護保険以外の資源の紹介は、少しずつできているがまだ不十分と感じる。ワンストップでの対応をスムーズに行えるように努める事が必要である。 民生委員や地域の会合、サロン等にはできるだけ参加し、顔の見える関係作りをしており、相談しやすい環境整備に努めている。 若葉区全体の会議の他、あんしんケアセンター内でも支援困難ケースの事例検討を行っており、対応や意識の共有ができてきている。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 千葉東警察署・生活安全課と若葉区のあんしんケアセンターで年1回情報交換会を開催する。 区内のソーシャルワーカー連絡会で虐待・権利擁護の研修を行う。 必要に応じ、消費生活センターのチラシを地域住民やサービス事業所に送付し、情報共有を図る。 成年後見制度について、成年後見支援センターやNPO法人等と連携できるように努める。 地域住民やサービス事業所に向けて、権利擁護の普及啓発に努める。 千葉市高齢者虐待防止マニュアルに沿って、必要に応じ区高齢障害支援課と連携する。 		<ul style="list-style-type: none"> 消費生活センターや千葉東警察からのチラシを自治会館や利用者に配布し、啓発活動を行っている。 千葉市あんしんケアセンターみつわ台と合同で、地域の民生委員やボランティア団体等に対する権利擁護の講座を行った。次年度以降も継続予定である。 権利擁護の外部研修やソーシャルワーカー連絡会にはできるだけ参加している。研修内容のセンター内での共有も行っている。 今年度から区高齢障害支援課にあんしんケアセンター支援担当職員が配置され、困難事例をはじめ様々なケースで相談・連携が取りやすくなっている。 	
	ケアマネジメント 包括的・継続的 支援	<ul style="list-style-type: none"> 圏域のケアマネジャーと連携が図れるよう、ネットワーク会議を開催する。(年2回) 若葉区あんしんケアセンター管理者会議に参加する。 若葉区定例地域ケア会議に参加する。(毎月) 若葉区合同の多職種連携会議を開催する。(年2回) 個別の地域ケア会議を開催する。(随時) 若葉区支え合いのまち推進協議会に参加する。(年4回) 		<ul style="list-style-type: none"> 個別地域ケア会議は都度行っているが、地域ケア会議にはまだ結びついていない。個人が特定されないような形で地域ケア会議に結び付ける事が難しい。 地域住民と地域ケア会議の打ち合わせをする中で、地域住民の求めているものを理解する事が少しずつ出来てきている。普段から顔の見える関係作りをする事が大切と感じる。 圏域の居宅介護支援事業所とのネットワーク会議を開催し、相互に相談できる関係を構築している。今後も事例検討や講座等を開催していく。 区内のあんしんケアセンター合同での各種会議や支え合いのまち推進協議会に参加し、顔の見える関係作りができた。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区民まつりに参加し、健康チェックを行うとともに介護予防の普及啓発を行う。(11月) 都賀コミュニティーセンター祭りに参加し、地域住民に基本チェックリストを行い健康状態の把握に努める。(9月) 都賀いきいきセンター祭りに参加し、基本チェックリストを通じて介護予防普及に努める。(1月) 高校や地域団体へ認知症サポーター養成講座を開催する。 社会福祉協議会や生活支援コーディネーターとの情報共有ができるよう連携を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 中学校、高校、地域住民や都賀コミュニティーセンター向けに認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に関する普及啓発を行った。 若葉区民まつり、都賀コミュニティーセンター・いきいきセンター祭りや各種体操教室に参加し、パンフレットの配布や介護ミニ講座、相談受付等を行い、介護予防の普及啓発を行った。 総合相談や体操教室に参加した際に基本チェックリストを実施し、短期リハビリ型通所サービス等に結びつけたケースがあった。今後も地域の教室の紹介等を行い、自主的に介護予防に取り組めるよう支援する。 みかんの会に参加し、市内のあんしんケアセンターと連携し、情報共有に努めた。 	
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を把握し、情報共有できるよう社会福祉協議会や生活支援コーディネーター、区健康課と連携を図る。 シニアリーダー教室やいきいき体操開催時に訪問し、必要な支援を行う。 シニアリーダー連絡会に参加し、情報共有と連携を図る。 シニアリーダー養成講座への協力を行う。 高校や地域団体へ認知症サポーター養成講座を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会を通じ、新たに立ち上げたサロンに参加し、相談を受けているケースがある。 既存のサロン等に参加できるか打診しているが、自治会館が改修工事中であったりし、参加できていないところもある。今後もできるだけ地域活動に参加し、顔の見える関係作りを努める。 区内のあんしんケアセンターや区健康課、社会福祉協議会等と情報共有し、地域資源の把握に努めた。 シニアリーダー体操、シニアリーダー連絡会に参加し、連携を図った。 社会福祉協議会と連携し、体操教室の立ち上げの支援を行っていたが、場所の確保(金銭面)と家族の体調不良からの意欲低下の為、中止になった。引き続き必要な支援を行っていく。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 様々な機会を捉えて地域に積極的に出向き、あんしんケアセンターの周知を図る。 あんしんケアセンター内3職種とプランナー間で情報共有し、特定のサービス事業所に偏ることがないように注意していく。 		<ul style="list-style-type: none"> サービス事業所や居宅介護支援事業所の紹介先リストを作成し、特定の事業所に偏らないよう、公正中立な運営を行った。 各種会合や会議の際に、あんしんケアセンターのパンフレットや相談実績等を使い、普及啓発に努めている。少しずつあんしんケアセンターの役割や場所の周知ができてきているが、知らない地域住民もまだ多い為、今後も普及啓発は必要である。 	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 桜木		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	31,664			
	高齢者人口	8,286			
	高齢化率	26.17%			
担当圏域 地区課題	圏域は公営住宅も一部あるが、全体的には戸建ての住宅が多い。町丁毎の高齢化率をみると、18.06%～35.73%と差はあるが、平均は25.87%と若葉区の中では比較的高齢化率は低い。地域住民の地域福祉に関する意識は比較的高いが、社会福祉協議会地区部会との連携には差がある。身寄りのいない一人暮らしの高齢者や介護者に精神疾患等問題がある等複合的な問題を抱えているケースが多い。				
活動方針	29年度の圏域変更に伴い担当地域が縮小したので、若葉区全体の活動と共に地域に根差した当センターならではの活動を展開する。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ol style="list-style-type: none"> 介護保険法改正等の最新の情報を収集し、講演会等でわかりやすく説明できるようにする。 事例検討会で介護予防ケアマネジメントについて検討を行う。ケアマネジメントCのプラン作成を行う。 地域ケア会議や地域のサロンで、住民主体型のサービスBについての支援を行う。基本チェックリストを実施し事業対象者を把握する。 地域に出向いていきいき活動手帳活用について説明する。 		<ol style="list-style-type: none"> 事業対象者⇨要介護認定等手続きが混乱しないように地域包括ケア推進課に問い合わせながら行った。数は少ないが、利用者にとって分かりにくかったと思われる。 請求に関しては返戻等はあまりなかった。地域のケアマネジャーの質問に対して適切に回答した。千葉市の実地調査を受け、軽度者の書類の不備の指摘に関しては、個人ファイルの作成等改善報告書を提出した。 住民主体型サービスの立ち上げ支援はできなかった。現在あるサービスを継続していった。 基本チェックリスト等は適宜行った。 	
	総合相談支援	<ol style="list-style-type: none"> 総合相談のスクリーニングを行い、緊急レベルを分類して対応する。 スクリーニングをし主担当は決めるが、朝礼、スタッフ会議、事例検討会で情報共有を図り、チームとして支援できるようにする。 様々なレベルでの地域ケア会議、多職種連携会議を開催し、地域との連携、情報収集を行う。「困った時の連絡先」の更新を行う。 圏域変更がまだ浸透していないところもあるので、総合相談の窓口としてのあんしんケアセンターの広報活動を行う。 		<ol style="list-style-type: none"> 3月末には総合相談の内容分析を行った。 定期的な会議以外に適宜話し合いを行い、情報の共有を図った。困難事例は複数で対応するようにした。支援経過の記載の充実ができた。 認知症初期集中支援チームについて、1月の多職種連携会議及び2月の介護支援専門員研修会等で周知を図った。一緒に若葉区らしい活動を展開したい。 地域によってあんしんケアセンターの認知度に差があるので、認知度の低い地域への広報・周知活動をどうするかが課題である。 	
	権利擁護	<ol style="list-style-type: none"> 行政との連携を密にし、緊急性の判断、対応の相談を行う。若葉区内5センターで合同のソーシャルワーカー連絡会（年3回）を行う。 若葉区内5センター合同で、東警察署との情報交換会（5月か6月）を実施し、東警察署や千葉刑務所との連携を図る。消費生活センターからの情報を、施設内回覧及び必要に応じて圏域内居宅介護支援事業所へ送付する。成年後見制度に関する普及啓発活動を行う。 施設内の身体拘束虐待防止の研修会や、施設外の研修会に参加する。 		<ol style="list-style-type: none"> 若葉区ソーシャルワーカー連絡会は虐待に関して2月に開催し、引き続き来年度も開催する予定である。施設系のソーシャルワーカーとの連携を図った。 成年後見制度の講演会はテーマが地味なこともあり参加者が少ない。効果的な広報活動を展開したい。 施設内外の研修会に参加した。研修にはできるだけ参加したいが、総合相談等で忙しい時は参加が難しい時もある。 	
	ケアマネジメント 包括的・継続的支援	<ol style="list-style-type: none"> 若葉区5センター合同での地域ケア会議（11月）、定例地域ケア会議（毎月、年度末は若葉区高齢福祉ネットワーク会議として開催）を開催する。個別レベル地域ケア会議も積極的に開催する。多職種連携会議を年2回開催する。圏域内の地域ケア会議、多職種連携会議を開催する。 圏域内（主任）介護支援専門員連絡会を定例化する。年末に圏域内及び委託先居宅介護支援事業所を訪問し、アンケート調査を行う。 第4期若葉区支え合いのまち推進計画に基づいて地域活動の推進支援を行う。 千葉市社会福祉協議会における第3次地域福祉活動実施計画推進委員会に参加し、あんしんケアセンターの立場として協力する。 		<ol style="list-style-type: none"> 若葉区内5センター共同での各種ケア会議、多職種連携会議、事例検討会等を予定通り開催できた。 圏域内居宅介護支援事業所連絡会は定例化し、30年度は3回開催した。来年度も2回開催予定。2月の圏域内介護サービス事業者等連絡会は初めての開催であったが、どのような形で継続していくかが課題である。 	
	介護予防普及啓発	<ol style="list-style-type: none"> 地域の行事等に出席し、介護予防の普及啓発活動を行う。 認知症サポーター養成講座を引き続き開催する。「若葉区子ども力プロジェクト」として、若葉保健福祉センター高齢障害支援課、社協地区部会と協力して中学生向けに認知症サポーター養成講座を開催する。 圏域内各機関と連携し、地域の実情にあった地域ケア会議等を開催し、介護予防の普及啓発活動を行う。 		<ol style="list-style-type: none"> 様々な機会を捉えて介護予防普及啓発活動を行ったが、地域により活動に差があるので、平均化したい。 若葉区子ども力プロジェクトとして、行政と協力して認知症サポーター養成講座を開催した。 加曽利地区での地域ケア会議は開催できたが、それ以外の地区での開催ができなかった。 	
	地域活動介護予防	<ol style="list-style-type: none"> 地域の自主サークルで行っている体操教室を継続支援する。（月2回、2グループ） ボランティア団体との連携を強化し、活動の紹介や地域とのつながり等支援を行う。 いきいき活動手帳を活用し、介護予防支援計画や介護予防ケアマネジメントに取り組んでいく。 		<ol style="list-style-type: none"> 体操同好会はそれぞれ毎回15名近くの参加者があった。都賀コミュニティーセンターの体操教室も広報活動が課題である。 3. ボランティアの高齢化等が地域課題として挙がっているので、今後どのように取り組んでいくかが課題である。 低栄養に関しては、対象者の関心は低いものがあった。 	
	その他	<ol style="list-style-type: none"> 分かりやすい資料を作成し、様々な機会を捉えて広報活動を行う。 利用者のアセスメントに基づいて適切なサービスが利用できるように支援し、その結果を市へ報告する。 		<ol style="list-style-type: none"> 講演会、サロン、祭り等を活用して周知活動に努めた。一部では良く知られているが、認知度が不十分な地域もあった。 適切にアセスメントをし、公正中立の立場からケアプラン作成及びサービス事業所紹介等を行った。 	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 千城台		主任介護支援専門員	(2) 人	社会福祉士	(3) 人	保健師等	(2) 人
担当圏域 地区概況			36,617					
	高齢者人口		12,405					
	高齢化率		33.88%					
担当圏域 地区課題	担当圏域の総人口は、当センター開設時の平成24年10月末時点と平成29年12月末時点と比較して310人の減少、一方高齢者人口は1,190人の増加で高齢化が進行し、高齢化率は33.8%となっている。モノレール沿線の戸建住宅には単身高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増加している。また、市営住宅や県営住宅には地域との関係性が希薄な単身高齢者が居住している。地域の見守りが機能している地域もあるが、生活課題を抱えたまま問題の表面化が遅れ、認知症や精神疾患、経済的困窮等の相談が増加傾向にあり、生活課題の早期発見に向けて地域の関係団体や医療介護機関、行政との連携を更に強化する必要がある。							
活動方針	<p>1. 圏域内各団体との意見交換や情報提供等の交流機会を設け、地域高齢者の現状把握やその機会を通じてセンターからの情報発信等、関係機関との連携を推進することで、地域内の課題を把握し解決に向けて関係機関との協働を行いながら、地域特性に応じた地域包括ケアシステムの構築に努めます。</p> <p>2. 介護予防の必要性や自立支援の理念を普及啓発し、住民主体の自主的な活動が活性化されるよう高齢者自身も支援の担い手として参加できるように、その重要性を地域住民や関係機関へ周知し地域特性に応じた活動を行います。</p>							
センター業務	項目	具体的な活動計画			自己評価			
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防ケアマネジメント等に関する研修等に参加する。 自治会やボランティア団体等の活動への定期的参加や交流を行う。 アセスメントである基本チェックリスト実施時には、早期の機能低下発見に努め、対策を共に検討する。 委託事業所の担当化を継続する。 委託事業所担当者へも同じ視点による支援が行えるよう、必要に応じ書面・面接等連絡と検討を行う。 地域支え合い型支援事業利用開始者へのケアマネジメント作成を促進する。 短期リハビリ型通所サービス事業については、効果が大きいと予測される適切な利用者の選定とケアマネジメント作成支援を行うと共に、いきいき活動手帳等の活用、セルフプランへの移行を働きかける。 			<ul style="list-style-type: none"> 介護予防支援・介護予防マネジメント関連様式の記録方法・内容等についてセンター職員間で勉強会を開催し、「介護予防マネジメントの質の向上」を意識し支援や作成に努めることができた。 自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関し、千葉市より示された基本方針を職員間での周知に努めることで、相談・支援の過程において日常生活の見直しや、自立支援に繋がるマネジメントを心がけることができたことは評価できるが、委託事業所担当者への周知方法は検討までにとどまってしまった。 委託事業所の担当制継続により、記録の整備と共に、適切な助言・指導がスムーズに行われ信頼関係の構築も図れている。 地域支え合い型支援事業は、通所が1ヶ所のみであり、若干名の参加にとどまった。 短期リハビリ型通所サービスは、効果的な選定の困難さがあり、若干名の参加にとどまった。 			
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の地域ケア会議開催に向け、民生委員定例会、社協サロンへの参加等基盤作りを継続して行う。 若葉いきいきプラザの出張相談会(週1回 2時間)を行う。 総合相談困難事例検討会を開催(月2回)し、センター内での情報共有やスーパービジョン機能としての支援方法の見直しを行い3職種共同でチームアプローチを行う。 【区内センター合同】 若葉区地域ケア会議の開催(年1回、11月) 若葉区多職種連携会議の開催(年2回、7月、1月) 若葉区区ソーシャルワーカー連絡会(年3回) 若葉区内センターの社会福祉士会議開催(2ヶ月に1回) 			<ul style="list-style-type: none"> フォーマル・インフォーマル社会資源の把握については、個々での情報把握、個別資料や電子媒体等での情報検索は行っているが、共有化・簡便な活用には至っていない。今後、社会資源の把握を一括的に行っていく際にマッピング等可視化をしていくことで、センター内でのより一層の共有と地域への情報提示が行えるよう努めていく。 週1回の若葉いきいきプラザ出張相談や施設での昼食会、サロン訪問時の講話等地域との関わりの際にあんしんケアセンターの周知を引き続き行った。 総合相談について、複数職種での介入や都度専門職種への相談等を交えることでチームアプローチを行った。 区内合同ソーシャルワーカー連絡会の開催内容・主目的が、各職種の理解からより専門的な支援内容に段階が移行してきており、参加機関も増えてきている。今後もテーマに沿った勉強会としてだけではなく、ソーシャルワーカーの専門性の共有をしつつ、各職種・個々のソーシャルワーカーとしての共通認識の下、より専門性を深めた相互交流・意見交換を元に連携を深めていけるよう努めていく必要がある。 			
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や関係機関への成年後見制度や日常生活自立支援事業等の普及啓発活動として、簡易リーフレットの作成・配布や勉強会を開催する。(年1回以上) 高齢者虐待の早期発見・早期相談に向けて、関係機関や地域住民等に対して、権利擁護事業についての情報交換会の開催や個別ケース等での周知を進める。 認知症サポーター養成講座を開催する。(年2回以上) 消費者被害の最新情報を把握し、関係機関等への周知活動や地区部会サロン等訪問時に地域住民も対象に周知を行う。 【区内センター合同】 千葉東警察署と介護サービス事業者の情報交換会開催(年1回) 			<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座を、中学校(2回)・高等学校(1回)で全3回実施した。学生に対し、認知症の正しい理解を促進した。今後は広い世代への理解を広めていけるよう活動を継続していく。 成年後見制度についてリーフレットを作成したが、配布や活用までには至らなかった。また、日常生活自立支援事業・成年後見制度支援機関と共同による市民向け講座については開催に至らなかった。地域住民への普及啓発活動やセルフケア、虐待について理解を広めていけるよう努めていく。 成年後見制度支援機関として司法書士事務所とのネットワーク作りを行った。圏域内での社会資源の発見やネットワーク拡大に努め、活用していく。 施設における昼食会で、高齢者の権利擁護、消費者被害についての周知活動を行うことができた。今後、周知活動の場を広げていく。 ソーシャルワーカー連絡会において高齢者虐待のテーマに取り組んだ。具体的な事例を通し、その判断基準や発見から介入までの流れを学んだ。高齢者虐待の早期発見、早期相談に向けて関係機関との連携の強化、社会資源の発見や共有に努めていく。 			
	ケアマネジメント継続的支援	<ul style="list-style-type: none"> 圏域主任介護支援専門員連絡会開催(年6回) 圏域地域密着型サービス事業者連絡会(年2回) 圏域事業者情報交換会(年6回) 圏域事例検討会(年4回) 圏域地域密着型サービス交流会(年2回) 【区内センター合同】 若葉区地域ケア会議(年1回、11月) 若葉区多職種連携会議(年2回、7月、1月) 定例地域ケア会議(月1回) 若葉区介護支援専門員連絡会(年2回、9月、2月) 若葉区支え合いのまち推進協議会(年4回) 若葉区内あんしんケアセンター主催の連絡会(年3回、6月、10月、12月) 若葉区内センター管理者会議(随時) 			<ul style="list-style-type: none"> 区内での研修会を通じて様々な専門職間の交流が促進されたと思われるが、介護支援専門員などのケアマネジメントにおいて、地域包括ケアシステムの日常生活圏域での支援活動が今後も重要であると改めて認識した。 上記に鑑み、以前から継続している千城台圏域主任介護支援専門員連絡会の定期開催を通じて、顔の見える馴染みの関係は構築されたものの、今後の具体的な活動の継続や会議の継続性を維持するための課題整理などを改めて行う必要があると感じた。 圏域の事例検討会を行う企画を検討する過程において、主任介護支援専門員から介護支援専門員への支援についての課題の整理を行った。その過程の中で、スーパービジョンについての知識は事例検討会を通じて助言していく手法を選択したが、今後はスーパービジョン自体の研修が必要ではないかと感じた。 圏域の地域密着型サービス事業者の連絡会を行う事ができた。同職種とは違い同業種間の情報交流が促進されたことで、サービス提供と地域とのつながりの関連性を見直す良い機会のきっかけとなったと評価している。来年度以降も、会議の継続意向の同意が参加者から得られたため、参加事業所数を増やしていきたい。 			
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 千城台コミュニティーセンター祭り(10月)、若葉区民まつり(11月)、若葉いきいきプラザフェスティバル(2月)等地域事業に参加する。 地域各部会サロンへの訪問し、圏域内各自治会や老人クラブ、自主活動団体等にアプローチし連携強化を図る。 地域活動や総合相談業務において、基本チェックリスト・いきいき活動手帳を活用する。 直営の「いきいきかがやきクラブ千城台①」「いきいきかがやきクラブ千城台②」「いきいきかがやきクラブ小倉台」「千城台西県営住宅」を月1～2回開催と参加勧誘し、自主グループ化を促進する。 住民への介護予防講座や認知症サポーター講座を開催する。 若葉区内介護予防担当者との連携・情報交換を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 区民まつりをはじめとする地域事業や各部会サロンに参加することにより、介護予防に対する意識が向上されるよう啓蒙活動が意識的に行っている。 直営の介護予防体操教室を開催し、介護予防へのより深い関心と取り組みを支援することができた。また、普及活動の結果、関心が広がり、受け入れ側の体操教室の不足につながっていると考えられる。 介護予防の知識の普及啓発のため、地域住民に対する講話会を開くとともに、地域活動参加時に講話することができた。参加された地域住民の関心は高く、今後も定期的な開催が必要かと思われる。 			
地域介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体との共同事業として介護予防啓発講座等を行うことで充実した内容の開催支援・協力を行う。 ①若葉いきいきプラザ：生きがい活動通所利用者対象とした教養講座(年2回)、②若葉いきいきプラザ：一般向け講演会開催(年2回以上)、③各自治会活動時等に介護予防についての講話等(5ヶ所以上)、④圏域教育機関等における認知症サポーター講座開催(2回以上) 住民主体による介護予防教室等への定期的訪問による活動支援 ①シニアリーダー体操教室(3ヶ所)、②千葉市いきいき体操教室(3ヶ所)、③社協ふれあいサロン(6ヶ所) 若葉区内健康づくり連絡会参加(年2回) 介護予防事業に関する意見交換会参加(年2回) シニアリーダー連絡会参加や養成講座活動支援 			<ul style="list-style-type: none"> 左記具体的活動の実施や継続的取り組みにより、健康増進や介護予防を目的とした団体へ、コミュニケーションを密に取りながら、ニーズに即した助言や活動支援が行えている。 新たな地域活動の場(1ヶ所)へ介護予防担当者の複数回・複数職員の訪問により活動の継続への働きかけを行うことで、リーダーの安心感につながったと考える。 関係団体との日常のコミュニケーションが円滑に図れ、良い関係が構築できていることで、来年度新しい活動の場の立ち上げ予定の団体への相談・支援も円滑に行っている。 地域支え合い型事業については、事業開始時の登録等や利用開始時の関係書類等事務負担の大きさを地域包括ケア推進課へ提言したが、地域支援事業の活性化のために是非検討いただきたいと考えている。 				
その他	<ul style="list-style-type: none"> 千城台コミュニティーセンター祭り(10月)、若葉区民まつり(11月)、若葉いきいきプラザフェスティバル(2月)に参加する。 圏域内で開催される地域密着型サービス(15事業所)運営推進会議に参加する事で地域事業者や地域事業者と地域ネットワークを推進する。他利用者への適切なサービス提供について助言等を行う。 可能な限り外部研修へ参加し職員の資質向上を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> 定例化している地域のイベントには漏れなく参加しており、センターの地域住民への周知活動の他、イベント主催団体や参加団体との交流が増えており、地域内のネットワークが強化されている。 圏域内地域密着型サービス事業者の運営推進会議には漏れなく参加しており、当該事業者や会議参加者とのネットワークが広がっている。また、会議の中でセンターから地域の現状等を発信し、関係者間の情報共有を行っている。 可能な限り外部研修へ参加、参加職員の専門性向上を図る事が出来た。 				

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 大宮台			
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等	
	(1) 人	(2) 人	(1) 人	
担当圏域 地区概況	圏域人口	17,122		
	高齢者人口	7,790		
	高齢化率	45.50%		
担当圏域 地区課題	高齢化率45%を超える圏域であり、独居や高齢者世帯が多く、認知症（疑い）の方が増えている。圏域内の商店や開業医が減っており、交通の利便性も良くないため、生活に支障が出ている。集落が点在している地域特性があり、何らかのニーズを持っていてもサービスにつながっていないなかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。			
活動方針	各地域における地区特性や実情を踏まえて、地域ケア会議等を通じて地域住民が抱える課題を把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組みます。			
項目	具体的な活動計画	自己評価		
センター業務	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の集まりの場に出向き、積極的に基本チェックリストを実施する。 ・社協地区部会や民生委員等の関係団体や生活支援コーディネーターなどと連携し、住民主体の集いの場やインフォーマルサービス等を把握し、情報の周知に努める。特に、中野町と野呂町の活動状況を把握し、支援する。 ・適切なアセスメントを実施し、個々のニーズに合った活動につなげる。 ・区健康課や若葉いきいきプラザ、大宮いきいきセンターと連携を図る。 <p>【区内センターとの合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若葉区介護予防事業に関する意見交換会に出席する（4月・12月）。 ・若葉区シニアリーダー連絡会に出席する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に参加して、介護予防や認知症の啓蒙活動を行った。シニアリーダーの育成が進んだ。 ・シニアリーダー講座修了者による自主グループ5箇所については、定期開催できており、少しずつではあるが地域に定着しつつある。参加者は健康意識が上がり、好評だった。 ・区健康課や区内センターと連携し、介護予防活動に取り組むことができた。 ・訪問型・通所型サービスB、通所型サービスCの利用者はいないが、一般介護予防事業や自主サークル活動につなげた。事業対象者の把握やアセスメント、アプローチが適切に行えているか検討していきたい。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・3職種が連携し、適切に対応する。迅速対応を心掛け、複数人で関わるように取り組む。 ・必要に応じて適切な専門機関や制度、サービス等につなげる。その後の経過を把握しフォローする。 ・終活に関する相談について、専門企業と協働し対応する。 ・地域密着型サービスの運営推進会議に出席する。 <p>【区内センターとの合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若葉区地域ケア会議（年1回/11月）。 ・若葉区多職種連携会議（年2回/7月・1月）。 ・若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）（年2回/5月・9月）。主任介護支援専門員会議（随時）。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会（年3回/6月・10月・2月）。社会福祉士会議（随時）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談には迅速対応を心掛け、3職種が連携し、複数人で関わるように取り組んだ。必要に応じて適切な専門機関や制度、サービス等につなげ、その後の経過を把握しフォローした。終活の相談は少なかったが、イオンライフの情報提供を行った。来年度は地域に向けた説明会の開催等を検討したい。 ・地域密着型サービス運営推進会議には、出来る限り出席するように努めた。 ・若葉区多職種連携会議や若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）、若葉区ソーシャルワーカー連絡会は計画通り開催することができた。 ・昨年10月、若葉区に認知症初期集中支援チームが設置されたことに伴い、若葉区多職種連携会議と若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）にて講師を依頼し、周知と連携に努めた。チーム員会議には毎月出席している。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・社協地区部会や民生委員、自治会等に向け、権利擁護について普及啓発活動を行う。 ・高齢者虐待の予防と早期発見・対応に努める。区高齢障害支援課や他関係機関と役割を明確にし連携を図る。「千葉市高齢者虐待防止マニュアル」に従い適切に対応する。 ・成年後見制度や日常生活自立支援事業について、成年後見支援センターやNPO法人など関係機関との連携を図る。 ・消費生活センターや千葉東警察署と連携を図り、消費者被害情報の把握や対応を行う。 <p>【区内センターとの合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会（年1回）。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会（年3回/6月・10月・2月）。社会福祉士会議（随時）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護については、社会福祉士が中心となり対応しているが、必要に応じて保健師や主任介護支援専門員が同行訪問するなど、協働して取り組んでいる。区高齢障害支援課とは相談しやすい関係が築けており、高齢者虐待に関する個別ケース会議の開催や同行訪問など連携して対応できている。 ・若葉区内介護サービス事業者を対象に、今年度も「千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会」を開催することができた。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会については、区内センターの社会福祉士等と協力し、計画通り開催できた。参加機関も増えている。 ・権利擁護に関する普及啓発については不十分であり、地域ケア会議や地域活動の場等において普及啓発を行っていききたい。ケアマネジャーに対しては茶話会において振り込み詐欺の情報提供を今年度も実施した。 	
	ケアマネジメント 継続的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別事例についての地域ケア会議を開催する（随時）。 ・圏域（地区）毎の地域ケア会議を開催する（年1回）。 ・圏域内介護支援専門員に茶話会を開催する（年3回）。 <p>【区内センターとの合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若葉区地域ケア会議（年1回/11月）。 ・定例地域ケア会議（月1回）。年度末は若葉区高齢者保健福祉相談ネットワーク連絡会として開催する。 ・自立支援強化のための地域ケア会議（年2回）。 ・若葉区多職種連携会議（年2回/7月・1月）。 ・若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）（年2回/5月・9月）。主任介護支援専門員会議（随時）。 ・管理者会議（随時）。 ・若葉区支え合いのまち推進協議会（年4回）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の介護支援専門員に対する茶話会については、年3回の開催予定が年2回の開催だった。情報共有やニーズ把握の場となり、介護支援専門員同士のつながりの機会にもなっている。 ・白井地区における地域ケア会議については、今年度も開催に至らなかった。来年度は積極的に話し合いの場を持ち、地域ケア会議を開催したい。 ・若葉区地域ケア会議と若葉区多職種連携会議、定例地域ケア会議等については、区内センターと連携して実施できた。若葉区多職種連携会議については、今年度、事務局として在宅医療・介護連携支援センターや関係機関と連携を図った。 ・若葉区介護支援専門員連絡会については、訪問看護ステーションや認知症初期集中支援チームの方を講師に招き、在宅医療・介護の連携を深めた。 ・昨年度開催のなかった介護サービス事業者向け研修会「ケアとキュアの基礎固め」を開催した。とても好評だったとのことで、来年度も開催を検討したい。 	
	介護予防 普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座を開催する。 ・地域の高齢者に向け、あんしんケアセンターにて「お達者カフェ」を開催する（月1回）。 ・民生委員定例会や自治会活動、ふれあい・いきいきサロン等に参加し、講演会や説明会を開催する。基本チェックリストやいきいき活動手帳等を活用する。 ・大宮いきいきセンター生きがい活動支援通所事業の参加者に対し講演会（教養講座）を行う。 <p>【区内センターとの合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若葉区民まつりに参加し、介護予防の普及啓発を行う（11月）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に向けての認知症サポーター養成講座の開催がなかったので、地域や団体を検討する必要がある。来年度、学生から高齢者まで、様々な方向けの開催を検討する。 ・「お達者カフェ」については定期開催できなかったが、町内のブロック毎にチラシを配布したこともあり、今年に入り毎月開催できるようになった。来年度は、「お達者カフェ」について力を入れたい。 ・地域のイベントへの参加、集いの場での説明会等を実施した。健康課と協力して実施できた。 ・今年度は大宮いきいきセンターではなく、若葉いきいきプラザの生きがい活動支援通所事業の参加者に対する講演会（教養講座）を行った。 ・若葉区民まつりについては、区内センターと協力し周知活動を行った。 	
	地域活動 介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者に向け、大宮いきいきセンターにて「元気アップOB会」（月2回）と「にこにこクラブ」（月2回）を開催する。今後も自主サークルに向けた支援を継続する。 ・シニアリーダー講座修了者が実施する自主サークル「あやめ会」、「シニア体操白井」、「大宮町親睦会」、「シニア体操高根」、「スマイル大宮台」の後方支援を行う。 ・多部田町地区での自主サークル立ち上げを検討する。 ・地域でリーダーとなる人材を発掘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンター主催の「元気アップOB会」、「にこにこクラブ」は計画通り開催できた。 ・シニアリーダー講座修了者が実施する5団体の自主サークルについては、定期的に訪問して後方支援を行った。さらに自主的に取り組めるよう関わっていききたい。 ・新宮田地域については、月1回ふれあいサロンが開催され、体操や脳トレなど自主的な活動を行えているので、引き続き後方支援を行うこととした。多部田町地区については引き続きも検討中である。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案する。 ・複数の事業所を紹介し、特定のサービス事業所の利用を不当に誘引しない。 ・サービスごとにファイルを作成し、事業所のパンフレット等を整理する。 ・個人情報マニュアルを遵守し、適切に管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンターの運営費用が、税金や介護保険料によって賄われていることを理解し取り組んだ。 ・適切なアセスメントに努め、個々のニーズにあったサービスを提案した。また、自己決定できるように、複数のサービス事業所を紹介した。特定の種類又は特定のサービス事業者に偏ることなく、公正・中立性を確保することができた。 ・個人情報については、マニュアルの遵守と適切な取り扱いに努め、管理徹底できている。 	

平成30年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 鎌取		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	60,573			
	高齢者人口	9,413			
	高齢化率	15.54%			
担当圏域 地区課題	<p>1. 地域特性は鎌取駅を中心とした繁華街、住宅街、古くからの農村地帯、昭和50年から60年代に建設された公営住宅5か所など多岐に渡る。</p> <p>2. 高齢化率は14.9%で千葉市内で最も低く、5～10年後には高齢化率が急激に伸びると予測され、介護予防や生活支援体制の受け皿が不足する事が見込まれる。</p> <p>3. 呼び寄せ高齢者が多い地域や、自治会加入率が低迷している地域がある。地域づくりや支援体制に地域差が生じているとともに、担い手の高齢化がある。</p>				
活動方針	<p>1. 圏域の人口は6万人と非常に多いため、より詳細に各地区の特性と課題の把握に努め、地域包括ケアシステムの構築を目指す。手段として地域課題に応じた地域ケア会議を開催する。</p> <p>2. 後期高齢者の割合は6%と低いため、要介護状態に陥らないよう外出の場やサロン、体操教室等でセルフケアの重要性をアプローチするほか、必要な社会資源を住民が創設していけるよう関心を高めていく。</p> <p>3. 平山地区で認知症サポーターの養成を進め、地域全体で認知症に対する理解を深めるために、認知症徘徊訓練を実施する。</p> <p>4. おゆみ野地区で地域住民の感じている課題と介護支援専門員やリハ・パートナー等の専門職が感じている地域課題のすり合わせを行い、地域の理解を深める。この活動を重ね、住民と専門職を繋ぎ、おゆみ野地区の地域包括ケアシステム構築に向けたきっかけ作りを行う。</p>				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<p>①総合事業制度を適切に理解できるような情報発信に努め、生活支援コーディネーターや住民主体の活動団体、関係者らとの連携を図り、互助活動の促進、自立支援に向けた支援を働きかける。</p> <p>②関係機関との連携を密に、地域住民の通いの場に関する情報を定期的に発信することで、介護予防に関する意識や地域との繋がりに関する意識を醸成する。</p> <p>③生活機能低下の原因や背景を分析し、課題を整理した上で個々の興味や関心のあることを中心に対象者と共に目標の設定を行い、活動や参加に繋がるよう支援する。</p>		<p>①総合事業利用対象者については、各サービスの違いについて説明を行いながら、適切な利用がなされるよう支援を行った。圏域には通所型住民主体型サービスの登録事業所があるが、他の通所サービスとの併用ができず、利用についての不便さが課題となっている。</p> <p>②年間を通じ4回広報誌を発行した。広報誌だけでなく地域のサロンや社協地区部会などのチラシを併せて配布することで、他の通いの場に興味を持たれ参加する人が増えている。</p> <p>③要支援認定者に対し、多様な社会資源やセルフケアを通じ、要介護状態の予防に繋がるよう支援を行っているが、介護保険サービスの利用を前提に考える方も少なくない。そのため、適切な制度利用と自助・互助活動の重要性について理解を促す必要がある。</p>	
	総合相談支援	<p>①専門職は自己研鑽に努め、ワンストップの相談窓口として相談機能を高め、支援のタイミングを逃さず適切な機関・制度・サービスへつなげる。</p> <p>②緑保健福祉センター各課や各関係機関・地域資源となる団体を把握し、関係者とのネットワークを構築する。</p> <p>③住民と日頃より相談しやすい関係を作ると共に、生活不安のある高齢者宅を訪問し、早期支援につなげる。</p> <p>④総合相談内容を分析し、地域の関係者や住民、ケアマネジャーなどへの情報発信及び情報収集に努める。</p> <p>⑤専門的な知識を持つ民間企業と協働するとともに、地域に応じた情報収集並びに情報発信をする。</p>		<p>①適切な相談対応をおこなうため、知識、技術の向上に努めるほか、三職種間での情報共有を図りながら対応に関する標準化を心がけた。</p> <p>②日常の相談対応での地域連携のみならず、地域ケア会議や事例検討など、お互いに顔を合わせながら課題解決に向けた話し合いを行うことで、地域包括ケアシステムの構築に努めた。</p> <p>③記録をPC入力としたことで、情報の共有化と業務の効率化を図ることができた。入力方法を検討し、一覧表を月毎に作成したことで、後追いが必要な対象者については連絡をとりながら経過を確認することができている。</p> <p>④毎年、年度末に総合相談内容の分析を行い民生委員に情報発信を行っている。センターの業務や相談内容についての周知を行うことで、相談件数の増加に繋がっていると考えられる。</p> <p>⑤エンディングサポート事業の一環として、イオン鎌取にて「終活」に関する公開講座を今年度も企画した。70名を超える参加があり、このテーマに関する住民の関心の高さがうかがえた。しかし、「終活」については関係する分野が多岐にわたるため、センターでの対応力向上と関係機関との連携に努め、支援体制の強化を図る必要があると考えられる。</p>	
	権利擁護	<p>①緑区高齢支援班と3センターの社会福祉士による虐待対応連絡会は、虐待ケースに関する報告にとどまることなく、ケース検証や対応に関するスキルアップを図るための勉強会として位置付け毎月開催する。</p> <p>①-2) 緑区3センター合同による虐待勉強会は、より効率的・効果的な研修とするべく開催回数、開催方法を見直し、実施する。</p> <p>②認知症や判断能力が不十分な方などに関わる際は、権利擁護の意識を持ち、成年後見制度や日常生活自立支援事業の活用などニーズに即したサービスや機関に繋ぐなど適切な支援を提供する。</p> <p>③消費者被害を防ぐため、消費生活センターや警察などとの連携を通じ、地域のサロンや見守り活動会議、イオンでの公開講座など様々な機会を通じて、注意喚起を行っている。</p>		<p>①今年度から虐待連絡会は2か月に一度の開催とし、事例検討に重点を置いたことから、対応力向上に繋がったと考えられる。しかし、有意義な検討を行うためには、扱う事例の選定だけでなく、ファシリテーターが重要となる。次年度は、事前の準備を充分に行いながら、効果的な会の運営を目指す。</p> <p>②成年後見制度や日常生活自立支援事業についての住民の関心は高まっており、将来に備え学んでおきたいという相談も増えてきている。そのため、成年後見制度の住民向け公開講座は、次年度も開催を検討していくこととする。</p> <p>③イオン鎌取にて、警察職員の詐欺被害に関する注意喚起や消費生活センターの公開講座を開催したことで、地域住民に対する啓発活動を行うことができた。</p>	
	ケアマネジ メント 支援	<p>①医療系サービス及び、障害福祉サービスに関わる専門職とのネットワークを構築し、連携体制の強化に努める。認知症初期集中支援チームとの連携に努め、認知症の初期における対応を強化する。</p> <p>②高齢者の実態を把握し課題を整理するとともに、ネットワークを活用し、地域ケア会議を効果的に開催する。</p> <p>③事例検討会をあんしん蒼田と共催にて年4回、鎌取圏域ケアマネ連絡会を年3回、緑区あんしん3センターで緑区ケアマネ連絡会を年2回、緑区主任ケアマネ連絡会を年2回開催する。その際は、介護支援専門員の視点での企画・運営に努め、資質向上のために役立つ内容となるよう検討していく。また、自立支援強化のための地域ケア会議を緑区高齢障害支援課と協働し開催する。</p>		<p>①地域包括ケアシステム推進のため、医療・介護・障害等の専門職を繋ぐ機会を設けながら連携の基盤作りを行い、徐々に連携の範囲を広げられている。</p> <p>②地域課題解決のための地域ケア会議については、積極的な実施には至っていないが、センターから住民に地域特性等を情報発信することで、地域課題について考える動機付けができている。</p> <p>③介護支援専門員への個別支援においては、個人の力量や経験について配慮に努めながら自立支援の視点や総合事業に関する考え方を、適切にケアプランに位置付けてもらうよう重点的に対応した。研修等は、特定事業所や居宅主任介護支援専門員との連携により、実践に求められる内容を精査しながら企画・運営することができた。それらを通じて、居宅主任介護支援専門員の役割に対する認識を高める結果にも繋がられている。</p>	
	介護 予防 普及 啓発	<p>①地域活動の場や総合相談などで基本チェックリストを実施し、対象者が健康について見つめなおすためのきっかけづくりを行う。セルフケアに繋がれるようにいきいき活動手帳の活用を促進する。(今年度新規配布者5名を目指す。)</p> <p>①-2) 地域住民自身が介護予防の重要性を理解し、個人や活動団体が意識的な取り組みができるように、ミニ講座等を行う。</p> <p>②住民運営の通いの場が展開されるよう、介護予防の意識を確認し、地域代表者や生活支援コーディネーターと連携を図るとともに、自主的な活動が行われるよう働きかける。</p> <p>②-2) 地域基盤を把握する情報収集に努め、地域アセスメント結果に基づき、地域リハビリテーションの観点からリハ・パートナー等の専門職と地域住民を結びつけ、地域共生社会の実現に向けたネットワーク構築を目指す。</p>		<p>①健康測定会では、基本チェックリストだけではなく、健康講座、介護予防の情報発信を併せて行うことで効果的な啓発活動に繋がったと思われる。</p> <p>②住民一人ひとりが介護予防を意識し、且つ、継続的に取り組めるよう関係機関との相談の機会を設け、住民主体の通いの場への発展に繋げることができた。また、既存の団体に対しては、地域リハビリテーション活動支援事業でリハ・パートナーと協働で健康講座を開催した。尚、介護予防に関する啓発として効果的活用に関与するための体制作りが必要と考えられる。</p>	
	地域 活動 介護 予防	<p>①既に地域において活動を開始している団体に定期的にお伺いをするすることで、地域課題の集約を行い、また、当センターの広報誌を活用した活動紹介などを行うことで、地域活動団体の活性化に繋げていく。</p>		<p>社会福祉協議会緑区事務所や生活支援コーディネーターと連携し、活動団体との関係の構築に努め、住民の自主的な介護予防への取り組みの促進に重点を置いた。圏域内34か所の活動団体を訪問し、活動状況やニーズ等を把握すると共に、必要な情報の発信に努めた。地域資源の活用や住民同士のつながりの効果を得て、地域の活性化が図れている。</p>	
	その他	<p>①公正・中立・個人情報保護を厳守し、公的機関としての事業運営を図る。</p> <p>②業務の効率化と、相談対応の標準化を図り、質の向上を目指す。</p> <p>③幅広い世代に認知症に関する理解を地域全体に深めていく。認知症初期集中支援チームとの連携を図り、適切な支援につなげる。</p>		<p>①公正・中立・個人情報保護の徹底を図り、公的機関としての適切な事業運営に努めた。</p> <p>②業務の効率化と相談対応の標準化を図るため、必要に応じ事業所の一覧表を作成した。今までに作成した事業所マップも随時見直しを図りながら、内容の充実にも努めた。一覧表やマップをお渡しすることで、利用者の選択に基づいたサービス利用に繋げることができた。</p> <p>③認知症サポーター養成講座の開催を通じ、小学生や中学生なども含め幅広い年代に認知症の啓発ができた。認知症初期集中支援チームへは必要性に応じ依頼しており、介入が困難なケースを適切な支援に結びつけることができた。</p>	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 誉田		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	22,983			
	高齢者人口	6,239			
	高齢化率	27.15%			
担当圏域 地区課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 圏域は誉田中学校区と同一の4町で構成され、緑区中心部から離れていて、行政の窓口は遠い。 2. 駅周辺を除くと、交通の便が悪く、元気な高齢者であっても外出がしにくい。 3. 社協や町内会の活動は続いているが、新しい活動やNPOが育ちにくい。 				
活動方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護予防の啓発や活動支援に一層力を入れ、高齢者の自立が促進できるような環境を作り出す。 2. 複数の課題を抱えたケースの課題解決に向けて、より包括的な支援を行う。 3. 地域課題について地域ケア会議で解決を探るとともに、他の会議においても検討する時間を設けて多角的に解決を図る。 				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 的確なアセスメントにより、個々のニーズにあったサービスや場を提供し、生きがいをもてるように支援していく。 2. 民生委員や自治会などの集まりに参加して、丁寧な説明を繰り返して行う。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 短期リハビリ型通所サービス事業など「リハビリ特化型」のサービスへの興味は、以前から高いものを感じているが、事業の利用要件が希望者の生活実態にあわないこともあり、利用者数が伸びなかった。 2. 介護予防の利用割合が年度当初から漸増している一方で、総合事業の利用割合は、ほぼ横ばいである。介護予防にはリハビリのメニューがあることが大きな要因だと思われる。これらの利用者を、住民主体の運動教室へ移行させて、サービスに頼らない自立を勧めたいが、肝心の住民主体の通いの場を増やせなかった。 	
	総合相談支援	<ol style="list-style-type: none"> 1. アンケート調査を実施し、地域特性や地域課題を把握する。生活支援コーディネーターとの連携を深める。 2. 相談の対応に当たっては、センター外の専門職からも積極的にアドバイスを受ける。 3. 住民とともに学ぶ機会を設ける。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 交通の便が悪いことから、「出向いて行く」ことに力を入れているところであるが、その成果かアンケートの効果か、来所相談者が漸増している。相談内容も、数年前まではもっと「施設入所の相談」が多かったが、最近では在宅介護に関する相談のほうが目立つようになっている。 2. 6月から経験のある主任ケアマネが入職したことで、センターの総合力が高まり、職員にゆとりが出たことで、より迅速に、より手厚い相談体制がとれるようになった。本年1月には、経験のある保健師も入職したので、今後さらにきめの細かい相談力を発揮していけると思う。 3. 住民に対していろいろな所で介護保険などの制度を説明しているが、集まる方々はもともと意識の高い方が多い。なかなか自分のこととして受け止めようと思えない方たちへのアプローチは、まだ弱いと思う。地域限定ではあるが、全戸訪問のアンケートを実施しているのだから、それをきっかけにこの地区の自治会と、もっと近づけると良かったと思う。 	
	権利擁護	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. 毎月の緑区高齢障害支援課との連絡会を継続し、情報共有だけでなく、事例検証や勉強会などを行いスキルアップを図っていく。 1-2. 自治会や民生委員の集まりなどに参加して、高齢者虐待についての広報を行う。 1-3. 虐待の相談には、区高齢障害支援課などと情報共有を図りながら、早期に対応を行う。 2-1. 広報紙を活用したり、高齢者の集まる場所に出向くなどで、成年後見制度や消費者被害防止の広報を継続する。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 緑区高齢障害支援課と緑区3センターの社会福祉士との連絡会を定期的に開催し、情報交換を行ったり、虐待ケースの相談、勉強会を行っている。虐待防止に向けての周知は、広報紙で行ってはいるが、虐待の相談はほとんどない。虐待の芽を見つけられる工夫が必要だと感じている。 2. 消費者被害について、広報紙での周知、貯筋倶楽部での広報を行った。この1年、あんしんケアセンターに消費者被害の相談はなかった。成年後見制度については、成年後見制度の利用につながった方が1人いた。しかし、その他、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用につながった利用者はいなかった。日常生活自立支援事業や成年後見制度についての広報の工夫が必要だと感じている。 	
	ケアマネ 包括的・継続的 支援	<ol style="list-style-type: none"> 1. 誉田あんしんネットワーク会議などで、参加機関や団体などから情報を得る。個別訪問のアンケート調査を継続し要支援者を発見する。 2. 事例検討会や地域ケア会議に参加を促し、自身の振り返りにも反映してもらおう。 3. 民生委員や自治会だけでなく、一般住民やボランティアなどとの顔合わせの機会を作る。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域ケア会議をもっと気軽に開催できるようにしていきたい。そのためにも、センター職員が会議を企画・運営する力をもっとつける必要がある。「第三者から」とか「多職種から」の言葉には、いつも気付きがあり、このような場で、直接言葉を交わすことは、とても大切だと思う。 2. 主任ケアマネジャーと協力し、ケアマネジャーの資質を向上させる取り組みは行ったが、主任ケアマネジャー自身の資質向上に向けた取り組みができなかった。 	
	介護予防普及啓発	<ol style="list-style-type: none"> 1. イベントへの参加、自治会やサロンへの訪問を増やす。体力測定・健康チェックなどを行い、介護予防を喚起する。 2. 認知症サポーター養成講座ならびにフォローアップ講座を開催し、認知症を理解して、実際に支援を体験してもらおう。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康フェアへの参加、地域のお祭りやふるさと祭りの参加、サロンや老人会等の訪問、ほんだ貯筋倶楽部の開催等の機会を通して、地域の高齢者が元気に暮らすことを目指すように啓発した。健康測定会や基本チェックリストを行い、自身の状態を知る機会を多くしたことで、健康に対する意識向上へのきっかけになったと考える。次年度も健康測定会を継続し、測定結果の経年的変化がわかるような方法を検討していきたい。 2. 地域住民を対象に認知症サポーター養成講座（2回）、オレンジカフェ講座を開催し、認知症を肯定的に受け入れられることを目指した。ジュニアサポーター養成講座では、毎年参加型を求められるため、次年度はそのような工夫をしていきたい。 	
	地域活動 介護予防 支援	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. シニアリーダーになれる人材を探す。 1-2. 地域での教室が増えるように自治会・老人会等へ広報活動を行う。 2-1. オレンジカフェなどのボランティアを増やす。 2-2. 活動の中心になっている住民との連携を図る。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人会やサロンへの参加や誉田2丁目町内会での講座等で、地域での運動教室を増やすことの利点を啓発した。また、シニアリーダー体操連絡会に参加して、地域の動向を確認していった。来年度に誉田2丁目町内会との連携で、教室の立ち上げに向けて計画が進んでいる。今後は、他の地域でも増やしていけるように啓発していきたい。 2. サロンや老人会、自治会での運動教室やシニアリーダー体操教室に訪問して状況を確認、地域住民への広報を行った。さらに立ち上げた後、継続していくためには、健康維持・介護予防の必要性の周知を工夫していく必要がある。地域の現状を伝えるツールとしてマップを作成するなど「見える化」を検討していきたい。 	
	その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委託事業所・利用事業所が偏らないように、チェックする。 2. 自治会や個別訪問を通して、世代を超えた周知活動を行う。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員は常に公正中立を意識して、業務に当たっている。 2. 広報のチラシには、もっと視覚に訴える書き方を工夫したほうが良かったように思う。 	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 土気		主任介護支援専門員 (3) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	45,212			
	高齢者人口	12,368			
	高齢化率	27.36%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の転入で高齢化率が10%に満たない地区が一部あるが、昭和50～60年代頃に宅地開発された地区等は高齢化率が45%を超えており、類似した地域が複数あり、多くの地区で高齢化が進行している。 ・単身や高齢者夫婦のみの世帯が多く、孤独死の発生や老老介護の状況も多く見られる。また、同居家族が精神疾患や障害を抱えていたり、経済的に困窮していたり等複合的な課題を抱える高齢者に関する相談が増加している。 ・圏域内に入院可能な医療機関が一か所しかなく、総合病院ではない為、他区や他市の医療機関へ入院や通院をしなければならず、入院や退院後の通院時困る高齢者が多い。 ・圏域全体的に交通の便が悪く、通院や買い物等移動に困る高齢者が多い。 				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が高い地域について関係機関との連携を強化、支援ネットワークを密にし、徘徊高齢者声掛け訓練等地域への働きかけを積極的に行っていく。 ・高齢化率が比較的低い地区では、スーパーでの出張健康相談の開催等センターの周知活動を積極的に実施する。 				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	予防支援事業 第1号介護	<ul style="list-style-type: none"> ・利用対象者に対してアセスメントを実施し、適切で効果的なサービス利用に繋げ、「地域コミュニティの中での孤立や閉じこもり予防」、「社会参加」、「生きがづくり」等についても配慮し、住民主体の集いの場やその他地域のインフォーマルサービス等の情報収集、発信を行い、個々のニーズに合わせて活用し、マネジメントをしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態やニーズを把握し、インフォーマルサービス等地域資源を活用し、自立支援に向けたケアマネジメントを意識し業務を行った。地域のインフォーマルサービスや地域資源情報について収集し、センター職員間や居宅介護支援事業所に対し、情報発信を行った。今後も、地域のインフォーマルな資源情報を継続的に収集し、ケアマネジメントに活かしていきたい。 ・生活援助型訪問サービスについて対応可能な事業所が少なく、一部に限られてしまっている現状がある。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や自治会、社協地区部会の会合等地域の関係者が集まる場へ出向き、顔の見える関係づくりを継続して行い、互いに相談しやすい体制をつくる。 ・蓄積した相談データについて地区別相談件数や相談内容等の分析や地区診断を行い、地域の関係者へフィードバックし、地域の現状や課題を共有し、課題の解決に向け地域ケア会議等で検討していく。(年11回) ・総合相談についてセンター内ミーティングで共有し、緊急性の判断や支援方針を検討し、チームで支援をしていく。必要に応じて関係機関と連携し、個別ケース会議や地域ケア会議を実施し、課題解決に向け取り組む。 ・警察や消防等の専門機関やスーパーや商店、コンビニ等様々な関係者とのネットワーク構築を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や自治会、社協地区部会の会合等地域の関係者が集まる場へ出向き、顔の見える関係づくりを継続して行い、互いに相談しやすい体制づくりが行えた。 ・蓄積した相談データについて地区別相談件数や相談内容等の分析や地区診断を行い、地域の関係者へ提示し地域の現状や課題を共有し、課題の解決に向け地域ケア会議等で検討した。 ・総合相談についてセンター内ミーティングで共有し、緊急性の判断や支援方針を検討した。また、必要に応じて関係機関と連携し、個別ケース会議や地域ケア会議を実施し、課題解決に向け取り組んだ。 ・個別ケースの対応で、警察や医療機関、消防(救急)、コンビニ等様々な関係者と連携し、対応したことでその後の連携もスムーズに行えた。特に、高齢者の家族で疾病や障害がある、もしくは障害が疑われるケース等障害福祉分野の相談支援専門員と連携、協働して対応した。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待の早期発見・対応に努め、相談を受けた場合には区高齢障害支援課や関係機関と連携し、迅速かつ適切に対応する。 ・高齢者虐待防止、成年後見制度、消費者被害防止について民生委員や介護支援専門員等地域の関係機関に対し啓発活動を行い、早期発見できる体制づくりを行う。 ・区高齢障害支援課と虐待連絡会を毎月開催し、虐待ケースの情報共有と対応方法の検討を行い、緑区内あんしん合同で年1度権利擁護に関する勉強会を実施する。 ・区高齢障害支援課や成年後見支援センター等成年後見関係職能団体と連携し、成年後見制度や日常生活自立支援事業利用に繋げる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待の相談通報時は区高齢障害支援課や関係機関と情報共有し、適切な対応を行うように努めた。 ・相談通報後の事実確認及び情報収集については迅速に行い、高齢者の安全確保を優先し、養護者支援についても並行して行い、経済的な支援や心理的な支援を行った。 ・区高齢障害支援課と虐待対応連絡会は2か月に1度開催し、ケースの情報共有と支援方法の検討を行っている。 ・権利擁護が必要な高齢者に対し、区高齢障害支援課や成年後見支援センター、NPOや司法書士等と連携し、成年後見申し立てや日常生活自立支援事業に繋げた。権利擁護業務を通じて、弁護士や司法書士等新たなネットワークができた。 ・高齢者虐待防止、成年後見制度や消費者被害防止の情報について民生委員や介護支援専門員等へ周知した。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議、多職種連携会議を開催し、医療・介護の連携強化及び関係機関、多職種協働による支援ネットワークを構築、強化を図る。 ・民生委員、区社協、社協地区部会、自治会、生活支援コーディネーター等と地域課題の分析及び課題解決の為に地域ケア会議を実施する。(年11回) ・自立支援強化の為に地域ケア会議を開催する。(年2回) ・緑区多職種連携会議(年2回)圏域での開催を目指す。 ・主任介護支援専門員と医療機関ソーシャルワーカーとの事例検討会を開催する。 ・圏域の介護支援専門員、主任介護支援専門員を対象とした連絡会(研修会)や事例検討会の開催する。(年8回程度) ・緑区合同で介護支援専門員、主任介護支援専門員、居宅サービス事業所を対象とした研修会の開催する。(年4回程度) 		<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに主任介護支援専門員に集まってもらい、今年度、緑区合同でスーパービジョン・ターミナル・ケアマネ育成についての研修の協力をお願いした。来年度も、企画から主任介護支援専門員に協力を依頼するが、個々の主任介護支援専門員の立ち位置、事業所の考え方により差があると思われた。主任介護支援専門員が指導者としてスキルアップするために、再度アンケートを行い、3月に意見交換会を行った。 ・土気圏域の連絡会を3回開催、「8050問題」についての勉強会を企画した。高齢者の家族が何らかの障害をもつ場合が非常に多い為、障害福祉分野の相談支援専門員に講師に招き、障害福祉サービスなどについて学ぶことができた。 ・土気圏域の事例検討会を4回開催した。特定事業所を中心に5事業所ずつ、企画から話し合い事例検討会を行った。圏域の介護支援専門員の発案で、千葉県聴覚障害者支援センターの理事長にお越し頂き、共にグループワークを行ったり、警察官の参加や課題分析のためのチェックポイントシートを活用する等、これまでと違った進捗の仕方で行う事でスキルアップを図ることができた。他の事業所と交わることで、事業所を超えた意見交換ができた。 ・緑区全体では、主任介護支援専門員の協力を頂き、ターミナル、ケアマネ育成、スーパービジョンの3領域について勉強会を行った。来年度も同様に勉強会を行っていく。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・健康相談会を開催する。(年12回) ・圏域内スーパー・緑いきいきプラザ・いきいきセンターと協力し、スーパー店舗内での健康相談会を開催する。(年1~2回) ・サロンへ6か所程度・シニアリーダー教室・お寺等住民集いの場へ出向き、介護予防に関する講話や体操の実施する。 ・ラジオ体操週3回実施する。 ・広報紙を発行する。 ・健康相談や総合相談・サロン等の機会を通じて、基本チェックリスト・いきいき活動手帳を活用する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は初めての取り組みとして、スーパー店舗内のスペースをお借りして健康測定会を実施できた。スーパーやいきいきプラザ・いきいきセンターとの連携もでき、予想以上の参加があった。これまでもセンター事務所内で健康相談会を実施したり、地域のサロンなどに出向いて介護予防普及活動を行ってきたが、そういった場所に自ら出向くことのできない方やまだ介護予防に関して関心の低い若い世代なども集まるスーパーという場所でも実施できたことで、より広い世代・普段あんしんケアセンターを知らない方へもPRの場となったと思われる。次年度も開催を予定しており、緑区健康課にも協力を得られることとなった。今年度の反省を生かして、より充実した内容となるよう検討していくこととする。 ・いきいき活動手帳や基本チェックリストの活用を進めていけるよう、次年度はサロン訪問に合わせて実施することも検討する。 ・緑区3センター・緑区健康課との連絡会も定期的にも実施できており、お互いの活動内容を把握し、協働した活動にもつながるよう連携を深めていきたい。 	
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンなど住民集いの場へ出向き、各団体の現状や課題について把握に努める。 ・各集いの場を運営するボランティア同士が交流や情報交換のできる会の開催を検討する。 ・認知症カフェの運営の後方支援を行う。 ・認知症徘徊模擬訓練を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・集いの場を運営するボランティアの交流の場の開催に向け、次年度は圏域内の集いの場の中でまだ訪問できていない散歩クラブや老人会等へ出向き、その活動内容の把握に努めることとする。 ・認知症カフェも地域に定着してきている。認知症の家族を連れて参加される方も多くなり、あんしんケアセンターへの問い合わせも増えてきている。次年度は、スタッフの勉強会なども計画しながら認知症カフェの運営が継続していきけるよう、反省会や主担当との話し合いを定期的にも実施しながらサポートしていくこととする。 ・圏域内で初めてとなる、徘徊模擬訓練を計画通り実施することができた。準備期間から大椎台自治会の福祉委員会メンバーとの話し合いを重ね、認知症サポーター養成講座も行い、住民の皆様にも認知症についてより理解を深めていただくきっかけになったと思われる。さらに認知症の方への対応の仕方について学びたいという意欲的な感想も聞かれ、認知症の方を見守り、支えられる地域づくりにつながるよう、今後もサポートしていきたい。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取扱いに関しては、千葉市個人情報保護条例及び関係法令を遵守するほか、個人情報を管理する等細心の注意を払い業務にあたる。 ・居宅介護支援事業所やサービス提供事業所の紹介にあたっては、利用者ニーズに合わせてマップやリストを使い、複数の事業所の情報提供を行い利用者の選択を促している。紹介台帳を記録し公平性が保てるように注意している。居宅介護支援事業所や生活援助型訪問サービス事業所については、受託ができる事業所に限られ、やや偏りが出る面があった。通所介護事業所についても、短時間受け入れが可能な事業所は利用者の希望も多く、やや偏る面があった。 				

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 真砂			
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等	
	(1) 人	(2) 人	(1) 人	
担当圏域 地区概況	圏域人口	24,922		
	高齢者人口	7,760		
	高齢化率	31.14%		
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居・高齢世帯が多く、その中でも新しく転入する人（呼び寄せ高齢者・外国人等も含む）が増えてきている。このため近隣との交流が希薄なため問題が潜在化しやすい。 ・ エレベーターのない高層住宅が多数あり、外出が困難となり高齢者の閉じこもりが問題となっている。 ・ 圏域に医療機関及び介護サービス事業所が少ないため、在宅医療や自立支援に向けた社会資源の選択に懸念がある。 			
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援が必要な高齢者の早期発見に努め、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように適切な支援につなげる。 ・ 地域包括ケアシステムの推進に向けて、新たな社会資源の発掘や地域の関係機関や関係団体とのネットワーク構築を図る。 ・ 総合事業利用対象者に対し、適切なサービスが効果的に提供されるよう必要な援助を行う。 			
項目	具体的な活動計画	自己評価		
センター業務	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護予防事業、住民主体のサービス、インフォーマルサービス、基本チェックリスト、いきいき活動手帳等を活用し事業対象者、要支援認定者等のニーズに合わせたサービスを提案し利用に繋げる。 ② 把握した住民主体の活動の場やインフォーマルサービスについて、高齢者が地域活動に参加できるようネットワークを活用し情報を提供する。 ③ 地域住民を対象に千葉市介護予防・日常生活支援総合事業の講座を開催し、制度の理解、周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 住民の介護予防のため、介護予防支援や介護予防ケアマネジメントのみではなく、介護予防事業や住民主体のサービスも活用しながらケアプランを作成することが出来たと思われる。しかしながら、基本チェックリストによる事業対象者の抽出、いきいき活動手帳を活用した取り組みは行っていない。これについては、基本チェックリスト実施後の評価方法が不明確であったり、活動の繋ぎ先が無いなど社会資源不足が否めないと思われる。千葉市のパンフレットを活用し、基本チェックリストマニュアルを作成することで取組が進みやすくなる可能性はあると考える。また千葉市の介護予防に関するパンフをセンター外部に配架し、興味を持った方に対して実施することが望ましい。 ② 把握した住民主体の活動やインフォーマルサービスについて社会資源ファイルの更新やセンター内外の配架方法の工夫により情報提供がわかり易く行うことができた。 ③ 住民向けの自前講座の中でも介護保険、千葉市総合事業の制度の説明を行い、大まかな理解を得ることはできたが、詳細について総合相談支援の中で提供されることが効果的であった。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規相談に対し、朝礼及び3職種会議において対象者の報告及び支援方針の検討を専門職のチームアプローチで行う。特に生命、権利擁護に関することは対応の都度、報告と支援方針について検討、決定を行い専門職で共有する。 ② 年に1回、総合相談の実績を集計し、地域ケア会議において地域の課題を分析し把握する。 ③ 関わりが少ない地域であんしん主催のイベントを開催、出張相談会を併設する。 ④ 終活に関わる社会資源ファイルを更新し、情報提供しやすいように整理する。終活に関する相談実績を振り返り、課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 総合相談支援において、朝礼や3職種会議でのケース検討を行うことは出来ており、チームアプローチの手法により偏りのある支援を避けることが出来た。高齢者虐待など権利擁護に関するケース、他にも必要に応じて、適宜、ケース検討を行うことが出来たこと、つまりタイムリーに話し合うことが、高齢者支援においてはより効果的であったと評価している。 ② 総合相談の集計に関しては毎月行っているものの課題分析は十分ではない。課題分析については、年次計画により時期を明確にして取り組む必要があり、次年度の年間計画で日程を明確化することとした。日頃の個別の支援において把握されている課題との比較など、分析方法についても検討が必要である。 ③ 関わりが少ない地域だけを対象にはしていないが、地域の商業施設内での出張相談や夏祭り、対象者を特定しないサロンの開催を行い、多世代、様々な地域の方と接触が出来る機会づくりに取り組むことは出来たと考える。 ④ 終活に関しての情報提供は準備できていると言える。ただし、「終活」の相談として対応するよりも、総合相談の中で終活に関連することがほとんどであり、潜在的な終活に関連する課題を逃さないように面接技術を向上させる必要がある。終活に関連する相談内容及び対応について、センター内での共有が必要である。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ① 権利擁護に関する専門研修の受講及び他専門職への伝達研修を徹底する。 ② 虐待疑いケースであっても高齢障害支援課や警察・消防署と連携し、千葉市高齢者虐待防止マニュアルに準じ、タイミングを逃さず適切な支援を行う。 ③ 地域住民及び介護支援専門員に対し、「高齢者虐待防止、成年後見制度」の講座を開催し周知に努める。 ④ 消費者被害を未然に防止するために、警察や千葉市消費生活センターと連携し、被害に関する情報を把握し、サロンや個別訪問において消費者被害に関わる内容と防止策についての情報を提供する。被害に合われた方へは直ちに関係機関と連携し、対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 美浜区あんしん4センターの社会福祉士で連絡会を開催した。事例検討及び成年後見制度の支援団体を講師に招き勉強会を実施。専門職としてのスキルアップを図ることができた。 ② 虐待疑いケースへの事実確認や対応をスピーディーに関係機関と連携して行うことができた。また、千葉西警察署からも情報提供や支援の依頼が入ることが増えており連携が深まった。 ③ 年間を通じ総合相談支援、介護予防支援での利用者、介護予防活動に参加されている住民、圏域のCM、サービス事業者に対して、消費者被害の最新情報を提供するとともに、詐欺被害の防止について、警察官に講師を依頼して普及啓発を行うことができた。 ④ 当センターの専門職が千葉市消費センターの定例会や千葉市高齢者等悪質商法防止ネットワーク会議に参加、あんしんケアセンターの周知を行うと共に、悪質商法や詐欺被害防止についての連携を確認することができた。今年度はあんしんケアセンター真砂として地域住民や民生委員、サービス事業所に対して高齢者虐待防止、成年後見制度に関する講演会、勉強会の実施ができた。引き続き、社会福祉士が担当者となり、定期的に消費者被害に関する情報を把握し、センター内で周知することも出来ていた。地域ケア会議、ケアマネ連絡会、住民向けの体操会、介護者家族の会等で情報提供や警察署への講師依頼などでより地域住民への防止意識を高めることが出来たと考える。 	
	ケアマネジメント 包括的・継続的支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域ケアマップを作成する。作成においては関係機関、関係者と連携し、ネットワーク構築につながる取り組みとする。また、総合相談及び介護予防支援における個別支援を適切に行い、情報収集や実態の把握を行う。 ② 地域ケア会議を4回開催する。前年度、抽出された課題に対して対策を検討し、実行する。また前年度出来なかった個別事例解決の為のケア会議を開催。 ③ 圏域のケアマネジャーに対し、アンケート実施し、連絡会、研修会テーマやあんしんケアセンター機能役割に対するの評価を行う。支援困難事例に対しては、直ちに同行訪問、関係機関とのケース会議の調整など担当ケアマネジャーへの支援を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の介護、障害、医療の関係機関、団体とのネットワーク構築の取組の一つとして、また重点項目として取組を行った「地域ケアマップの作成」については、骨子を纏めることはできたが、今年度内の作成、配布には至らなかった。次年度、早々に具体的な作業を進め、完成させることとした。委員会において、地域の医師やケアマネジャー、相談支援専門員やサービス事業者の方々と作成について話し合いができたことは有意義であり、自分たちがこの真砂地域で住民を支えるという意識を持ち、アピールすることが必要であるという共通認識を持つことができた。また、地域ケアマップの作成について住民が反応され、真砂地区地域運営委員会において、「真砂便利帳」の作成と当センターの地域ケアマップのコラボレーションが議題として持ち上がった。結果的に「真砂便利帳」の作成は保留となったが、住民が困った時に頼りにできる便利帳、マップが必要とニーズを把握できた。 ② 地域ケア会議については、地域課題に関するもの、個別の事例に関するもの、多職種連携に関するものについて実施している。地域課題についての会議についてはニーズ把握を再度行い、開催地域を選定したい。また個別の支援に関しては、担当者レベルで解決することが多いものの、あえて地域で支える視点で事例を検討することに取り組むたい。美浜区多職種連携会議については、介護と障害をテーマにケアマネジャーと相談支援専門員を中心に事例検討を行い、これまで参加を求めてこなかった専門職、機関の方々と、新たに開催することができた。参加者人数も前期80名、後期70名と増やすことができた。 ③ 地域のケアマネジャーの支援に関して、日頃の個別の支援に関する助言のほか、圏域内開催の連絡会、勉強会の他、美浜区主任ケアマネ連絡会主催の合同の事例検討会や研修会により、ケアマネジメントの質の向上を図ることができた。美浜区を超えて、様々な地域のケアマネジャーとの交流機会を提供できた。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ① 自治会・老人会・自主グループ等に向けて介護予防講座を実施し、介護予防に関する情報を提供する。新たな活動については生活支援コーディネーターと連携、把握し地域の高齢者に情報提供を行う。 ② サロンぐるりをあんしんケアセンターと自治会で共催し、集いの場の提供と単身、高齢世帯への適切な支援、介護予防に関する普及啓発を行う。 ③ 総合相談の場面において基本チェックリストを実施。身体と心の状態を高齢者自身が把握でき、取り組むべき介護予防活動を知ることを支援する。加えて繋ぎ先の活動への情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護予防に関する基礎知識や介護予防活動、あんしんケアセンターの周知などの普及啓発活動を多岐にわたり実施できている。例年のように、講演会や体力測定、体操会の依頼がある一方で、これまで依頼が来なかった地域、マンションからも講演会の依頼が来るようになっており、日頃の個別の支援が徐々に浸透していることを実感している。また、これまで高齢者中心であった普及啓発活動を子供、孫の世代を含めた多世代に向けて発信する取組として行っている。これからの、より若い世代にもあんしんケアセンターの周知や介護予防に関する普及啓発活動を進めていく必要があると感じている。真砂圏域内のある商業施設へ働きかけを行い、パンフレットの配架、出張相談会等のイベント、認知症サポーター養成講座の実施などを次年度では取り組みたいと思う。 ② 介護予防に自ら取り組み方法について伝え、社会参加、いきがい作りに繋がるように情報を整理し、提供できる体制を整備した。センター内だけではなく、外部通路にもパンフレット等を配架することによって住民の手に渡ることが増えている。次年度、パンフレットスタンドを追加するなどして、より住民の目に触れ、手にして頂けるように工夫していきたい。 ③ 基本チェックリストの実施にあたり、住民への働きかけの方法、実施後の評価についてマニュアル作成などの準備が必要であった。 	
地域介護支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き、あんしんケアセンター専門職が分担して圏域14カ所の各活動へ参加し、活動への助言及び支援を行う。各活動での交流を通じて新たな活動団体を発掘したり、新しい活動の種を発見し、生活支援コーディネーターと連携し活動団体の立ち上げ支援に繋げる。サロンぐるりの運営を自治会と共同で開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域住民の活動団体に、あんしんケアセンターの専門職が分担し年間100回を超える活動支援を行うことができた。また昨年度、あんしんケアセンターで主催していたサロンの開催を自治会と共催し年間3回実施した。地域住民にとって自らに関わる集いの場を運営することができ、介護予防、地域の見守りの意識の向上に繋がった。また、自治会からサロンのプログラムについても意見を頂き、主体的な取り組みに変化している。サロンの運営や住民の地域活動へ、生活支援コーディネーターにも参加してもらった機会を増やしたことで企画、準備に関しての助言の幅が広がっている。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域住民、団体、企業、学校を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の正しい理解を深めながら、認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりをすすめる。 ② 利用者のニーズに視点を置いた介護サービス事業者の選択を行い、特定のサービス事業者に偏ることのないよう、公正・中立を確保しながら支援を行う。 ③ 美浜区住民組織と顔の見える関係づくりと連携、協働体制構築のため「美浜区支え合いのまち推進協議会」に委員として参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 認知症サポーター養成講座について住民だけではなく、企業やその家族、ボランティア団体、小学生と様々な対象者に向けて実施できたことで、対象者別に認知症の理解を進めることに取り組むことが出来、講座の内容もレベルアップ出来たと感じている。他のあんしんケアセンターの講座内容も参考にしたい。 ② 利用者のニーズに視点を置いた介護サービス事業者の選択を行い、特定のサービス事業者に偏ることのないよう、公正・中立を確保しながら支援を行うことが出来た。 ③ -1真砂地区地域運営委員会や美浜区支え合いのまち推進協議会に参加することであんしんケアセンターの周知を図ることができた。 ③ -2美浜区の他のあんしんケアセンター管理者及び各専門職が定期的に会議を行い、顔の見える関係と連携協働体制が構築された。美浜区あんしん4センター合同の研修会や行政・多職種の連携会議の開催を行うことができた。個別の支援を通じて美浜区保健福祉センター高齢障害支援課、健康課、社会援護課各課とも情報共有を行い、良好な連携体制がとれている。 ③ -3あんしんケアセンター及び指定介護予防支援事業の運営に関しては、都度、地域包括ケア推進課、介護保険事業課、介護保険管理課と連携をとり行うことができた。 		

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 磯辺		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(3) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	57,709			
	高齢者人口	12,226			
	高齢化率	21.19%			
担当圏域 地区課題	地区により高齢化率や地域特性にも大きな差がある。美浜区の中でも磯辺は高齢化率が高い地区。圏域内には2ヶ所の県営住宅があるが、それ以外は持ち家率は高く、比較的経済的に安定している。エレベーターのない中層団地が多く外出困難となってくる。圏域内には医療機関、介護事業所、商店などの社会資源が少ない。				
活動方針	各関係機関（保健福祉センター、医療機関、民生委員、自治会、社会福祉協議会等）との連携を深め協働するとともに、各地区の課題を明確にし、地域包括ケアシステムの構築へ向けて取り組む。また、関係機関との連携を取りながら地域での住民主体となれる活動の促進を図る。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ニーズに合ったサービスに繋がられるよう、社協や生活支援コーディネーター等と連携し、地域の資源や情報等の把握に努め、利用促進に繋げる。 磯辺地区の支え合い訪問サービス試行へのサポート。 基本チェックリストの実施といきいき活動手帳の活用。 		<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターから情報を共有できる機会は増えてきたので、来年度も資源の共有を図り、広く住民に情報提供できるようにしていけるよう取り組む。 重点項目としても挙げた「磯辺地区の支え合い訪問サービス」は定例会に参加し、役割分担や2か月に1回事例報告をし合う事が出来るまでになっている。継続したサポートをする事で、モチベーションをキープ出来るようにしていくと共に、介護保険では賅えず困ったケース等をケアマネから聴取し、住民主体の支え合いでの検討項目に出来るようにしていく。 総合相談や体操教室で全体に向けて基本チェックリストを実施する事はフォローも含めると難しかった。来年度は、サロンや体操教室等で気になる方を対象に実施し、事業対象者のリストを作成し確認をしていく。また、ヘルプサポーターを育成できるように検討をしていく。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 相談内容を共有、検討しチームとして支援ができるようにする。 3職種会議を活用し、継続なのか終結しているのかを明確にする。 地域のサロンへ計画的に参加し、センターの周知、顔の見える関係作りをする事で早期相談に繋がられるようにする。 相談受付の内容を集計し、地区ごとの分析を行い地域への情報提供を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ケース会議の時間が確実に設けられるようになったことで、ケースの把握がし易くはなったが、継続ケースの経過報告が現実とは言いえない状況。年間表での管理を確実にし、経過を追っていけるようにしていく。 磯辺地区の支え合い世話人や協力員の知識を深められるように関わりを持ち、住民のヘルスリテラシーの向上に繋がるようにしていく。 地域ケア会議の開催が定期的に行えるよう検討し、各地区の特徴をおさえながら、実務に活かせる支援者同士のネットワーク構築に来年度は力を入れる必要がある。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、区内センターの社会福祉士、区高齢障害支援課の連絡会の定期開催。 地域のサロンへ計画的に参加、消費者被害防止の啓蒙活動。 認知症サポーター養成講座の開催時に権利擁護の内容を含めた啓発を行う。 成年後見制度の講座を開催。 		<ul style="list-style-type: none"> 年3回の区社会福祉士連絡会では、ケース検討や講師を招いての勉強会を実施することができたが、共通の課題や何かに取り組むという所までには至らなかった。来年度は、連絡会の在りよう等について再度、他センターとも話し合いが必要。 体操教室のフォローアップやサロン、民児協会議等に参加させてもらい、消費者被害防止のポイント等を伝えていく。 	
	ケアマネジメンツ包括的・継続的支援	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネ全体を取り巻く状況・資質向上を目的に、美浜区主任ケアマネにて3ヶ月に1回の事例検討会を平成30年度から実施していく。 介護支援専門員からの個別困難ケースの相談へ適切に対応。必要に応じて、同行訪問を実施。 多職種連携会議の開催。 美浜区連携の会へ運営委員として参加し、顔の見える継続的な連携作り。 		<ul style="list-style-type: none"> 事例検討会の実施に終わり、ケアマネが抱えている課題の収集や分析に至らなかった。主任ケアマネの状況によっては意見交換が出来ず、また、1センターだけでは決めにくいこともあり、実行に苦慮した。 多職種連携会議、美浜区連携の会は継続して開催を計画していく。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 幕張西公民館でのセンター主催の体操教室の開催。 Deカフェでは孤食防止を視野に入れられるよう内容を再検討。 なのはなカフェの運営方法の再検討。 地域のサロンへの計画的な参加。住民への各種講座の開催。 認知症サポーター養成講座の開催。その中で住民等が感じている地域課題を掘む。 美浜区認知症キッズサポーター養成講座の協力実施。 		<ul style="list-style-type: none"> 幕張西公民館の体操教室を、来年度自主化できるか検討し、新たな居場所作りを模索する。 幕張西地区の居場所作りとして住民が何を求めている、どの様な形であれば協力頂け、主体的に動けるのか意見交換が出来る機会を設ける。 住民のキャラバンメイトと協力し、地域の認知症サポーターを増やしていく。 年間を通して、様々なものに取り組んだが、報告書の整理、管理が不十分だったので、開催・参加したものに関しては、記録を残し職員間で共有できるようにしていく。 	
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 磯辺地区の支え合い訪問サービス試行へのサポート。 幕張西地区の見守り活動へ自治会毎に協力。 幕張西地区においては活動拠点を更に1か所増やせるよう内容も含めて検討。 タウンカフェにおいて、ケアマネ参加型の相談体制作り。 地域の自主的な体操教室への定期的なフォローアップをする事でモチベーションを維持させる。 地域リハビリテーション活動支援事業の活用。 既存の活動している住民団体への講座開催。 		<ul style="list-style-type: none"> 磯辺地区の支え合い訪問サービスへの継続的支援は行い、地域毎に抱える苦勞を共有し、課題解決に向けて取り組む。 圏域における体操教室はクローズしてしまう所もなく、順調に活動している。今後も住民が主体的に取り組めるように地域リハビリテーション活動支援事業等を上手く活用しながら支援していく。 幕張西地区の見守りに関しては、実施している各自治会の会議に参加したかったが、こちらからのアプローチも上手く行えず、全体会議に出席したのみで終わってしまった。県営住宅海浜幕張団地でも実施に向けての話し合いが行われ始めたので、動向を見守り、介入できる機会を見つけていく。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 市で実施する公正中立調査の他、ケアマネ紹介表を定期的に集計をし、偏りがないように把握していく。 相談内容が複雑化してきているので、研修に積極的に参加し実践に活かせるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 関わりの持てる居宅介護支援事業所を1つでも増やし、委託先探しの負担軽減に努める。 各職員のスキルアップに繋がるよう研修計画を立てる。 	

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 高洲		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(2) 人	(3) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	45,922	
	高齢者人口	12,445	
	高齢化率	27.10%	
担当圏域 地区課題	<p>当地域における高齢者像を大別した場合、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当地において以前より暮らされるコミュニティーをもった方々 2. 他県、他地域より新たな環境を求めて転入された健康面・経済面に恵まれた方々 3. 同じく他県より転入されたが身寄りが無くコミュニケーションツールもない、引き籠もりがちな方々 4. 高齢者世帯、同居者がいながらも疾患等抱える世帯の増加により、対象者の支援が困難になっている方々 <p>当センターとしては、引き続き 3、4 に該当される方々の状況把握と課題解決に向け、積極的関与を引き続き行う。認知症高齢者、身寄りのない住民からの相談が増えており、外国人高齢者の相談が増えていくことが今後の課題と考えられる。</p>		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が住み慣れた地域で安心した生活が過ごせるように積極的に関与していく。 ・総合事業開始にあたり、地域の社会資源の把握に努め対象者に適切なケアマネジメントを行っていく。 ・地域で起こる問題に対してワンストップ窓口となれるように引き続き努める。 ・住民に対して所在を明確化し、行政の担当部署に対し積極的関与を促すための連携を図っていく。 ・各種会議への参加、開催により他機関との連携強化に努める。・住民型サービスの周知活動により地域の活性化を図る。 		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・日常生活支援総合事業利用者の自立支援に向けたケアプランを作成。 ・基本チェックリストの活用、適切なアセスメントにより、ケアマネジメントの質を高める。 ・地域活動をしている機関との連携を図り情報を共有。 ・社会資源、住民の場の情報収集をし、資料作成し提供していく。提供していくことで総合事業にも反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自センターでのプラン作成においてはサービス事業者が偏る面があった。これは総合事業の影響によるものだが、今後、利用者本位のサービスの位置付けを行いながらも公正中立を図っていく。 ・委託事業所のケアプランの管理に関しては、対応が不十分となることもあったことから、責任をもった管理を心がけ実施していく必要がある。 ・相談の中で介護保険サービス、社会資源の利用をうまく位置づけた一方で、事業対象者の支援に結びつける機会がなかったことを今後の課題とする。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携、担当者会議開催における情報を共有。 ・地域ケア会議を開催。 ・多職種連携会議を開催。 ・データ分析における実態、社会資源の把握に努める。 ・在宅医療や介護に関する情報収集に努め、連携体制づくりに取り組む。 ・相談が1つの機関に偏らないよう、関係機関が集まる場をもうけ役割を決める。 ・外国人高齢者の相談対応の体制を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な相談業務のデータを取り地域分析をしていく中で、業務の取組みを効率的に行うよう努力した。 ・定期的に施設の空き情報を確認し緊急に起こりうる事柄に対応するとともに、連携の強化に努めた。在宅サービスでの限界を判断し、施設入所を進めていくケースが多かった。 ・地域ケア会議、多職種連携会議においては計画性をもち開催することで引き続き関係機関との連携強化に努めることが出来た。 ・相談が多い中、随時センター内で話し合いをもうけ役割を明確にした。また、過去の相談に対しても、アプローチをかけていることで近況を把握している。 ・関係機関の役割を確認する機会をもうけているものの、地域包括支援センターに回されてくるケースは多く、たらい回しにならないよう適した機関を紹介したり解決への導きを行っている。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携会議や担当者会議開催における情報を共有する。 ・地域住民、自治会、民生委員等を対象とした、啓蒙のための講演会を実施（認知症、後見、虐待、消費者被害）する。 ・成年後見チェックシートの活用（現状→予防→介護→終末）のプロセスを伝える。 ・虐待事例ケースにおける区との連携を図る。 ・認知症サポーター養成講座を実施する。 ・区、区内あんしんケアセンター社会福祉士の連絡会を実施する。 ・各教室、サロンに消費者被害の情報を提供する。 ・警察、消費生活センターとの連携を図り、消費者被害の予防啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後見制度を活用する住民が増えているものの、スムーズに物事を進めることは難しい。その為、各職員が知識を豊富にし利用者を納得させていく必要がある。その為に関係機関と連携を図り、一緒に動いていくことで学んだり、申し立ての手伝いや後見人のフォローにあたっていった。これから制度利用がより増えていくことが想定される中で、来年度の課題としてあげていく。 ・虐待報告はほぼケアマネジャーからで、アセスメントの見直しから始め、同行訪問、関係機関との集まり場の提供や紹介を行い、支援に結びつけている。後方支援者への報告を行い、指導をもとに解決に向け努力することが出来た。また、養護者への支援をしていく中で家計相談の機関との関わりも増えている。 ・消費者被害の相談件数もみられている中で、警察との連携を図り防犯講話の企画を行ったり、地域ケア会議に参加していただく中で、共に地域の課題を共有することが出来ている。
	ケア包括的・継続的 マネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携会議において区センターと連携を図り、様々な職種との連携を心がける。 ・各項目に応じた地域ケア会議を開催。 ・関連機関との連携、担当者会議開催における情報を共有。 ・介護支援専門員事業所との連絡会を開催。 ・社会資源を記した「サポートブック」の更新を随時行い配布。 ・地域の居宅介護支援事業所を訪問。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務が多い中、美浜区合同で行う大規模な連絡会への参加や企画が難しくなってきた。センターの圏域に絞って連絡会を行っていくことを計画し始めている。 ・ケアマネジャーからの相談記録簿を作成し、相談を受けた職員以外も対応出来るように記録を残している。 ・関係機関との連携体制の構築、強化は意識し、ネットワーク作りを行うことが出来ている。 ・地域ケア会議においては新しく始まった自立促進ケア会議をよく理解していく中で、ケアマネジャーへ報告出来る体制を作ったり、個別、地域課題の分析解決のための会議の出席も検討していく。 ・多職種連携会議も多くの機関の参加が増えている中、共通したテーマに沿った会議が開催出来ている。
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防イベントを定期的に行い、各機関で行われる体操教室の普及啓発にあたる。 ・地域住民の方々を対象とした講演会を実施する。 ・小中学校や地域住民に向けた認知症サポーター講座を実施。 ・民生委員連絡会に参加。 ・地域の幼稚園との合同納涼祭を実施。 ・地区食事会への参加による社会福祉協議会との連携（1回/月）を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講義の実施、イベントの参加により例年通りの普及啓発活動は出来た。ただし、区民フェス等規模が大きく、参加住民の世代の幅が広いイベントでのアンケートを確認すると、あんしんケアセンターの存在を理解していない住民も多いと感じた。今後においては、1つの地域に偏ることなく活動していく必要がある。その為、活動内容をしっかりと記録に残していく。 ・年々民生委員の方々との連携は増えており、今年度においても住民からの訴えをあんしんケアセンターにつないでいただいたケースは多い。会議の出席、同行訪問、イベント参加と共に活動していく中で信頼関係が出来ている。
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアリーダー体操等の活動を出来る場所を確保し、地域の予防の場を増やす。 ・リサイクルを活用した福祉用具等の情報提供及び貸出の実施。 ・ラジオ体操の継続、見守りを行い、その中でのUR職員との情報共有を図る。 ・脳トレ教室へのサポートを実施。 ・社会福祉協議会との連携におけるボランティア養成講座の開催。 ・いきいきプラザと連携し、自主ボランティア活動をしている機関への支援を実施。 ・シニアリーダーとの連携会議を実施。 ・地域のサロンへの支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自センターで立ち上げている予防活動は継続し、安定した人数の参加が見られている。UR、シニアリーダー、いきいきプラザ、警察、各サービス事業者との共催によりイベントを盛り上げている。 ・地域の中心となる商業施設での定期的イベントは、実施はしたものの、場所の規制により大幅に参加者が減少した。来年度以降は、中心となる機関を他に委託し見守る立場として関わっていく。 ・ラジオ体操の予防活動においても住民型に移行し、何か要請があればすぐに対応していく準備を整えている。 ・ボランティアの支援活動においては、関わる機会が少なかったため今後検討していく。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・区内4センター合同の事業を計画し実施。 ・時間外対応の見直しを図る。 ・特定の居宅介護支援事業所へのプランの委託、サービス事業者数を随時調査していくことで公正・中立を図る。 ・苦情対応の書式、マニュアルの見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に積極的に参加することで、質の向上を図り他の職員に報告していくことでセンター全体のスキルアップを目標としたが、参加機会が少なかった。 ・地域の居宅支援事業所、サービス事業者との関わりを強化し公正中立を図るとともに、インフォーマル資源の開拓を行っていく。 ・苦情を起ささないことを前提に予防していく中、過去のものを整理し読み直し注意を図った。

※人口データは平成30年6月30日現在

平成30年度千葉市あんしんケアセンター—運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 幸町		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	19,924			
	高齢者人口	5,771			
	高齢化率	28.97%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢独居世帯の孤立化や孤独死の問題、賃貸住宅の退去、認知症、精神障害、権利擁護の絡む複合的な問題にも取り組む必要性がある。 ・若年層支援の必要性も高く、ネットワークの構築が必要。 ・エレベーターのない5階建ての団地では、上層階に住む高齢者の外出問題もある。 				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市あんしんケアセンターの運営方針に基づき、市と連携を図りながら地域包括ケアシステムの構築、強化に取り組む。 ・精神疾患や認知症、外部との接触を拒否する住民の存在に対し、状況把握と課題解決に向け取り組んでいく。 ・既存のネットワークと連携を図り、高齢者の外出の場づくり、見守り、声かけを実施する。 ・高齢独居世帯などに対して、健康教室や勉強会などへの参加を促し、予防的な視点(地域リハビリテーションの構築も含む)での関わりを強化する。 ・家族関係や地域との関わりが希薄化する中で、高齢者の現状だけでなく将来的な問題を見据え、子どもの頃から地域の福祉力の向上を図る。 				
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価		
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援のために、介護予防ケアマネジメントの質の向上を目指す。 ・対象者に適した事業参加の推進を行う。 ・健康課や区内のセンターと計画的に連絡会を開催し、連携を図る。 ・専門職である理学療法士等と協働し地域課題に合わせ、介護予防の取組みを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業について意見交換し、自立支援に向けての課題について検証した。 ・対象者に適した事業参加の推進を行うため、地域活動の把握を行った。 ・地域組織と地域支え合い型支援事業の立ち上げに関して検討することができた。 ・業務の中で総合相談の占める割合が多く、介護予防事業への働きかけは十分にできなかった。 ・事業対象者がいなかったこと、住民主体の事業が無いことで「いきいき活動手帳」の活用ができなかった。 		
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関との地域ケア会議や連絡会を開催し、多職種連携を図る。 ・地域住民と協働で見守りを行う体制を強化し、課題や問題の早期発見に繋げる。 ・高齢者により身近な機関(郵便局、スーパー、コンビニ)等と連携を強化する。 ・若年層を含め継続支援が必要なケースに対し、各関係機関と連携を図り、フォローしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な支援を行うため、センター内で検討し、各関係機関との連携を図った。 ・問題の早期発見、緊急性の判断、迅速な対応に努めた。 ・ネットワーク構築を図り、ワンストップサービスの実現を目指した。 ・相談ケースが急増し、センター内での事例の振り返りや対応方法の検討ができなかった。 ・緊急性を要するケースも多く、慢性的な問題を抱えているケースの対応や継続支援は難しい。 ・緊急時に利用できるサービス及び社会資源が少ない。 		
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・対応に時間を要する複合的なケースの早期解決に向け、多職種との連携を強化する。 ・センター独自のパンフレットを作成。地域に向けて、権利擁護の講座を開催する。 ・虐待の早期発見に向け、気づきの意識が高められるよう関係機関や地域住民に対し啓発活動を行っていく。 ・高齢障害支援課や区内のセンターと定期的に勉強会や事例検討を行い、情報の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の状態、状況に応じて日常自立支援事業や成年後見制度の検討、紹介を行った。 ・高齢者虐待や成年後見制度の啓発があまり実施できなかった。 ・ケアマネジャーから消費者被害について報告をもらい、情報、被害防止のため、地域の関係機関と連携を図った。 		
	ケア マネジメント 継続的 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員からの相談に適切に対応するため、体制を整備する。(職員の役割分担や育成) ・介護支援専門員の連絡会を開催し、抱えている悩みや課題、ケアプランの現状等を把握する。 ・医療介護連携のためのネットワークを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困難事例に関して、後方支援を行った。 ・研修会や多職種連携会議を開催し、介護支援専門員のスキルアップを図った。 ・圏域内の居宅介護支援事業所との連絡会や事例検討会などの開催ができなかった。 		
	介護 予防 普及 啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、圏域内の事業所、地域住民に向けて認知症サポーター養成講座を行う。 ・徘徊模擬訓練等、地域の認知症対応力の向上を図る。 ・センター主催の体操教室を継続する。 ・社会参加の機会が少ない高齢者や引きこもりの方へのアプローチ方法を検討し、介護予防に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加できている方の活動場所の確保はできているが、引きこもりの方へのアプローチ方法の検討ができていない。 ・講座や徘徊模擬訓練などのイベントを関係機関と協働して開催することで、地域の連携が深まった。 		
	地域 活動 介護 支援 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の自主サークルの立ち上げ、居場所づくりを支援する。 ・幸町2丁目一人暮らし高齢者等見守り支援事業(みまも〜れ幸町)を見直し、現状の地域課題に合わせて運営する。 ・社会福祉協議会や社会福祉法人と協働し、新たな人材育成や発掘を行う。 ・専門職と協働して、地域での介護予防運動に取り組む。 ・地域活動の広報、支援を行う。 ・早い段階から介護予防や地域づくりに参加してもらえるように、仕組みづくりを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2丁目連携会議の分科会で階段昇降機の活用を検討。新たなボランティアグループが立ち上がった。 ・活動の担い手の確保が難しい。 ・人材発掘や育成について支援検討できていない。 ・今まで関わりが少なかったマンションで講座を開催したことで、新たな関係性を築くことができた。 		
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・公正中立な組織運営を行う。 ・個人情報の取り扱いに留意する。 ・職員の資質向上の為、育成計画を作成する。 ・効率的な組織運営を検討する。 ・あんしんケアセンターの機関誌の作成、配布。 ・地域のイベントへ積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取扱いに関し、適切に対応できるように法人内で検討を行っている。 ・広報誌は作成できているが、あんしんケアセンターの機関誌の作成ができていない。 ・周知が足りない地域もあるが、地域の広報誌や住民の紹介であるしんケアセンターの知名度が向上している。 ・効率的な組織運営について検討。強化を図る必要がある。 		

※人口データは平成30年6月30日現在